

第2章 統計

第1節 実績の概要

第1 産科部門診療実績

産科部門については、県内全ての分娩取扱医療機関（病院、診療所、助産所）に周産期情報の提供を依頼し、県内の周産期医療の現状を把握できるようにしている。

対象医療機関は10病院、15診療所、7助産所となっている。

本調査による本年の総分娩数は8,699例であった。うち病院が3,498例で40.2%、診療所が5,013例で57.6%、助産所が188例で2.2%となっている。全国の傾向と同様に県内でも分娩数は減少している。

早産と定義される37週未満の分娩は422例で全体の4.9%となっている。また低出生体重児は753例で8.7%となっている。診療所でも230例（全低出生体重児のうちの30.5%）の低出生体重児を扱っている。高年出産とされる35歳以上での出産は2,336例あり、全体の26.8%となっている。

合併症妊娠では糖尿病（妊娠糖尿病（GDM）を含む）が最も多く228例となっている。産科合併症は切迫早産・前期破水が776例で最も多い（表13）。

表13 2020年産科部門診療実績

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
分娩様式	総分娩数(例)	818	617	143	337	1,583	5,013	188	8,699
	経膈分娩	501	389	82	290	1,168	4,129	188	6,747
	帝王切開	317	228	61	47	415	884	-	1,952
	うち予定	133	130	30	29	249	444	-	1,015
	うち緊急	184	98	31	18	166	440	-	937
	帝王切開率(%)	38.8	37.0	42.7	13.9	26.2	17.6	-	22.4
分娩週数 (死産児は除く)	35週未満	80	46	6	-	2	3	-	137
	35週	37	29	2	-	5	16	-	89
	36週	43	37	7	6	35	77	-	205
	37週	129	119	27	29	185	412	7	908
	38週	209	146	34	74	365	1,127	39	1,994
	39週	164	114	34	103	445	1,620	74	2,554
	40週	133	114	28	97	430	1,348	60	2,210
	41週	36	46	8	29	119	404	8	650
	42週以上	-	-	-	1	-	8	-	9
不明	-	-	-	1	-	-	-	1	
出生体重 (死産児は除く)	1,500g未満	38	13	1	-	2	-	-	54
	1,500-1,999g	42	33	6	2	4	5	-	92
	2,000-2,499g	147	99	19	24	93	225	-	607
	2,500g以上	603	506	120	313	1,487	4,785	188	8,002
出産時年齢	35歳未満	514	345	79	244	1,201	3,853	133	6,369
	35-39歳	224	178	39	83	304	1,003	51	1,882
	40-44歳	72	88	22	10	74	159	4	429
	45歳以上	8	6	3	-	4	4	-	25

次ページへ続く

(例)

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
合併症妊娠	子宮筋腫	45	34	14	16	31	38	4	182
	子宮筋腫(核出術後)	3	17	-	4	7	6	-	37
	卵巣嚢腫(腫瘍)	13	15	6	4	19	15	-	72
	子宮頸癌(含円錐切除後)	8	15	-	-	19	12	-	54
	子宮形態異常	3	7	-	1	1	2	-	14
	甲状腺機能亢進症	14	8	1	3	14	17	-	57
	甲状腺機能低下症	23	29	8	7	26	41	-	134
	糖尿病(含GDM)	74	35	17	29	51	22	-	228
	喘息	17	13	7	27	28	52	-	144
	慢性腎炎	4	2	-	2	1	-	-	9
	本態性高血圧	8	4	-	1	2	-	-	15
	特発性血小板減少性紫斑病(ITP)	3	2	-	-	1	-	-	6
	自己免疫疾患	6	6	-	2	8	1	-	23
	循環器疾患	11	2	1	3	13	-	-	30
	精神科疾患(含てんかん)	34	29	3	8	11	7	-	92
	ウイルス性肝炎(※1)	4	2	1	2	1	4	-	14
	消化器疾患(※2)	5	1	-	2	9	11	-	28
	その他	30	34	8	-	28	9	-	109
産科合併症 (重複あり)	切迫早産(※3)・前期破水(※4)	168	130	19	17	199	243	-	776
	妊娠高血圧症候群	59	39	9	11	65	100	-	283
	胎児発育不全	46	33	3	5	22	34	-	143
	多胎妊娠	51	38	3	2	4	2	-	100
	前置胎盤	9	12	4	1	2	3	-	31
	子癇	-	-	1	-	4	-	-	5
	弛緩出血(※5)	93	82	15	61	166	159	2	578
	常位胎盤早期剥離	11	8	1	2	6	8	1	37
	HELLP症候群	3	3	1	-	6	2	-	15
	低置胎盤	3	7	1	-	4	8	-	23
	血液型不適合	5	9	3	4	9	8	-	38
	羊水過多	15	4	2	-	1	11	-	33
	羊水過少	12	10	2	4	8	34	-	70
	先天異常	47	4	4	-	9	13	-	77
その他	90	25	-	-	4	4	1	124	
産科手術他	子宮頸管縫縮術	19	3	-	3	11	11	-	47
	卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	8	4	-	-	4	1	-	17
	産道血腫除去術	4	-	-	-	3	11	-	18
	子宮動脈塞栓術	3	7	-	-	1	-	-	11
	子宮摘出術	-	4	-	-	2	-	-	6
	胎児胸腹水穿刺	1	-	-	-	-	-	-	1
	その他	-	6	-	-	-	-	-	6
輸血治療症例	17	17	-	2	6	2	-	44	

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など／※3 入院のみ／※4 早産期／※5 羊水を含む出血量800ml以上、帝王切開1500ml以上

※ 参考

1 医療機関別特定妊婦数および未受診妊婦数

各医療機関において分娩を取り扱った患者のうち、市町村が認定した特定妊婦の数について集計を行った。また未受診妊婦（受診回数3回以下、または最終受診日から3ヵ月以上の受診がない）についても集計した。

医療機関等において特定妊婦と思われる者を把握したときには、支援につなげるため、市町村に情報提供することが児童福祉法において努力義務として求められている。県内医療機関においても関係機関との連携に努めているところである（表14）。

表14 医療機関別特定妊婦および未受診妊婦数報告内訳

		奈良 医大	県総合	近大 奈良	天理 よろづ	市立 奈良	大和 郡山	大和 高田	高井	桜井	生駒 市立	診療所	助産所	計
2020年	特定妊婦数	37	22	-	7	8	-	18	2	1	6	29	-	130
	未受診妊婦数	1	3	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	7
	計	38	25	-	8	8	-	18	2	1	7	30	-	137
2019年	特定妊婦数	34	11	1	-	16	-	18	-	3	-	51	-	134
	未受診妊婦数	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	計	36	14	1	-	16	-	18	-	3	-	51	-	139

※各医療機関において分娩を取り扱った患者が対象

<妊娠の届出（母子健康手帳の交付）等の状況>

市町村への妊娠届出数のうち保健師が面談、アセスメント等を行い支援が必要となった妊婦の数および特定妊婦数について県内市町村分をとりまとめて集計している。妊娠届の遅滞は減少傾向にあるが要支援妊婦や特定妊婦数の減少は見られない（表15）。

表15 令和2年度妊娠の届出状況

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
総数	妊娠届出数	10,080	9,447	9,445	8,901	8,411	8,160
	支援が必要となった妊婦の数	1,296	1,384	1,995	1,803	1,817	1,808
	特定妊婦数	185	151	203	209	218	177
満11週以内 (3ヶ月以内)	妊娠届出数	9,507	8,971	9,034	8,526	8,032	7,891
	支援が必要となった妊婦の数	1,098	1,206	1,830	1,650	1,634	1,673
	特定妊婦数	122	104	158	155	157	138
満12週～19週以内 (第4月～第5月以内)	妊娠届出数	396	335	302	268	275	188
	支援が必要となった妊婦の数	130	106	103	101	115	81
	特定妊婦数	31	26	24	32	31	19
満20週～27週以内 (第6月～第7月以内)	妊娠届出数	76	55	53	44	50	32
	支援が必要となった妊婦の数	35	40	37	29	33	27
	特定妊婦数	16	8	16	10	12	8
満28週～分娩まで (第8月～分娩まで)	妊娠届出数	48	28	16	17	21	18
	支援が必要となった妊婦の数	22	22	14	17	20	16
	特定妊婦数	11	12	3	9	13	9
分娩後	妊娠届出数	9	1	7	2	5	1
	支援が必要となった妊婦の数	7	1	6	2	5	1
	特定妊婦数	2	0	2	1	2	0
不詳	妊娠届出数	44	57	33	44	28	30
	支援が必要となった妊婦の数	4	9	5	4	10	10
	特定妊婦数	3	1	0	2	3	3

※支援が必要な妊婦:各市町村がアセスメントにより支援が必要と認められる妊婦

※特定妊婦:出産後の養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦

(県健康推進課調べ)

第2 新生児部門診療実績

新生児部門については、奈良医大、県総合、近大奈良および天理よろづからデータ集計を行った。本調査による本年の新生児入院数は858例で、うち院内出生が692例、院外出生が166例であった。入院時疾患は呼吸器疾患が最も多く、273例であった。人工呼吸器管理症例数は180例で全体の20.7%であった。早期新生児死亡は6例、後期新生児死亡は2例で、死亡症例の詳細は下表のとおりである。新生児搬送症例数は155例で、搬送疾患名は呼吸器疾患が70例と最も多い（表16、17）。

表16 2020年新生児部門診療実績

(例)

施設名		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	合計
入院数	院内出生	358	210	46	78	692
	院外出生	58	65	40	3	166
主病名	呼吸器疾患	55	183	10	25	273
	心・循環器疾患	37	16	5	-	58
	消化管疾患	24	9	15	-	48
	脳・神経疾患	11	5	-	-	16
	染色体異常 形態異常症候群	26	13	1	-	40
	感染症	17	3	6	15	41
	代謝内分泌	18	1	2	16	37
	その他	321	107	37	58	523
人工呼吸器管理症例	入院数	427	275	86	81	869
	人工呼吸器管理症例数	101	61	11	7	180
	人工呼吸器管理症例率(%)	23.7	22.2	12.8	8.6	20.7
早期新生児死亡数		4	1	1	-	6
後期新生児死亡数		1	-	1	-	2
新生児搬送収容数		53	59	40	3	155
新生児搬送疾患名 (重複あり)	呼吸器疾患	10	53	7	-	70
	心・循環器疾患	8	5	2	-	15
	消化管疾患	8	5	18	-	31
	脳・神経疾患	3	-	-	-	3
	染色体異常 形態異常症候群	1	7	-	-	8
	感染症	8	5	-	-	13
	その他	16	29	13	3	61

表17 2020年新生児死亡例一覧

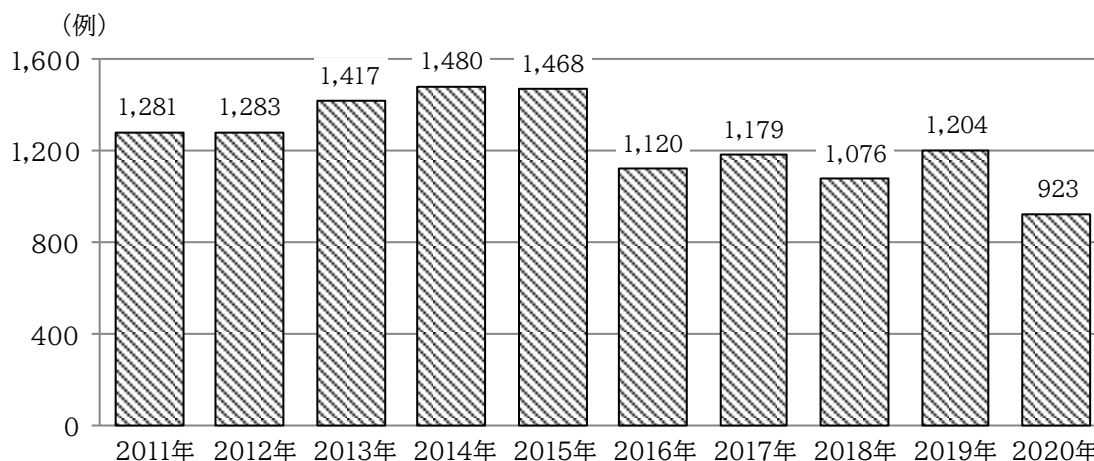
医療機関	性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
奈良医大	女	40週	2,804g	0	肺低形成
	男	30週	1,618g	2	低出生体重児 敗血症
	女	31週	2,810g	5	胎児水腫
	男	25週	864g	3	超低出生体重児 新生児仮死
	女	28週	974g	26	超低出生体重児 筋強直性ジストロフィー 腎不全
	女	24週	591g	58	超低出生体重児 壊死性腸炎
	女	37週	1,544g	36	18トリソミー 肺高血圧症
県総合	男	37週	3,286g	2	重症新生児仮死、新生児低酸素性虚血性脳症
近大奈良	女	37週	1,948g	116	13トリソミー 横隔膜ヘルニア
	女	32週	1,442g	0	臍帯ヘルニア、多発奇形

第2節 奈良県立医科大学附属病院

第1 産科部門診療実績

1 入院数

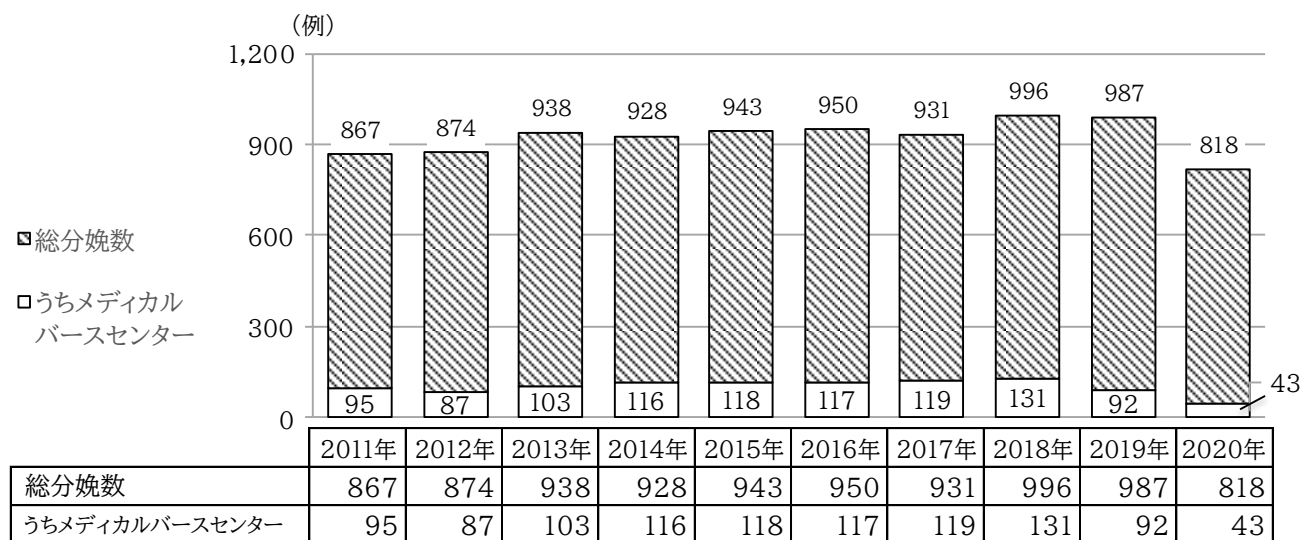
本年の産科病棟入院患者数は、前年に比し減少した。新型コロナウイルス感染拡大に対する奈良医大の診療体制において稼働病床を制限したことが影響したと思われる。



2 分娩数

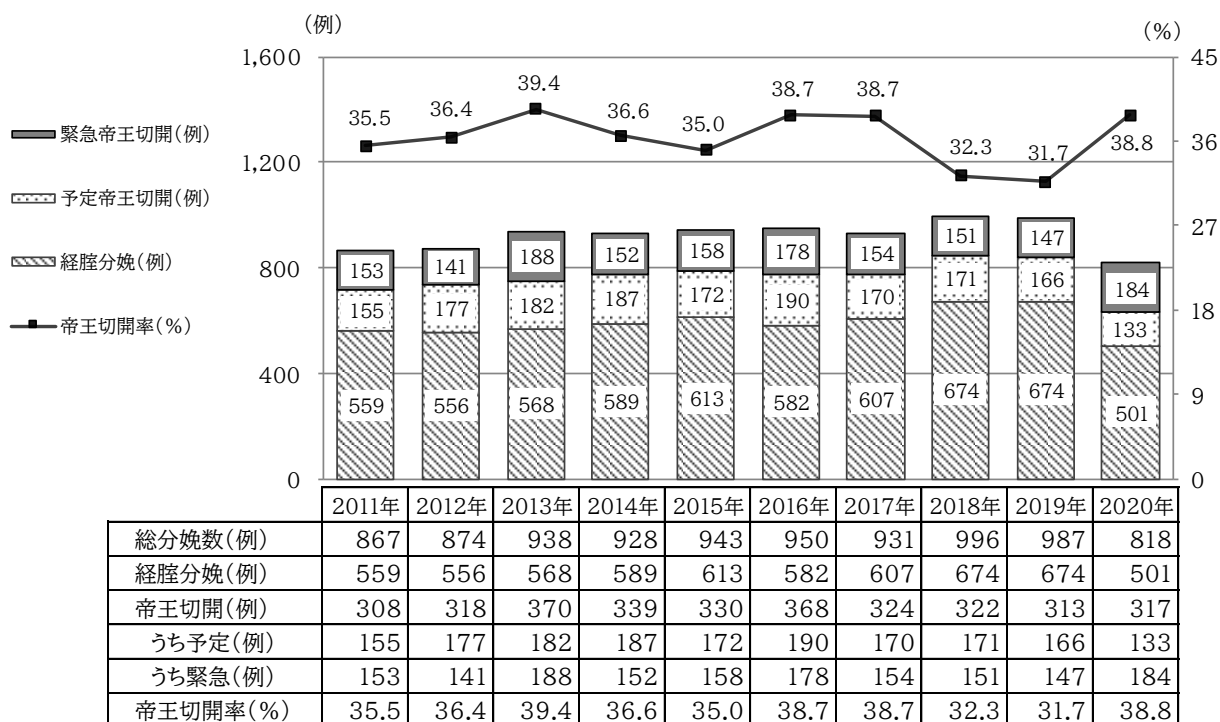
本年の分娩数は減少した。少子化に加え新型コロナウイルス診療体制下での他府県からの帰省分娩制限、低リスク症例の受け入れ制限などが影響したと思われる。

また、バースセンターに関しては新型コロナウイルス診療体制のために閉鎖されたことから、分娩数は減少した。



3 分娩様式

低リスク症例の受け入れ制限の影響もあり、帝王切開率は上昇した。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

低リスク症例の診療制限により正期産症例数の減少を認めたが、早産域の分娩数は例年と同様であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
22週	-	-	-	2	3	1	2	1	1	-
23週	1	2	2	1	2	1	1	-	-	2
24週	2	-	2	3	5	2	4	2	1	-
25週	2	1	4	1	1	2	3	2	1	3
26週	1	-	1	5	2	3	4	4	1	2
27週	1	3	2	3	2	1	7	7	4	3
28週	7	5	5	4	8	4	1	3	-	5
29週	4	7	4	4	2	6	-	5	3	2
30週	6	3	3	3	4	3	5	9	7	8
31週	13	5	4	7	6	7	8	6	3	4
32週	11	9	16	7	9	8	11	8	8	13
33週	9	14	20	11	10	8	10	13	15	13
34週	14	21	22	8	10	21	20	17	32	25
35週	39	30	33	24	33	15	27	34	38	37
36週	59	54	54	41	77	62	46	56	62	43
37週	105	115	106	156	159	174	129	162	146	129
38週	159	198	246	208	209	225	221	243	246	209
39週	191	167	172	202	182	220	182	241	225	164
40週	157	172	183	168	203	177	182	175	181	133
41週	68	54	45	51	58	64	64	63	60	36
42週以上	3	1	-	-	4	1	2	-	-	-
不明	-	2	3	-	5	2	2	1	2	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

1,500g未満の極低出生体重児の出生数は38例で、前年に比して増加した。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
500g未満	-	3	-	5	7	3	9	3	2	-
500-999g	12	11	19	15	19	15	9	18	13	15
1,000-1,499g	26	16	27	25	13	20	20	17	13	23
1,500-1,999g	58	57	60	45	48	40	48	56	52	42
2,000-2,499g	155	129	165	136	137	135	143	141	145	147
2,500g以上	666	690	732	748	770	763	753	817	811	603
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

6 出産時年齢（例）

45歳以上の分娩が8例あった。当院は母体血を用いた非侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）の認定施設であるほか、臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラーによる遺伝外来での相談にも応じている。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	-	593	632	644	610	636	614	671	647	514
35-39歳	-	212	239	225	250	240	249	257	246	224
40-44歳	-	68	64	56	79	72	103	89	93	72
45歳以上	-	1	3	4	4	2	2	5	1	8

7 合併症妊娠（例）

合併症妊娠の内訳には大きな変化はない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	-	-	69	52	49	36	67	67	59	45
子宮筋腫(核出術後)	32	49	16	6	5	-	-	4	9	3
卵巣嚢腫(腫瘍)	15	8	26	22	25	25	20	4	22	13
子宮頸癌(含円錐切除後)	11	7	9	7	9	-	15	3	12	8
子宮形態異常	7	4	4	2	4	3	4	2	11	3
甲状腺機能亢進症	13	18	17	8	14	9	13	11	18	14
甲状腺機能低下症	11	6	11	17	14	17	35	31	41	23
糖尿病(含GDM)	31	28	39	45	54	62	67	62	87	74
喘息	24	26	49	19	25	28	19	14	25	17
慢性腎炎	5	7	3	1	12	4	1	1	3	4
本態性高血圧	12	9	16	12	12	13	13	10	15	8
ITP	7	5	9	-	-	-	-	5	9	3
自己免疫疾患	17	12	11	14	10	9	14	11	15	6
循環器疾患	15	14	8	17	14	-	-	16	16	11
精神科疾患(含てんかん)	48	43	58	47	49	43	25	47	44	34
ウイルス性肝炎(※1)	14	10	6	9	11	5	5	3	9	4
消化器疾患(※2)	17	6	8	13	12	20	8	78	14	5
その他	-	-	-	-	-	-	-	63	35	30

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

産科合併症の内訳には大きな変化はない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	188	164	151	131	109	115	177	114	153	168
妊娠高血圧症候群	66	52	51	49	49	51	63	58	57	59
胎児発育不全	51	51	36	45	31	28	52	80	76	46
多胎妊娠	60	46	76	56	51	66	55	65	52	51
前置胎盤	27	28	20	14	21	16	21	10	15	9
産後出血(※3)	30	23	12	24	10	21	-	18	12	-
子痛	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
弛緩出血(※4)	-	-	-	-	-	142	91	108	78	93
常位胎盤早期剥離	23	11	9	15	10	18	12	16	11	11
HELLP症候群	5	8	4	6	4	-	5	5	3	3

次ページへ続く

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
低置胎盤	19	12	15	12	6	13	19	5	13	3
血液型不適合	20	20	27	11	12	18	13	1	10	5
羊水過多	11	11	8	8	7	7	7	6	14	15
羊水過少	8	6	9	14	9	7	7	9	11	12
先天異常	56	53	25	28	-	36	20	35	55	47
その他	-	-	-	-	-	-	-	261	88	90

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他(例)

卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術が前年に比して増加した。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮頸管縫縮術	7	15	11	8	14	12	12	26	24	19
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	5	5	1	1	3	-	-	-	-	8
産道血腫除去術	9	1	5	8	1	-	-	8	4	4
子宮動脈塞栓術	6	6	8	5	3	1	8	5	5	3
子宮摘出術	2	-	3	4	4	2	1	-	1	-
胎児胸腹水穿刺	5	1	-	-	-	-	-	-	-	1
羊水除去	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-

10 輸血治療症例(例)

前年と同程度の同種血輸血数であった。自己血輸血は含まない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
輸血治療症例数	34	19	20	22	9	9	23	11	16	17

11 NICU 収容症例(例)

新型コロナウイルス診療体制の影響もあり症例数は減少した。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
NICU収容症例数	128	111	147	131	160	195	377	401	426	358

12 多胎妊娠(例)

双胎症例数は例年通りであった。MM 双胎が2例あった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
双胎	59	43	75	56	50	66	55	64	50	51
うちMD(※1)	34	15	24	19	37	20	22	44	38	16
うちDD(※2)	25	28	51	37	11	45	33	20	12	33
うちMM(※3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
うち不明	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
三胎	1	-	1	-	1	1	2	1	2	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎／※3 一絨毛膜一羊膜双胎

13 母体搬送収容数(例)

母体搬送収容数は2017年以降大きな変化がない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
母体搬送収容数	146	157	156	107	125	106	127	130	123	132

14 母体搬送疾患名(例、重複あり)

母体搬送疾患の内訳については、例年と同様であった。

胎児発育不全は外来紹介例が多く、妊娠高血圧腎症の診断基準に含まれるようになったことも

あり、母体搬送理由としてはほぼなくなった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	75	77	87	49	56	44	62	59	74	65
妊娠高血圧症候群	17	22	13	7	10	5	9	14	19	21
胎児発育不全	5	15	7	1	3	3	-	-	-	1
産後出血	15	15	6	16	12	12	20	16	10	14
胎児機能不全	9	15	8	2	1	4	3	4	4	7
常位胎盤早期剥離	14	9	11	8	8	7	3	4	6	11
前置胎盤	2	7	5	2	5	1	7	-	2	1
多胎	3	2	11	2	4	1	-	-	1	1
HELLP症候群	2	6	3	4	3	1	2	2	4	3
胎児形態異常	1	1	-	3	1	1	2	3	-	1
未受診	-	-	-	-	-	-	-	2	2	1
その他	17	13	61	13	22	30	17	25	22	11

※1 入院のみ/※2 早産期

1.5 先天異常 (例、重複あり)

心室中隔欠損の胎内診断例が増加した。

疾患名	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
cystic hygroma	4	4	1	1	4	4	6	6	3	3	1	1	2	2	3	3	2	2
18トリソミー	3	2	3	2	-	-	3	3	4	3	1	1	3	1	2	2	3	3
髄膜瘤	2	2	1	1	-	-	3	2	1	1	-	-	1	1	1	1	-	-
21トリソミー	6	3	4	-	7	5	3	1	4	2	3	3	1	-	9	6	2	1
手指異常(合指/多指)	-	-	2	-	1	-	3	-	2	-	-	-	1	-	6	-	2	1
脳室拡大	2	2	5	5	6	6	2	2	2	2	-	-	3	3	1	1	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	1	1	-	-	1	1	2	2	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-
心室中隔欠損	3	1	1	1	2	1	2	1	5	2	1	1	4	4	5	3	14	14
仙尾部奇形腫	1	1	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
胎児水腫	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
骨系統性疾患	1	1	3	2	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	-	-
小腸閉鎖	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	-	-
無頭蓋症	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
尿道下裂	-	-	2	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
口唇裂・口蓋裂	3	2	3	2	1	1	-	-	5	5	-	-	8	8	4	4	5	2
不整脈	3	3	4	4	1	1	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-
胸腹水	3	3	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	1	1
無脳症	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ファロー四徴症	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	2
水腎症	2	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1	1	1
両大血管右室起始	2	2	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	2	2	3	3
大血管転位	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鎖肛	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
心臓腫瘍	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	1	1
先天性嚢胞性腺腫様奇形	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Dandy-Walker奇形	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大脳半球間裂嚢胞	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
脳瘤	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
気管軟化症	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4
尿道閉鎖	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Treacher-Collins症候群	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全前脳胞症	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総排泄腔遺残	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
腹壁破裂	-	-	1	1	2	2	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	1	1
筋ジストロフィー	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
染色体微小欠失	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
片腎欠損	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
Potter sequence	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
食道閉鎖	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
脳梗塞	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
尿管遺残	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無眼球症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳梁欠損	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-
大動脈離断症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大動脈縮窄	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
硬膜下血腫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
血管腫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳腫瘍	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳出血	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
頭皮欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

次ページへ続く

疾患名	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
左心低形成	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	3	3
小脳低形成	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	2	2
頭蓋内嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2	2
Ebstein奇形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-
腹部リンパ腫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
胎便性腹膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-
内臓錯位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
胎児心不全疑い	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1
肺動脈弁閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1
先天性魚鱗癬	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Beals症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Smith-Lemli-Opitz症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
鰓弓症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
右側大動脈弓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	1	1
ヒルシュスプルング病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
13トリソミー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
body stalk anomaly	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
副耳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Kommerell憩室	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
内反足	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-
動脈管瘤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1
血友病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
上顎腫瘍	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
先天性歯門閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
肝嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-

16 母体胎児集中治療室 (MFICU) 入院患者数 (例)

MFICU の入院患者数は前年と同様であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
院内症例	66	49	38	64	37	37	67	34	81	75
搬送症例	125	142	141	97	112	83	118	124	134	138
合計	191	191	179	161	149	120	185	158	215	213

17 MFICU 入院適応 (例)

MFICU の入院適応については大きな変化はない。

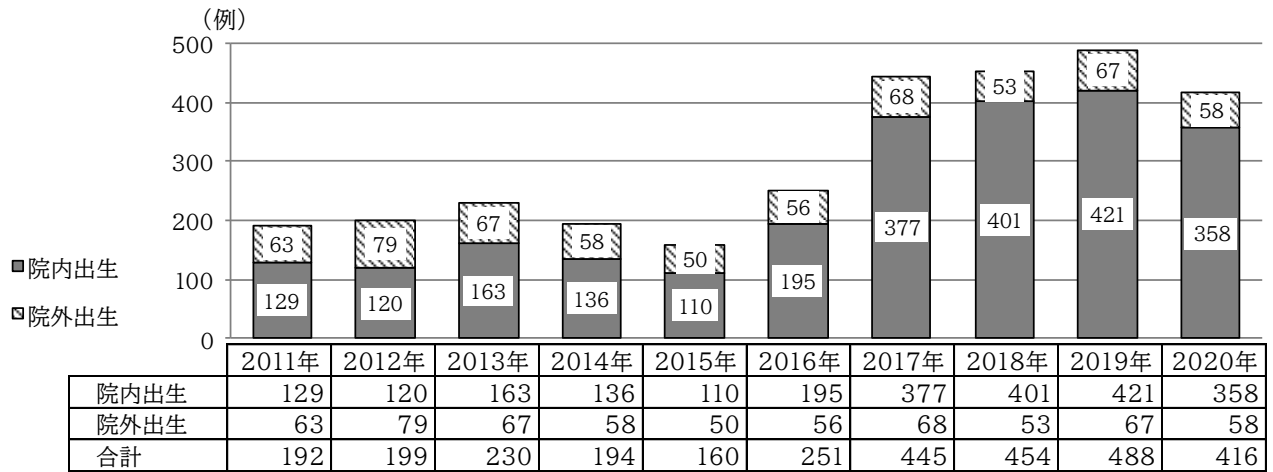
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(入院のみ)	81	82	89	66	63	56	78	69	88	83
妊娠高血圧症候群	35	31	24	16	14	21	26	22	38	25
産後出血	23	20	18	25	11	18	28	18	12	20
常位胎盤早期剥離	19	8	11	13	11	9	6	12	6	8
胎児発育不全(胎内診断のみ)	15	19	12	2	8	10	5	9	1	5
前置胎盤	14	11	13	8	10	8	16	2	12	7
双胎	7	4	15	10	6	8	6	10	5	14
HELLP症候群	5	8	4	4	4	3	4	4	3	2
先天異常	2	3	5	6	2	3	1	8	4	2
肺水腫	2	3	3	-	-	2	1	0	1	1
合併症妊娠	25	36	18	5	6	5	7	20	29	25
その他	3	3	3	-	17	12	14	8	16	21

第2 新生児部門診療実績

1 入院数

本年の総入院数は416例(再入院11例を除く)で、院内出生は358例、院外出生は58例であった。

2016年9月の病棟移転による病床数増加に伴い、入院数は増加傾向であったが、本年は新型コロナウイルス感染拡大による分娩数の減少に伴い、入院数も減少した。



2 主病名 (例)

病棟移転に伴い、産科の新生児入院病床がなくなり、以前は産科病棟でも入院管理をしていた症例（出生体重1,800～2,300gの新生児、黄疸の光線治療、低血糖や哺乳不良などの点滴治療、母体精神疾患や内分泌異常の母体から出生した児のモニタリング目的など）が入院するようになった。したがって、低出生体重児、新生児高ビリルビン血症、新生児薬物離脱症候群などの入院が増加した。また、小児循環器と心臓血管外科との連携が整い、本年は心・循環器疾患が急増している。

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
消化管疾患	10	9	11	23	24
新生児嘔吐症	2	2	1	5	12
哺乳不良	1	1	2	6	1
腸回転異常症	1	-	-	1	-
鎖肛	-	1	1	-	3
腸管拡張	-	-	-	1	-
肝嚢胞	-	-	-	1	-
新生児メレナ	-	-	1	-	-
腹壁破裂	1	-	-	-	1
臍帯ヘルニア	2	1	-	-	-
胃軸捻転	-	-	-	1	-
急性胃粘膜病変	-	1	2	-	-
食道閉鎖	1	-	-	-	-
小腸十二指腸閉鎖	-	-	-	-	2
小腸閉鎖	2	1	1	2	-
十二指腸狭窄症	-	-	-	1	-
結腸閉鎖	-	1	-	-	-
小腸軸捻転	-	-	1	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	1	2	-
先天性胆道拡張症	-	-	1	-	-
先天性食道閉鎖	-	-	-	1	1
胃食道逆流	-	1	-	-	-
腸閉塞	-	-	-	-	1
肥厚性幽門狭窄症	-	-	-	-	1
壊死性腸炎	-	-	-	-	1
ヒルシュスブルング病	-	-	-	2	1
感染症	4	12	8	16	17
新生児感染症	2	10	7	13	14
新生児TSS様発疹症	-	-	-	1	-
先天性サイトメガロウイルス感染症	2	2	1	-	-
先天性トキソプラズマ感染症	-	-	-	1	-
GBS感染症	-	-	-	-	1
敗血症	-	-	-	-	1
左肩関節炎	-	-	-	-	1
水痘疑い	-	-	-	1	-

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
染色体異常 形態異常症候群	17	17	19	12	26
ダウン症候群	6	7	11	3	9
18トリソミー	-	3	4	2	3
13トリソミー	2	-	-	1	-
5p-症候群	1	-	-	-	-
22q11.2症候群	1	-	-	-	-
10番染色体不均衡転座	1	-	-	-	-
口唇口蓋裂	-	1	-	2	1
上顎体	-	-	-	1	-
先天性魚鱗癬症候群	-	-	-	1	-
Beals症候群	-	-	-	1	-
ブラダーウィリ症候群	1	-	-	-	1
タウンスブロックス症候群	1	-	-	-	-
VACTERL連合	-	1	-	-	-
尿道下裂	-	-	-	-	1
多嚢胞性異形成腎	2	1	-	-	-
仙尾部形態異常腫	-	1	-	-	-
タナトフォリック骨異形成症	-	1	-	-	-
小顎症	1	1	-	-	-
陰核肥大	1	-	-	-	-
重複陰	-	1	-	-	-
先天性頭皮欠損	-	-	1	-	-
頸部嚢胞	-	-	1	-	-
反張膝	-	-	1	1	-
筋強直性ジストロフィー	-	-	-	-	2
先天性白内障	-	-	-	-	2
低ホスファターゼ血症	-	-	-	-	1
先天性ネフローゼ症候群	-	-	-	-	1
膀胱尿管移行部狭窄	-	-	-	-	1
顎下腺内嚢胞	-	-	-	-	1
舌根部腫瘍	-	-	-	-	1
腔前庭部腫瘍	-	-	-	-	1
重複腎盂	-	-	-	-	1
多嚢胞性腎異形成	-	-	1	-	-

次ページへ続く

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
呼吸器疾患	28	61	53	74	55
新生児一過性多呼吸	15	44	37	49	26
呼吸窮迫症候群	-	2	1	1	-
胎便吸引症候群	6	1	1	11	8
新生児無呼吸発作	1	6	8	7	11
気胸	4	5	3	4	4
喉頭軟化症	-	-	-	2	-
先天性横隔膜ヘルニア	-	1	-	-	-
先天性乳び胸	1	-	-	-	-
披裂部喉頭軟化症、気管軟化症	-	1	-	-	-
出血性肺浮腫	1	-	-	-	-
肺リンパ嚢胞	-	-	-	-	-
誤嚥性肺炎	-	1	-	-	-
胸水	-	-	1	-	-
先天性肺気道形態異常	-	-	1	-	-
気管軟化症	-	-	-	-	3
横隔膜弛緩症	-	-	-	-	1
肺低形成	-	-	-	-	1
鼻腔狭窄	-	-	-	-	1
先天性嚢胞性腺腫性形態異常	-	-	1	-	-
心・循環器疾患	13	21	18	18	37
動脈管開存症	-	4	-	-	-
左心低形成	-	-	1	-	2
不整脈	1	6	1	2	1
大動脈縮窄症	1	1	1	1	-
大動脈離断	-	1	-	-	-
右大動脈弓	-	1	-	2	-
Fallot四徴症	1	1	-	2	2
心室中隔欠損症	2	2	1	2	14
先天性動脈管開存症	-	-	-	-	1
総動脈管症	-	1	-	-	-
総肺静脈還流異常症	1	-	1	-	2
両大血管右室起始	2	-	2	-	1
完全大血管転位	1	2	3	1	-
Ebstein形態異常	2	-	1	-	-
左側相同	1	-	-	-	-
内臓逆位	1	-	-	-	-
肺動脈閉鎖	-	-	1	1	3
肺動脈弁狭窄症	-	-	-	1	-
末梢性アノーゼ	-	-	-	1	-
重複大動脈弓	-	-	1	-	-
修正大血管転位	-	-	1	-	-
動脈管瘤	-	-	-	3	2
先天性心疾患の疑い	-	-	1	-	-
房室中隔欠損症	-	-	1	-	1
動脈管早期閉鎖	-	-	1	-	-
新生児遷延性肺高血圧	-	-	-	1	-
左肺動脈欠損	-	-	-	1	-
肺高血圧症	-	-	1	-	-
心房中隔欠損症	-	-	-	-	1
大動脈弓離断	-	-	-	-	1
動脈管蛇行	-	-	-	-	1
左室型単心室症	-	-	-	-	1
左上大静脈遺残	-	-	-	-	1
僧帽弁閉鎖症	-	-	-	-	1
三尖弁異形成	-	-	-	-	1
静脈管開存	-	-	-	-	1
その他	-	2	-	-	-

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
脳・神経疾患	8	6	12	8	11
脳梗塞	-	-	1	-	-
髄膜瘤	1	-	1	-	-
帽状腱膜下血腫	1	-	3	2	-
新生児痙攣	3	2	5	2	1
硬膜下血腫	-	-	-	-	2
脊髄脂肪腫	-	-	-	-	1
てんかん	-	-	1	-	-
脈絡叢乳頭癌	-	-	-	-	-
脳梁欠損症	-	-	1	-	2
水頭症	3	2	-	-	-
脳嚢胞	-	1	-	-	-
頭蓋骨早期癒合症	-	1	-	-	-
脊髄髄膜瘤	-	-	-	1	-
頭蓋内出血(尾状核出血)	-	-	-	1	-
先天性水頭症	-	-	-	2	1
アバール症候群	-	-	-	-	1
仙骨部皮膚陥凹	-	-	-	-	1
頭蓋骨骨折	-	-	-	-	1
分娩時外傷性脳内出血	-	-	-	-	1
代謝内分泌	6	37	25	13	18
低血糖	3	21	18	11	11
先天性甲状腺機能低下症	2	9	1	-	-
新生児一過性甲状腺機能亢進症	1	7	3	1	6
ホモシスチン尿症	-	-	1	-	-
プロピオン酸血症	-	-	1	-	-
遠位尿管管性アシドーシス	-	-	1	-	-
代謝性アシドーシス	-	-	-	-	1
Smith-Lemli-Opitz 症候群	-	-	-	1	-
その他	159	277	302	324	321
低出生体重児 (1,500-2,499g)	70	126	122	128	166
極低出生体重児 (1,000-1,499g)	24	21	18	12	27
超低出生体重児 (<1,000g)	19	18	22	15	15
早産児	-	7	7	6	6
新生児仮死	15	7	8	15	14
sleeping baby	1	-	-	3	-
新生児高ビリルビン血症	17	70	89	107	50
リンパ管腫	-	1	-	-	-
ランゲルハンス細胞組織球症	-	1	-	-	-
多血症	-	4	2	1	5
ABO血液型不適合	-	-	2	2	1
Rh不適合	-	-	-	1	-
その他の血液型不適合	-	-	-	1	-
左耳出血	-	1	-	-	-
新生児薬物離脱症候群	8	18	24	27	29
墜落分娩	4	3	5	3	3
遺伝性球状赤血球症	1	-	1	-	-
卵巣出血	-	-	1	-	-
両下鼻甲介粘膜炎腫脹	-	-	-	1	-
未熟網膜症	-	-	-	1	1
分娩麻痺疑い	-	-	-	1	-
母児間輸血症候群	-	-	-	-	2
胎児水腫	-	-	-	-	1
上腕骨折	-	-	-	-	1
卵巣嚢腫	-	-	1	-	-

3 出生週数 (例)

総入院数は減少したものの、37 週未満の早産児の入院数や、28 週未満の超早産児の入院数は減少していない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
22週	-	-	-	2	1	3	1	1	1	-
23週	1	3	3	2	1	2	2	-	-	1
24週	2	-	3	4	6	3	3	2	3	1
25週	2	2	4	3	1	2	2	2	1	3
26週	1	-	2	5	1	3	6	4	1	2
27週	2	5	2	4	3	2	5	7	5	3
28週	6	5	6	6	7	5	1	3	-	5
29週	3	7	5	4	2	6	-	5	3	5
30週	5	3	7	3	4	5	5	10	7	10
31週	16	6	5	8	6	7	13	6	3	4
32週	13	9	18	8	8	10	16	8	8	13
33週	10	15	27	15	10	8	11	13	14	13
34週	15	24	28	8	11	22	24	19	32	26
35週	15	9	17	13	14	12	32	35	40	37
36週	14	18	14	15	13	20	39	38	46	34
37週以上	87	93	84	89	70	135	280	292	323	259
不明	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-

(※2019年不明1例は、未受診妊婦のため週数不明)

4 出生時体重 (例)

1,500g未満の極低出生体重児の入院数や、1,500～2,500gの低出生体重児の入院数は2017年以降大きな変化はない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
500g未満	-	3	-	5	1	3	3	3	2	-
500-749g	5	4	10	9	10	8	9	7	2	7
750-999g	7	10	13	8	9	9	6	11	13	8
1,000-1,249g	8	9	12	7	3	9	7	6	5	13
1,250-1,499g	18	10	16	16	10	15	15	13	8	14
1,500-1,749g	24	18	21	14	14	14	20	15	18	16
1,750-1,999g	19	23	33	14	18	26	34	42	35	31
2,000-2,249g	21	18	21	10	16	24	53	55	57	67
2,250-2,499g	15	22	26	21	15	31	53	53	50	52
2,500g以上	75	82	73	85	62	106	240	243	298	208

5 人工呼吸器管理 (例)

産科の新生児入院病床がなくなり、呼吸器管理を必要としない症例の入院数が増加した。したがって人工呼吸器管理症例率は低率であるが、人工呼吸管理症例数は101例と多い

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
入院数(例)	192	199	230	194	160	251	440	448	488	427
人工呼吸器管理症例数(例)	85	97	99	105	91	94	101	116	113	101
人工呼吸器管理症例率(%)	44	49	43	54	57	38	23	26	23.2	23.7

6 外科手術 (心臓、眼科、脳外科など含む)

手術症例は34例で、心臓血管外科が23症例と急激に増加している。

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
男	37週	2,762g	ダウン症 左室低形成	心房中隔欠損閉鎖術
女	28週	1,264g	極低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
男	31週	650g	超低出生体重児 動脈管開存症	動脈管結紮術
女	37週	2,438g	膣前庭部腫瘍	外性器腫瘍摘出術
男	29週	1,148g	極低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
女	38週	3,170g	総肺静脈還流異常症	総肺静脈還流異常症修復術 三心房心手術
男	38週	2,762g	心房中隔欠損症	肺動脈絞扼術

次ページへ続く

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
女	33週	1,336g	極低出生体重児 動脈管開存症	動脈管結紮術
女	38週	2,826g	僧帽弁閉鎖	僧帽弁形成術
男	36週	1,990g	肺動脈閉鎖	心房中隔欠損作成術 体肺動脈短絡術 冠動脈形成術
男	39週	4,358g	アペール症候群	頭蓋骨修復術
男	34週	2,248g	十二指腸閉鎖	腸閉鎖修復術
男	39週	3,242g	総肺静脈還流異常症 横隔膜弛緩症	総肺静脈還流異常症修復術 横隔膜縫縮術
男	36週	2,104g	ダウン症 房室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
男	38週	3,110g	急性硬膜下血腫	頭蓋内血腫除去術
女	37週	2,442g	先天性水頭症	脳室腹腔内シヤント術
男	39週	3,512g	舌根部腫瘍	喉頭腫瘍摘出術
男	32週	1,492g	ダウン症 動脈管開存症 十二指腸閉鎖	動脈管結紮術 腸閉鎖修復術
女	23週	626g	超低出生体重児 未熟児網膜症	動脈管結紮術 抗VEGF眼内投与 レーザー光凝固術
女	28週	946g	超低出生体重児 動脈管開存症	動脈管結紮術
男	38週	2,530g	肺動脈閉鎖	心房中隔欠損作成術 肺動脈狭窄修復術
男	30週	1,396g	極低出生体重児 食道閉鎖症 出血後水頭症	食道吻合術 気管支瘻閉鎖術 脳室外ドレナージ術 食道狭窄拡張術
女	38週	1,768g	18トリソミー 心室中隔欠損症	肺動脈絞扼術 気管切開術
男	38週	2,500g	鎖肛	肛門形成術
女	40週	3,164g	左室型単心室症	肺動脈絞扼術
男	37週	2,884g	心室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
女	36週	1,908g	腹壁破裂	腹壁破裂修復術
女	38週	3,176g	両大血管右室起始症	両大血管右室起始症根治術
男	41週	2,972g	鎖肛	肛門形成術
女	26週	695g	超低出生体重児 未熟児網膜症	動脈管結紮術 レーザー光凝固術
男	37週	2,712g	鎖肛	人工肛門形成術
男	27週	964g	超低出生体重児 動脈管開存症	動脈管結紮術
男	40週	3,016g	頭蓋内出血	頭蓋内血腫除去術
男	23週	501g	超低出生体重児 出血後水頭症 未熟児網膜症	脳室外ドレナージ術 レーザー光凝固術

7 血液浄化症例

血液浄化症例は母児間輸血症候群による全血交換輸血が1例、重症黄疸による全血交換輸血が1例、多血症による部分交換輸血が1例であった。

出生週数	出生体重	適応疾患	治療法
28週	1,264g	極低出生体重児 母児間輸血症候群	全血交換輸血
39週	2,456g	黄疸	全血交換輸血
39週	2,454g	多血症	部分交換輸血

8 出生週数別の日齢28日以後の生存率 (%)

出生週数28週未満の超早産児では1例の新生児死亡があった。

	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)
22週	33.3 (1 / 3)	0.0 (0 / 1)	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)
23週	50.0 (1 / 2)	100.0 (2 / 2)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)
24週	100.0 (3 / 3)	100.0 (3 / 3)	100.0 (2 / 2)	100.0 (3 / 3)	100.0 (1 / 1)
25週	100.0 (2 / 2)	100.0 (2 / 2)	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	66.7 (2 / 3)
26週	100.0 (3 / 3)	100.0 (6 / 6)	75.0 (3 / 4)	100.0 (1 / 1)	100.0 (2 / 2)
27週	50.0 (1 / 2)	80.0 (4 / 5)	100.0 (7 / 7)	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)
28週	100.0 (5 / 5)	100.0 (1 / 1)	100.0 (3 / 3)	- (- / -)	80.0 (4 / 5)
29週	100.0 (6 / 6)	- (- / -)	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)	100.0 (5 / 5)
30週	100.0 (5 / 5)	100.0 (5 / 5)	100.0 (10 / 10)	100.0 (7 / 7)	90.0 (9 / 10)
31週	100.0 (7 / 7)	100.0 (13 / 13)	100.0 (6 / 6)	100.0 (3 / 3)	75.0 (3 / 4)
32週	90.0 (9 / 10)	93.8 (15 / 16)	87.5 (7 / 8)	100.0 (8 / 8)	100.0 (13 / 13)
33週	100.0 (8 / 8)	100.0 (11 / 11)	100.0 (13 / 13)	100.0 (14 / 14)	100.0 (13 / 13)
34週	100.0 (22 / 22)	100.0 (24 / 24)	100.0 (19 / 19)	96.9 (31 / 32)	100.0 (26 / 26)
35週	100.0 (12 / 12)	100.0 (32 / 32)	100.0 (35 / 35)	100.0 (40 / 40)	100.0 (37 / 37)
36週	100.0 (20 / 20)	100.0 (39 / 39)	97.4 (37 / 38)	100.0 (46 / 46)	100.0 (34 / 34)
37週以上	100.0 (135 / 135)	99.6 (279 / 280)	100.0 (292 / 292)	100.0 (323 / 323)	99.6 (258 / 259)
不明	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)

内訳:各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

9 出生体重別の日齢28日以後の生存率（%）

出生体重1,500g未満では1例の新生児死亡があった。

	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）
500g未満	33.3（1 / 3）	66.7（2 / 3）	66.7（2 / 3）	100.0（2 / 2）	-（- / -）
500-749g	87.5（7 / 8）	88.9（8 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（2 / 2）	100.0（7 / 7）
750-999g	100.0（9 / 9）	100.0（6 / 6）	100.0（11 / 11）	100.0（13 / 13）	75.0（6 / 8）
1,000-1,249g	88.9（8 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（6 / 6）	100.0（5 / 5）	100.0（13 / 13）
1,250-1,499g	93.3（14 / 15）	93.3（14 / 15）	100.0（13 / 13）	100.0（8 / 8）	100.0（14 / 14）
1,500-1,749g	100.0（14 / 14）	100.0（20 / 20）	100.0（15 / 15）	100.0（18 / 18）	93.8（15 / 16）
1,750-1,999g	100.0（26 / 26）	100.0（34 / 34）	100.0（42 / 42）	100.0（35 / 35）	100.0（31 / 31）
2,000-2,249g	100.0（24 / 24）	100.0（53 / 53）	100.0（55 / 55）	98.2（56 / 57）	100.0（67 / 67）
2,250-2,499g	100.0（31 / 31）	98.1（52 / 53）	100.0（53 / 53）	100.0（50 / 50）	100.0（52 / 52）
2,500g以上	100.0（106 / 106）	100.0（240 / 240）	99.2（241 / 243）	100.0（298 / 298）	99.0（206 / 208）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

10 新生児死亡数（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	-	2	2	3	4	4	3	1	4
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	3	1	1	1	-	-	-	1

11 死亡例一覧

死亡例は7例で、早期死亡は肺低形成による呼吸不全、敗血症、胎児水腫と超低出生体重児の新生児仮死の4例であった。

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
女	40週	2,804g	0	肺低形成
男	30週	1,618g	2	低出生体重児 敗血症
女	31週	2,810g	5	胎児水腫
男	25週	864g	3	超低出生体重児 新生児仮死
女	28週	974g	26	超低出生体重児 筋強直性ジストロフィー 腎不全
女	24週	591g	58	超低出生体重児 壊死性腸炎
女	37週	1,544g	36	18トリソミー 肺高血圧症

12 新生児搬送収容数（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
新生児搬送収容数	62	65	57	48	45	40	51	48	64	53

13 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
呼吸器疾患		17	25	17	24	10
内訳	呼吸障害	17	25	10	-	10
	新生児一過性多呼吸	-	-	-	22	-
	新生児無呼吸発作	-	-	6	2	-
	新生児気胸、新生児緊張性気胸	-	-	1	-	-
心・循環器疾患		7	11	12	6	8
内訳	心疾患	6	-	-	-	-
	先天性心疾患	-	1	8	6	6
	心雑音	1	-	1	-	1
	心不全	-	-	-	-	-
	心形態異常	-	1	-	-	-
	心形態異常疑い	-	1	-	-	-
	不整脈	-	1	-	-	1
	動脈管開存症	-	5	1	-	-
	総肺静脈環流異常	-	1	-	-	-
	肺高血圧症	-	-	1	-	-
	上室性頻拍	-	1	1	-	-
染色体異常 形態異常症候群		4	3	5	1	1
内訳	ダウン症	2	2	-	-	-
	染色体異常	-	-	5	1	1
	形態異常(症候群)	2	-	-	-	-
	口唇口蓋裂	-	1	-	-	-
反跳膝	-	-	-	-	-	
感染症		1	3	4	7	8
内訳	感染症	1	2	3	7	8
	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	1	-	-
	梅毒疑い	-	1	-	-	-
脳・神経疾患		1	1	7	2	3
内訳	脊髄髄膜瘤	-	-	-	-	-
	けいれん発作	1	-	6	2	2
	帽状腱膜下血腫	-	-	1	-	-
	脳梗塞	-	1	-	-	-
	脊椎脂肪腫	-	-	-	-	1

次ページへ続く

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年							
消化管疾患		1	5	1	14	8	チアノーゼ		3		1	1	
内 訳	新生児嘔吐症	-	-	-	7	2	インフルエンザ疑い	-	-	-	-	-	
	胆汁性嘔吐	1	-	-	-	-	多血	-	1	-	-	-	
	血便	-	-	-	-	-	下肢浮腫	-	-	-	-	-	
	鎖肛	-	1	1	-	3	上腕骨骨折	-	1	-	-	-	
	尿道下裂	-	-	-	-	-	骨折	-	-	-	2	-	
	肛門部形態異常	-	-	-	-	-	関節拘縮	-	-	-	-	1	
	腹部膨満	-	1	-	-	1	帽状腱膜下血腫	-	-	-	-	1	
	腹部腫瘤	-	2	-	-	-	分娩麻痺の疑い	-	-	-	1	1	
	哺乳不良	-	-	-	7	2	内 訳	耳出血	-	1	-	-	-
	血性嘔吐	-	1	-	-	-	吐血	-	-	-	-	-	
その他	6	11	9	21	16	性分化異常	-	-	-	-	-		
内 訳	低出生体重児	-	-	2	2	2	臀部腫瘍	-	-	-	-	-	
	超低出生体重児	-	-	-	1	1	皮疹	-	1	-	-	-	
	未熟児網膜症	-	-	-	1	1	墜落産	-	1	-	3	1	
	新生児仮死	4	3	4	4	3	反張膝	-	-	1	1	-	
	魚鱗癬	1	-	-	-	-	臍帯ヘルニア疑い	-	-	-	-	-	
	黄疸	1	-	2	3	3	早産(出生体重2500g以上)	-	-	-	-	1	
	甲状腺機能異常	-	-	-	-	-	頭蓋骨骨折	-	-	-	-	1	
						陰部腫瘤	-	-	-	-	1		

第3節 奈良県総合医療センター

第1 産科部門診療実績

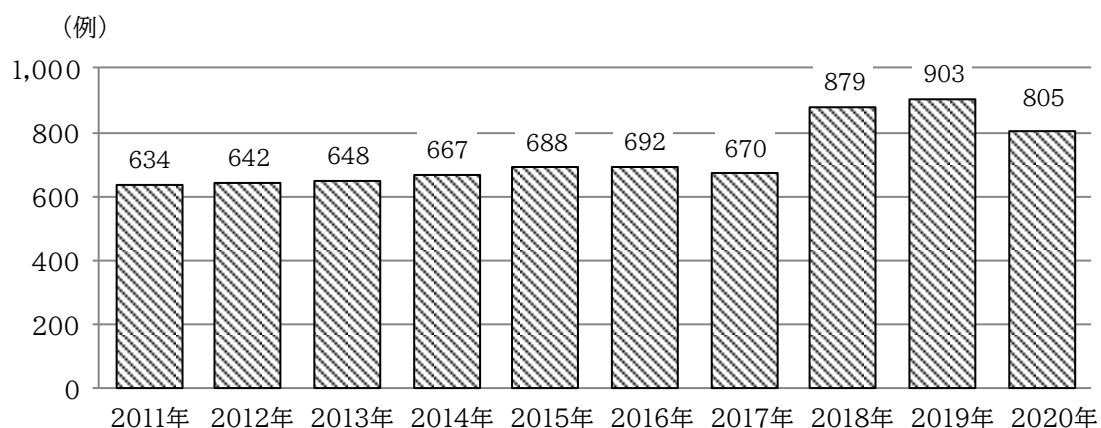
1 入院数

入院患者数は2018年5月の新センター移転後に急増した。

産科病棟では緊急入院の受け入れおよび重症患者の増加による平均在院日数の延長に対応し、2015年7月に病床数を26床から30床に増床した。しかし2018年の新センター移転後に分娩患者数が増加し、一時的に病棟が満床のため搬送受け入れが困難になることがあった。ローリスク妊娠の適正な分娩予約数について再検討し、課題は解決されている。

本年は分娩数も入院数も2019年より減少した。全国的な近年の少子化や新型コロナウイルス感染拡大によるものと推測する。

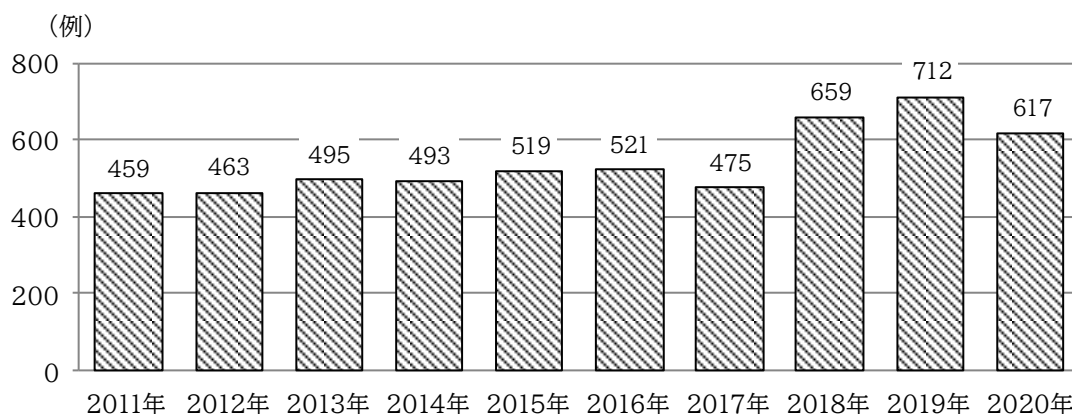
切迫早産などの診断で当センターへ母体搬送された症例は、搬送元での受け入れが可能となる週数まで入院管理ができた場合、患者の希望も考慮し、逆紹介により紹介元での分娩も積極的に勧められている。



2 分娩数

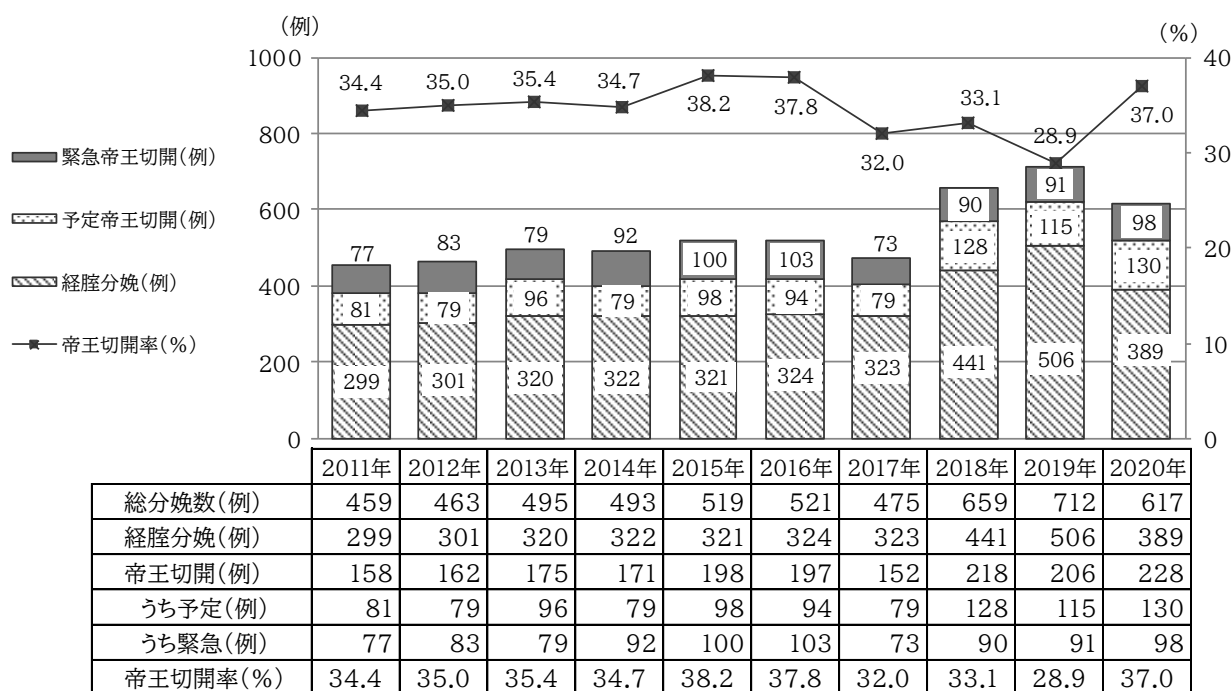
地域周産期母子医療センターとしての役割を考慮し、緊急症例やハイリスク患者への対応能力を維持する目的で分娩制限を設けている。2018年5月に新センターに移転してから分娩予約数は12件/週とし、予約枠が埋まった場合、ローリスク妊婦は他施設を紹介している。前年は西和医療セ

ンターとの分娩統合により、西和医療センターで妊婦健診を受け当院で分娩する患者が約 50 例あった。そのため、2018 年に比し分娩数は増加している。しかし本年の分娩数は減少した。この要因としては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う帰省分娩の減少や不妊施設からの紹介の減少等が推測される。施設の役割に応じた患者への医療提供を考慮し、ハイリスク妊婦の状態改善や妊娠 36 週以降までの維持管理が達成された場合、紹介元への逆紹介を積極的に行っている。



3 分娩様式

当センターでは既往帝王切開例の分娩様式は反復帝王切開としている。ハイリスク妊娠の受け入れに重点を置いてきたため帝王切開率は 35%前後で経過していたが、前年はローリスク妊婦が多い西和医療センターとの統合に伴い、帝王切開率は 29%と低下した。本年は 37%に増加しており、ローリスク妊婦の帰省分娩の減少や 40 歳以上の妊婦の割合が高かったことなどが影響した可能性がある。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

2011 年から当センターでは妊娠 28 週以降かつ児推定体重 1,000g 以上を、奈良医大ではそれ以

前や胎児形態異常などを含めた重症症例を中心に受け入れることで、県内2施設のみの周産期母子医療センターの役割分担を明確化した。その結果28週未満の分娩はほとんどなくなり、NICUの適切な病床運用が可能となった。妊娠38週がピークとなり、児の未熟性を考慮した分娩時期の設定が行われていると推測される。さらに過期産を回避する方針で妊娠管理基準を修正し、2015年以降の過期産はほぼゼロとなった。2017年の1件は未受診妊婦の飛び込み分娩であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
24週	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
25週	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
28週	-	2	2	2	4	2	3	1	3	1
29週	2	4	2	2	1	1	-	3	4	1
30週	3	5	6	4	4	5	2	8	2	4
31週	8	5	7	4	8	7	8	9	7	2
32週	8	4	11	10	10	12	4	5	7	4
33週	10	9	9	11	14	18	15	11	9	9
34週	13	18	18	22	21	24	21	24	25	25
35週	16	20	17	28	28	32	26	39	22	29
36週	27	23	29	23	43	40	24	35	30	37
37週	63	65	101	111	114	125	107	115	122	119
38週	96	108	91	73	101	96	96	159	168	146
39週	95	98	86	116	81	101	90	120	139	114
40週	85	67	85	86	83	69	76	122	152	114
41週	28	32	29	27	32	23	19	48	51	46
42週以上	1	2	2	6	-	-	1	-	-	-
不明	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

2011年から当センターでは妊娠28週以降（児推定体重1,000g以上）を、奈良医大ではそれ以前を含めた症例を中心に受け入れることと取り決めた結果から、出生体重1,000g未満の分娩は年間数例で推移している。1,500g未満の極低出生体重児の割合は13例（1.9%）であり、例年と同様であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
500-999g	1	2	2	3	2	3	-	1	1	1
1,000-1,499g	13	15	15	14	15	11	15	17	15	12
1,500-1,999g	32	34	25	43	44	58	35	39	37	33
2,000-2,499g	87	79	87	91	110	114	87	120	99	99
2,500g以上	355	331	394	377	374	370	355	522	590	506
不明	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-

6 出産時年齢（例）

本年の分娩妊婦617例のうち35歳以上は272例（44.1%）で、45歳以上の高年妊婦も6例（9.7%）と増加傾向である。35歳以上の妊婦の割合は全国統計より高く、地域周産期母子医療センターとして高年妊娠を多く受け入れている。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	285	281	273	305	303	280	379	428	345
35-39歳	144	158	165	163	151	141	209	217	178
40-44歳	32	55	52	50	63	47	70	62	88
45歳以上	2	1	3	1	4	3	1	5	6

7 合併症妊娠（例）

例年とほぼ同様の傾向である。新基準に伴いGDMは増加傾向であったが、本年は減少した。当センター内分泌内科で外来管理を継続しつつ、周産期合併症リスクの低いGDM妊婦は希望があれば紹介元に逆紹介していることが一因であると考ええる。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	-	-	36	33	29	42	32	53	34	34
子宮筋腫(核出術後)	27	13	-	10	14	16	8	18	14	17
卵巣嚢腫(腫瘍)	9	2	4	5	9	5	6	8	12	15
子宮頸癌(含円錐切除後)	7	-	3	8	10	9	4	14	16	15
子宮形態異常	4	4	4	1	6	1	2	6	3	7
甲状腺機能亢進症	3	2	8	9	6	12	8	15	9	8
甲状腺機能低下症	3	1	7	10	9	14	28	23	25	29
糖尿病(含GDM)	23	11	20	27	27	29	32	43	50	35
喘息	14	3	-	-	11	9	10	13	12	13
慢性腎炎	5	-	3	2	4	-	4	3	4	2
本態性高血圧	3	1	1	7	4	5	2	5	7	4
ITP	-	-	-	-	-	-	-	4	2	2
自己免疫疾患	3	1	8	12	2	5	2	7	4	6
循環器疾患	4	1	3	2	7	-	8	4	-	2
精神科疾患(含てんかん)	14	4	14	33	24	20	34	36	41	29
ウイルス性肝炎(※1)	3	-	1	2	7	-	2	-	-	2
消化器疾患(※2)	7	-	2	4	4	8	2	4	3	1
その他	11	-	-	-	-	-	-	-	-	34

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

産科合併症は切迫早産や前期破水が多くを占めている。妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離などの重篤な合併症の症例数は年ごとに多少の増減はあるものの傾向的ではない。

前年より本統計で弛緩出血を羊水込み800ml以上と定義したため、症例数の増減については2018年以前と比較できるものではないが、前年と比較して本年は188例(26%)から82例(13%)に減少している。分娩後弛緩出血に対して早期に介入できている可能性がある。

当センターでは新生児外科疾患への対応は困難であるため、消化器疾患や先天性心形態異常などが疑われた場合は奈良医大などに紹介している。従って当センターで分娩まで管理した先天異常の症例数は少ない。なお、産科合併症の集計数は当センターで分娩に至った症例のみに基づく結果であり、当センターで入院管理後に紹介元医療機関へ逆紹介した症例や、他院へ紹介・転送した症例は含まれていないことに留意されたい。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	128	111	219	147	168	189	140	182	149	130
妊娠高血圧症候群	32	35	21	42	58	57	36	37	50	39
胎児発育不全	21	5	13	14	35	39	28	35	35	33
多胎妊娠	34	31	30	36	34	41	24	44	37	38
前置胎盤	12	9	12	11	7	15	8	12	15	12
産後出血(※3)	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-
子癇	-	5	4	2	1	-	-	1	2	-
弛緩出血(※4)	15	97	282	136	56	62	50	21	188	82
常位胎盤早期剥離	10	11	4	8	8	7	6	5	5	8
HELLP症候群	1	3	1	-	1	2	1	1	2	3
低置胎盤	-	-	5	1	5	4	4	4	2	7
血液型不適合	-	-	6	4	6	8	8	9	10	9
羊水過多	-	-	-	1	-	2	2	3	6	4
羊水過少	-	-	2	3	7	3	2	3	6	10
先天異常	-	-	-	-	-	4	3	1	3	4
その他	199	-	-	-	-	-	-	-	-	25

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

本年は周産期登録データベースに加えて、当センターで分娩管理を行わなかった妊娠中の手術症例や産後の母体搬送症例も含めた数で集計している。

子宮動脈塞栓術は院内発生2例、母体搬送3例、外来紹介2例（仮性動脈瘤1例、胎盤遺残1例）であった。子宮摘出術は全例当センターで管理した癒着胎盤の症例であった。その他は、胎盤遺残に対する子宮鏡下手術（TCR）1例と帝王切開術後の再開腹止血術4例（院内発生1例、母体搬送3例）と4度裂傷の会陰裂傷修復術1例（母体搬送）であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮頸管縫縮術	4	3	3	5	6	1	3	2	9	3
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	5	2	12	2	2	2	3	2	1	4
産道血腫除去術	1	1	-	1	-	3	-	2	1	-
子宮動脈塞栓術	4	2	2	4	3	-	-	-	-	7
子宮摘出術	3	-	1	1	-	-	1	-	-	4
その他	22	-	-	-	-	-	-	-	-	6

10 輸血治療症例（例）

本年より産後の母体搬送症例も含めた数としたため、輸血例が急に増えたわけではない。

本年は当センターで分娩症例の5例に輸血を要した。産後出血で母体搬送された症例の83.3%（10/12例）で輸血を要し、輸血をしなかった症例は助産所からの弛緩出血1例と胎盤遺残1例であった。産後の母体搬送症例で非典型溶血性尿毒症症候群の診断に至った1例も輸血を行った。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
輸血治療症例数	27	-	14	20	33	25	24	12	9	17

11 NICU 収容症例数（例）

近年NICU収容新生児数は25%程度であったが、2017年以降は減少し前年は19%であり、本年は170例（26%）に増加している。

前年と比較し、36週以下の早産が110例（14.8%）から112例（17.2%）に増加し、出生体重2,000g未満が152例（20.5%）から145例（22.3%）に減少しているが、NICU収容症例数増加の原因は詳細な解析が必要である。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
NICU収容症例数	121	145	208	227	141	147	110	155	141	170

12 多胎妊娠（例）

本年の多胎妊娠は38例で、前年とおおむね変化はなかった。

三胎妊娠は早産リスクや早産となった場合のNICU占拠数と入院期間の問題から当センターでは取り扱っておらず、奈良医大に紹介としている。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
双胎	34	31	30	37	34	41	24	44	37	38
うちMD(※1)	9	11	11	16	10	18	9	20	18	17
うちDD(※2)	25	20	19	21	24	23	15	24	19	21

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

1 3 母体搬送収容数（例）

県南部からの母体搬送数の受入数が増加し、2018年は155例と県内搬送依頼数の過半数であった。前年の搬送受入数は132件、本年は115例と減少した。母体搬送依頼があったが受け入れられなかった例は、本年は11件で、前年の6件より増加したが、搬送依頼の総数自体は減少していた。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
母体搬送収容数	106	100	105	141	147	148	151	155	132	115

1 4 母体搬送疾患名（例、重複あり）

母体搬送の理由は切迫早産や前期破水が大半を占め、全体として例年とほぼ同様の傾向であった。前置胎盤症例が減少しているのは、早期に高次医療施設へ外来紹介をされているからであると考えられた。当センターへ母体搬送となった前置胎盤1例は奈良医大で入院管理中の症例であった。胎児形態異常は当センターNICUでの対応が困難であることから受入はおこなっていない。本年は切迫早産で受け入れた症例の2例に胎児形態異常があり、同日新生児外科で対応可能な奈良医大と近大奈良にそれぞれ1例ずつ母体搬送した。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	56	62	74	84	97	94	87	101	77	71
妊娠高血圧症候群	8	13	6	10	19	16	11	16	9	9
胎児発育不全	8	5	2	1	1	4	1	-	-	-
産後出血	10	8	2	20	8	11	17	6	14	12
胎児機能不全	5	4	1	2	2	3	9	3	-	2
常位胎盤早期剥離	2	5	5	5	3	3	2	4	5	4
前置胎盤	2	5	2	1	2	2	2	6	5	1
多胎	-	-	1	4	-	-	-	-	-	1
HELLP症候群	-	3	1	2	-	1	2	1	3	1
胎児形態異常	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2
帝王切開合併症	-	-	-	-	-	-	2	-	-	5
未受診	-	-	-	-	-	-	2	-	2	1
その他	18	12	28	12	15	14	15	18	17	17

※1 入院のみ/※2 早産期

1 5 先天異常（例、重複あり）

本集計は分娩統計のデータから抽出しているため、当センターで分娩に至った症例のみに限定されている。流産域での診断や中絶に至った症例、外来管理のみ行った症例、外科疾患や心疾患など出生後に当センターでの対応が困難で他院紹介とした症例についてはすべて省かれていることに留意されたい。

疾患名	2019年		2020年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
口唇裂・口蓋裂	-	-	2	2
獣皮様母斑	-	1	-	-
多指症	-	2	-	-
水腎症	1	1	-	-
potter症候群	1	1	-	-
ターナー症候群	1	1	-	-
Beckwith wiedmann症候群	1	1	1	1
21trisomy	-	1	-	-
骨系統疾患	1	1	-	-
外耳形成不全	-	-	1	-

1 6 母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数（例）

MFICU としての機能を備えた病室は周産期センター内に 3 床備えているが、現在、保険診療上の MFICU として稼働していない。現時点では、搬送直後の症例および重症であり周産期センターで管理すべき症例のほかにも、産科病棟が満床の場合の個室として使用する場合や帝王切開術後の回復病床として使用するなど流動的な扱いとなっている。

今回は、当該病床に入院した人数を集計し表記しているが、上記の通り、その患者数と重症度は必ずしも MFICU の適応に準じているわけではないことに留意されたい。

	2019年	2020年
院内症例	244	219
搬送症例	119	105
合計	363	324

1 7 MFICU 入院適応（例）

その他にあたる症例の多くは、帝王切開術後の回復病床として入室した例および産科病棟の個室が満床であった場合に個室を希望する患者に対応するために入室させた例である。

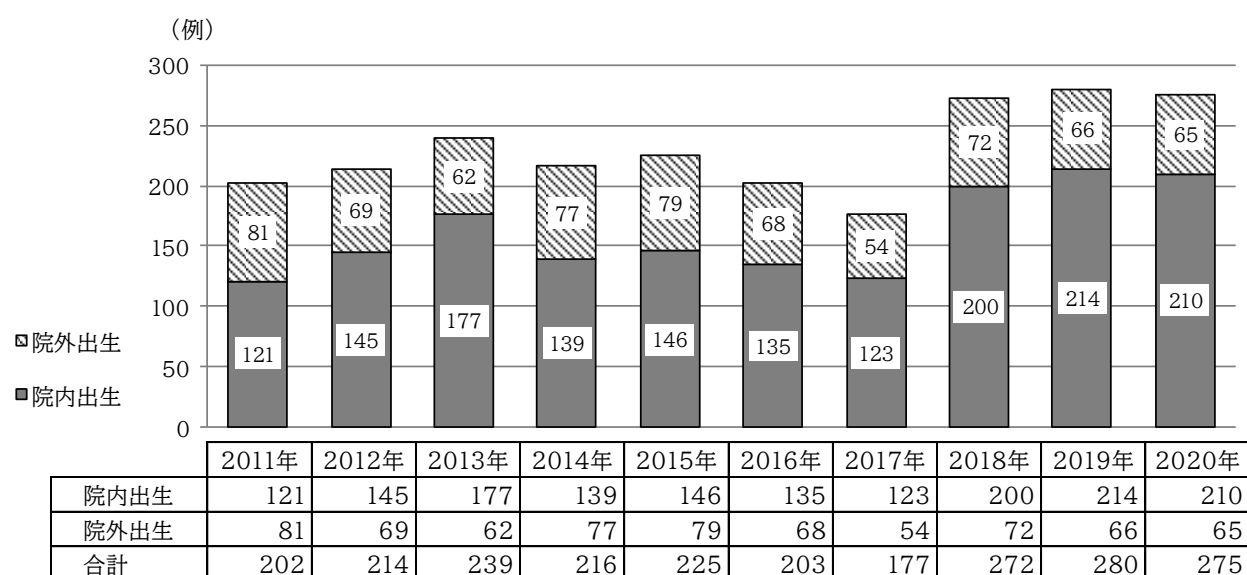
	2019年	2020年
切迫早産(入院のみ)	110	57
妊娠高血圧症候群	13	31
産後出血	12	9
常位胎盤早期剥離	3	4
胎児発育不全(胎内診断のみ)	5	3
前置胎盤	10	12

	2019年	2020年
双胎	10	16
HELLP症候群	4	1
先天異常	7	-
肺水腫	-	-
合併症妊娠	7	1
その他	182	190

第 2 新生児部門診療実績

1 入院数

本年の総入院数は 275 例で、院内出生は 210 例、院外出生は 65 例であった。なお、帝王切開後入院して一旦退院扱いとなり、後に黄疸等の別病名で入院となった児が重複して集計されている。



2 主病名 (例)

比較的在胎週数の大きい児が多く、新生児一過性多呼吸が多く、呼吸障害の重症度も比較的強いものが多かった。

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
呼吸器疾患	101	74	100	91	183
新生児呼吸障害	12	1	-	-	-
新生児一過性多呼吸	55	52	74	63	124
重症新生児無呼吸発作	-	-	-	6	-
新生児無呼吸発作	6	6	12	1	11
新生児呼吸窮迫症候群	18	11	5	11	26
胎便吸引症候群	3	2	5	6	7
喉頭軟化症(疑い含む)	-	-	-	1	1
新生児気胸、新生児緊張性気胸	1	-	1	-	8
新生児慢性肺疾患	-	-	-	3	1
新生児肺出血	5	2	-	-	3
誤嚥性肺炎	1	-	2	-	1
新生児肺炎	-	-	-	-	1
縦隔気腫	-	-	1	-	-
心・循環器疾患	5	7	2	5	16
新生児遷延性高血圧症	1	1	2	2	3
両大血管右室起始症	1	-	-	-	-
動脈管開存症	1	3	-	-	6
心室中隔欠損症	1	1	-	2	2
心房中隔欠損症	-	-	-	-	2
末梢肺動脈狭窄症	-	-	-	-	1
Fallot四徴症	-	-	-	-	1
肺高血圧症	1	-	-	-	-
総肺動脈還流異常	-	1	-	-	1
大動脈狭窄症の疑い	-	1	-	-	-
先天性巨大動脈瘤	-	-	-	1	-
染色体異常 形態異常症候群	3	3	6	3	13
18トリソミー	-	-	-	-	-
21トリソミー(疑い含む)	1	2	4	1	7
Prader-Willi症候群	-	-	-	-	1
口唇口蓋裂・口蓋裂	-	-	-	1	3
両側低形成腎	-	-	-	-	1
気管支肺異形成症	1	-	-	-	-
トリーチャ・コリンズ症候群	1	-	-	-	-
メンケス病の疑い	-	1	-	-	-
ベックウィズ・ヴィーデマン症候群	-	-	-	-	1
1P36欠失症候群	-	-	1	-	-
ルピンスタイン・タイビー症候群	-	-	1	-	-
頸部嚢胞性リンパ管腫	-	-	-	1	-
代謝内分泌	-	-	-	1	1
複合性下垂体機能低下症	-	-	-	1	-
先天性甲状腺機能低下症	-	-	-	-	1
消化管疾患	6	2	4	10	9
新生児嘔吐	5	-	2	6	2
哺乳障害	1	-	-	2	3
肥厚性幽門狭窄症	-	-	-	-	1
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1
新生児血便	-	1	-	1	-
ミルク消化管アレルギー	-	-	-	-	1
胃軸捻症	-	1	-	-	-
体重増加不良	-	-	1	1	-
急性胃粘膜病変	-	-	1	-	1

3 出生週数 (例)

37週以上が増えているのは前年と同様である。27週は、バックトランスファーで転院してきた症例である。

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
感染症	5	5	5	8	3
新生児感染症	3	2	2	4	1
サイトメガロウイルス感染症	1	-	-	-	-
GBS感染症	1	-	1	-	-
先天梅毒(疑い含む)	-	-	-	1	-
新生児敗血症(疑いも含む)	-	3	-	1	-
新生児膿痂疹・膿痂疹	-	-	-	-	2
細菌性髄膜炎	-	-	-	1	-
B群溶連菌感染症	-	-	1	-	-
グラム陰性桿菌敗血症	-	-	1	-	-
新生児カンダ症	-	-	-	1	-
脳・神経疾患	2	-	3	4	5
新生児低酸素性虚血性脳症	1	-	1	2	4
mendosal suture遺残	-	-	-	-	1
新生児痙攣	1	-	2	1	-
てんかんの疑い	-	-	-	-	1
その他	79	46	152	157	107
低出生体重児	21	9	51	32	5
極低出生体重児	4	-	15	11	8
超低出生体重児	4	-	2	1	3
早産児	31	15	28	-	5
重症新生児仮死	3	5	2	26	6
新生児仮死	2	4	1	6	-
潜在性胎児仮死	-	-	-	1	-
新生児重症黄疸	-	-	-	-	1
新生児黄疸	3	4	18	48	35
高ビリルビン血症	1	2	7	4	-
新生児低血糖	3	1	1	4	1
新生児一過性低血糖症	2	-	-	-	-
高インスリン性低血糖症	-	-	-	-	4
新生児高インスリン血症	-	-	-	1	-
新生児低体温症	-	-	-	1	-
新生児鎖骨骨折	1	1	-	-	-
多血症	1	-	-	-	2
新生児ABO不適合溶血性疾患	-	2	1	-	-
双胎間輸血症候群	-	-	-	-	1
胎盤輸血症候群	-	1	21	-	-
母児間輸血症候群	-	-	-	-	1
帝切児症候群	-	2	-	22	29
一過性骨髄増殖症	-	-	-	-	1
甲状腺腫	1	-	-	-	-
左側多嚢胞性異形成腎	-	-	-	-	1
先天性ネフローゼ症候群	-	-	-	-	1
急性胃腸膜病変	1	-	-	-	-
甲状腺機能低下症	-	-	1	-	-
未熟児網膜症	1	-	-	-	1
胎盤からの胎児出血	-	-	1	-	-
副腎皮質過剰形成症の疑い	-	-	1	-	-
新生児溶血性貧血	-	-	1	-	1
新生児便秘症	-	-	1	-	-
新生児薬物離脱症候群	-	-	-	1	-

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
23週	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-
25週	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	1	2	-	-	-	2
28週	1	1	4	3	6	2	3	1	2	1
29週	2	4	4	2	1	1	-	3	5	3
30週	4	8	5	3	5	3	2	9	2	5
31週	10	5	7	4	10	9	9	9	7	1
32週	8	5	12	10	14	13	4	7	7	5
33週	11	9	22	13	17	12	15	11	9	9
34週	16	18	17	23	22	22	21	24	27	26
35週	19	28	27	33	36	32	28	41	24	32
36週	18	13	13	17	16	14	9	20	31	22
37週以上	112	122	127	104	97	89	86	146	161	169
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

4 出生時体重（例）

2,500g以上が増加傾向にあるのは前年と同様である。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
500g未満	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
500-749g	1	-	-	-	-	-	-	2	4	-
750-999g	1	3	2	4	2	7	-	1	-	3
1,000-1,249g	6	6	6	6	10	6	6	9	6	10
1,250-1,499g	8	11	21	10	10	7	9	10	9	5
1,500-1,749g	16	10	24	16	23	19	11	16	15	9
1,750-1,999g	21	27	20	31	35	27	27	25	24	24
2,000-2,249g	28	26	23	31	25	29	27	35	30	35
2,250-2,499g	22	26	31	25	27	27	23	40	37	25
2,500g以上	99	105	112	93	93	80	74	134	155	164

5 人工呼吸器管理（例）

人工呼吸管理症例数は横ばいである。NICU・新生児回復室（GCU）入院の総数のため、人工呼吸管理率は低い。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
入院数(例)	202	214	239	216	225	203	177	272	280	275
人工呼吸器管理症例数(例)	112	80	86	66	84	67	63	60	54	61
人工呼吸器管理症例率(%)	55.4	37.4	36.0	30.6	37.3	33.0	35.6	22.1	19.3	22.2

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

当院は小児外科および心臓血管外科症例対応可能施設ではないため、全症例転院しての手術である。

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
男	36週	2,104g	房室中隔欠損症、21トリソミー疑い	肺動脈絞扼術+動脈管クリッピング術
男	38週	4,285g	ベックウィズ・ヴィーデマン症候群	舌縮小術
男	34週	1,757g	肥厚性幽門狭窄症	幽門形成術
女	41週	2,650g	先天性横隔膜ヘルニア	腹腔鏡下横隔膜ヘルニア修復術

7 血液浄化症例

血液浄化症例は、多血症に対する部分交換輸血が2例、溶血性黄疸および貧血に対する全血交換輸血が1例であった。

出生週数	出生体重	適応疾患	治療法
37週	2,348g	多血症	部分交換輸血
38週	2,991g	溶血性貧血、溶血性黄疸	全血交換輸血
34週	2,227g	多血症	部分交換輸血

8 出生週数別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)
24週	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	100.0 (4 / 4)	- (- / -)
25週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
26週	100.0 (3 / 3)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
27週	100.0 (2 / 2)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (2 / 2)
28週	100.0 (2 / 2)	100.0 (3 / 3)	100.0 (1 / 1)	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)
29週	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	100.0 (3 / 3)	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)
30週	100.0 (3 / 3)	100.0 (2 / 2)	100.0 (9 / 9)	100.0 (2 / 2)	100.0 (5 / 5)
31週	100.0 (9 / 9)	100.0 (9 / 9)	100.0 (9 / 9)	100.0 (7 / 7)	100.0 (1 / 1)
32週	100.0 (3 / 3)	100.0 (4 / 4)	100.0 (7 / 7)	100.0 (7 / 7)	100.0 (5 / 5)
33週	100.0 (12 / 12)	100.0 (15 / 15)	100.0 (11 / 11)	100.0 (9 / 9)	100.0 (9 / 9)
34週	100.0 (22 / 22)	100.0 (21 / 21)	100.0 (24 / 24)	100.0 (27 / 27)	100.0 (26 / 26)
35週	96.9 (31 / 32)	100.0 (28 / 28)	100.0 (41 / 41)	100.0 (24 / 24)	100.0 (32 / 32)
36週	100.0 (14 / 14)	100.0 (9 / 9)	100.0 (20 / 20)	100.0 (31 / 31)	100.0 (22 / 22)
37週以上	100.0 (89 / 89)	98.8 (85 / 86)	99.3 (145 / 146)	98.8 (160 / 162)	99.4 (168 / 169)

内訳:各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

9 出生体重別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)
500-749g	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (2 / 2)	100.0 (4 / 4)	- (- / -)
750-999g	100.0 (7 / 7)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	100.0 (3 / 3)
1,000-1,249g	100.0 (6 / 6)	100.0 (6 / 6)	100.0 (9 / 9)	100.0 (6 / 6)	100.0 (10 / 10)
1,250-1,499g	100.0 (7 / 7)	100.0 (9 / 9)	100.0 (10 / 10)	100.0 (9 / 9)	100.0 (5 / 5)
1,500-1,749g	100.0 (19 / 19)	100.0 (11 / 11)	100.0 (16 / 16)	100.0 (15 / 15)	100.0 (9 / 9)
1,750-1,999g	100.0 (27 / 27)	96.3 (26 / 27)	100.0 (25 / 25)	100.0 (24 / 24)	100.0 (24 / 24)
2,000-2,249g	96.6 (28 / 29)	100.0 (27 / 27)	100.0 (35 / 35)	100.0 (30 / 30)	100.0 (35 / 35)
2,250-2,499g	100.0 (27 / 27)	100.0 (23 / 23)	100.0 (40 / 40)	97.3 (36 / 37)	100.0 (25 / 25)
2,500g以上	100.0 (80 / 80)	100.0 (74 / 74)	99.3 (133 / 134)	99.4 (154 / 155)	99.4 (163 / 164)

内訳:各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

10 新生児死亡数 (例)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	-	1	1	2	-	1	-	2	1
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-

1.1 死亡例一覧

死亡例は重症新生児仮死の1例で、腹腔内出血認めて脳低体温療法を途中で中止した。血圧コントロールも困難であった。

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
男	37週	3,286g	2	重症新生児仮死、新生児低酸素性虚血性脳症

1.2 新生児搬送収容数 (例)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
新生児搬送収容数	81	65	62	79	78	68	56	69	66	60

1 3 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

新生児搬送収容数は71例。バックトランスファーおよび転院を除くと60例となる。また、新生児ドクターカーによる新生児搬送は38件（転院およびバックトランスファーは除く）あり、このうち6件は三角搬送（14参照）で他院NICU施設収容となっている。

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
呼吸器疾患	36	32	31	41	53
呼吸障害	9	-	21	1	1
新生児低酸素血症	-	-	-	-	1
新生児一過性多呼吸	17	27	5	32	36
新生児無呼吸発作	2	-	1	2	2
新生児呼吸窮迫症候群	2	1	-	2	2
新生児気胸、新生児緊張性気胸	1	2	1	-	6
喉頭蓋嚢胞	-	-	-	-	-
新生児肺出血	1	1	-	-	2
気管支肺異形成症	1	-	-	-	-
胎便吸引症候群	2	1	3	4	2
新生児肺炎	-	-	-	-	1
誤嚥性肺炎	1	-	-	-	-
染色体異常 形態異常症候群	1	2	4	2	7
染色体異常	-	-	1	-	-
口唇口蓋裂	-	-	-	-	1
メンケス病の疑い	-	1	1	-	-
ダウン症（疑い含む）	1	1	1	1	5
頸部嚢胞性リンパ管腫	-	-	-	1	-
ベックウィズ・ウィーデマン症候群	-	-	-	-	1
1p36欠失症候群 TRPV4遺伝子ナンセンス変異	-	-	1	-	-
感染症	3	3	2	4	5
感染症	2	2	1	2	3
新生児細菌性髄膜炎	-	-	-	1	-
新生児敗血症	-	1	-	-	-
新生児膿痂疹	-	-	-	-	2
新生児カンジダ症	-	-	-	1	-
敗血症の疑い	-	-	1	-	-
先天性サイトメガロウイルス感染症	1	-	-	-	-
消化管疾患	3	2	5	7	5
新生児嘔吐症	3	-	-	4	1
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1
哺乳不良	-	-	1	-	-
哺乳障害	-	-	1	2	3
胃軸捻症	-	1	-	-	-
新生児血便	-	1	-	-	-
新生児便秘症	-	-	1	-	-
体重増加不良	-	-	-	1	-
膀胱尿管逆流	-	-	1	-	-
副腎皮質過形成症の疑い	-	-	1	-	-

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
心・循環器疾患	3	4	5	2	5
肺高血圧症	1	-	-	-	-
新生児遷延性肺高血圧症	1	-	-	1	1
両大血管右室起始症	-	-	-	-	-
総肺静脈還流異常	-	1	1	-	1
新生児血小小板減少症	-	-	-	-	-
大動脈狭窄症の疑い	-	1	1	-	-
上室性頻拍症	-	-	1	-	-
先天性巨大動脈瘤	-	-	-	1	-
Fallot四徴症	-	-	-	-	1
房室中隔欠損症	-	-	-	-	1
動脈管開存症	-	-	-	-	1
動脈管開存症	1	2	2	-	-
脳・神経疾患	1	-	2	1	-
新生児痙攣	1	-	2	1	-
その他	21	13	24	10	29
低出生体重児	1	1	5	1	-
極低出生体重児	1	1	1	-	1
超低出生体重児	3	1	1	-	2
早産児	5	1	-	2	4
新生児仮死	-	-	2	1	1
重症新生児仮死	3	4	-	3	5
黄疸	3	1	3	-	3
新生児高ビリルビン血症	1	1	2	1	-
新生児ABO不適合溶血性疾患	-	1	-	-	-
新生児脱水症	-	-	-	-	1
CBW	-	-	-	-	1
新生児低酸素性虚血性脳症	1	-	-	1	1
GBS敗血症	1	-	-	-	1
心室中隔欠損症	1	1	-	1	1
新生児鎖骨骨折	1	1	-	-	1
鼠径ヘルニア	-	-	1	-	1
胎盤からの胎児出血	-	-	1	-	1
未熟児網膜症	-	-	-	-	1
母児間輸血症候群	-	-	-	-	1
先天性ネフローゼ症候群	-	-	-	-	1
新生児高インスリン血症	-	-	-	-	2
詳細不明	-	-	8	-	-

1 4 三角搬送（例）

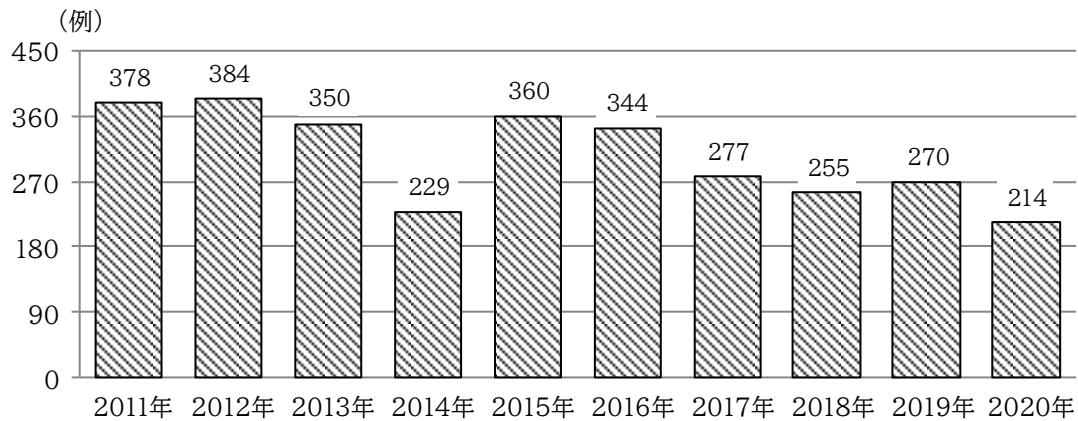
出生週数	出生体重	日齢	主訴	収容先	三角搬送理由
38週	3,550g	0	鎖肛	近大奈良	小児外科疾患のため
39週	2,464g	3	血便	近大奈良	小児外科疾患疑いのため
37週	3,180g	4	嘔吐	近大奈良	小児外科疾患疑いのため
41週	3,254g	0	多呼吸	近大奈良	当院満床のため
41週	3,170g	0	多呼吸、食道閉鎖疑い	近大奈良	小児外科疾患のため
39週	2,416g	4	嘔吐	近大奈良	小児外科疾患疑いのため

第4節 近畿大学奈良病院

第1 産科部門診療実績

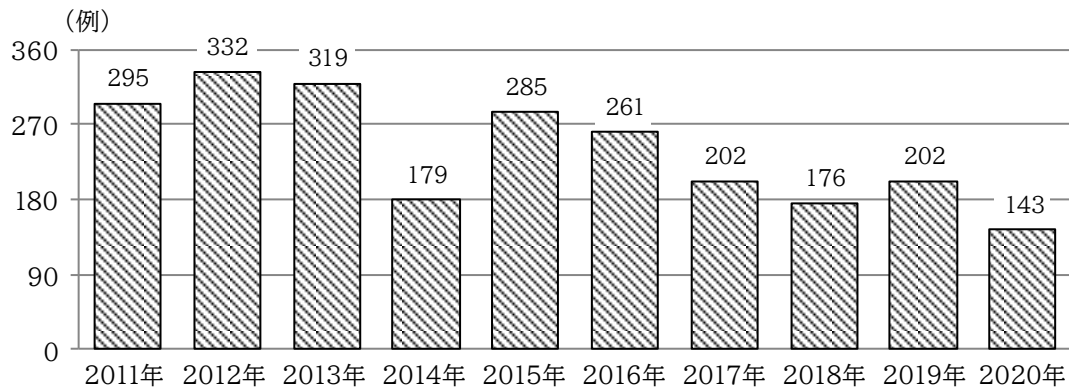
1 入院数

本年の当院における産科入院患者数は分娩数の減少に応じて減少していた。



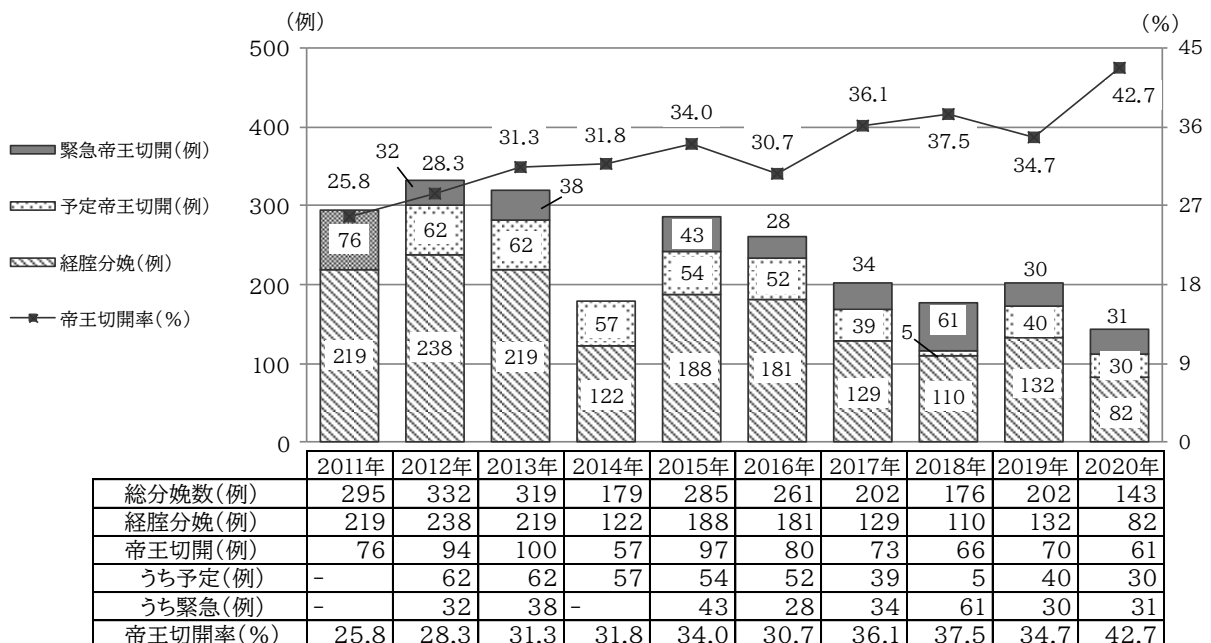
2 分娩数

分娩数は2015年以降減少傾向であり、前年には一旦増加したが、本年はさらに減少した。減少した原因の一つとして、病院内で新型コロナウイルス感染症が発生し、分娩を含めた新規の入院患者受入れを2週間中止したことが挙げられる。実際、この間に10名の分娩予定患者を他院に紹介した。



3 分娩様式

本年は、帝王切開率が42.7%と近年最も高率であった。



4 分娩週数（例、死産児は除く）

当院では現在、妊娠 30 週以降の母体の受け入れを実施している。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
23週	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25週	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
32週	1	-	-	1	3	-	3	-	-	2
33週	-	1	1	2	1	3	1	6	2	2
34週	-	1	2	1	4	8	5	5	3	2
35週	1	2	2	-	10	4	5	6	4	2
36週	4	8	8	1	15	11	5	9	5	7
37週	39	54	44	28	34	31	24	29	16	27
38週	46	75	77	48	78	70	57	43	69	34
39週	70	70	77	32	65	56	46	36	37	34
40週	91	80	67	45	58	54	41	35	50	28
41週	37	32	39	19	17	21	15	11	15	8
42週以上	-	2	1	1	-	1	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

妊娠 30 週以降の分娩を受け入れていること、および胎児先天異常の妊婦の受け入れを行っているため少数ではあるが、1,500g 未満の極低出生体重児の分娩もある。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
500g未満	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
500-999g	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,499g	1	-	-	1	2	-	-	2	-	1
1,500-1,999g	1	2	3	3	6	6	6	7	5	6
2,000-2,499g	24	22	34	7	31	38	25	24	14	19
2,500g以上	264	307	281	168	246	220	172	149	183	120

6 出産時年齢（例）

本年の出生時年齢 35 歳以上の割合は 44.8%、40 歳以上では 17.5%であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	196	232	196	88	154	152	111	96	117	79
35-39歳	85	71	102	67	98	78	74	68	62	39
40-44歳	14	29	21	24	30	29	16	11	22	22
45歳以上	-	-	-	-	-	2	1	1	1	3

7 合併症妊娠（例）

その他 8 例は全例抗リン脂質抗体症候群合併の妊婦である。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	-	-	-	-	14	16	11	12	10	14
子宮筋腫(核出術後)	2	1	-	6	-	-	-	-	1	-
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	-	1	-	13	17	21	14	3	6
子宮頸癌(含円錐切除後)	-	-	-	4	-	-	6	-	2	-

次ページへ続く

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮形態異常	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-
甲状腺機能亢進症	-	-	-	1	1	1	4	2	4	1
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	6	8	13	6	16	8
糖尿病(含GDM)	1	-	-	5	12	37	21	27	21	17
喘息	-	-	-	1	11	12	12	3	11	7
慢性腎炎	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
ITP	-	-	-	-	2	3	2	2	2	-
自己免疫疾患	-	-	-	1	2	-	-	1	1	-
循環器疾患	-	-	-	-	4	5	6	2	1	1
精神科疾患(含てんかん)	-	-	-	-	-	3	-	2	6	3
ウイルス性肝炎(※1)	-	-	-	1	3	3	-	1	1	1
消化器疾患(※2)	-	-	-	1	11	11	15	1	2	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	10	8

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

本年は各種の産科合併症があった。特に弛緩出血が15名と多かった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	3	4	24	16	18	35	90	25	23	19
妊娠高血圧症候群	6	3	10	6	15	11	9	10	12	9
胎児発育不全	1	-	-	9	9	15	13	10	2	3
多胎妊娠	-	-	3	1	6	5	3	7	-	3
前置胎盤	1	4	1	1	4	-	-	4	-	4
産後出血(※3)	4	1	-	-	3	19	26	3	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
弛緩出血(※4)	-	-	-	-	-	2	1	3	3	15
常位胎盤早期剥離	-	5	1	-	2	2	4	1	3	1
HELLP症候群	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1
低置胎盤	-	-	-	-	1	3	1	1	1	1
血液型不適合	-	-	-	-	1	11	9	5	5	3
羊水過多	-	-	-	1	-	5	4	1	1	2
羊水過少	-	-	-	-	-	11	10	-	3	2
先天異常	-	-	-	11	2	8	6	4	4	4

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

近年産科手術はほとんど施行されていない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮頸管縫縮術	-	1	1	1	1	1	-	-	-	-
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
産道血腫除去術	-	-	-	-	-	3	-	-	1	-

10 輸血治療症例（例）

本年は後産期出血に対して3例の輸血治療をしている。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
輸血治療症例数	-	1	-	-	-	9	5	-	4	3

11 NICU収容症例数（例）

毎年、一定数のNICU収容症例数が存在する。

	2018年	2019年	2020年
NICU収容症例数	51	34	42

(※2018年より新規集計、2018年はうち未熟児が31例)

1.2 多胎妊娠（例）

本年の双胎妊娠は3例であった。当院ではMD、MM双胎を扱っていないため全例がDD双胎である。

	2018年	2019年	2020年
双胎	7	-	3
うちMD(※1)	-	-	-
うちDD(※2)	7	-	3

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
(※2018年より新規集計)

1.3 母体搬送収容数（例）

奈良県周産期搬送システムを通して、毎年一定数の母体搬送を収容している。

	2018年	2019年	2020年
母体搬送収容数	8	4	4

(※2018年より新規集計)

1.4 母体搬送疾患名（例、重複あり）

母体搬送例のほとんどが切迫早産や前期破水症例である。

	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	5	4	3
妊娠高血圧症候群	2	-	-
前置胎盤	1	-	-
胎児形態異常	1	-	-
その他	-	-	1

※1 入院のみ／※2 早産期 (※2018年より新規集計)

1.5 先天異常（例、重複あり）

当院は小児外科があるため、胎児異常症例の受入れを行っている。胎児異常の妊婦が小児外科に紹介されてくるため、一定の症例数が毎年ある。

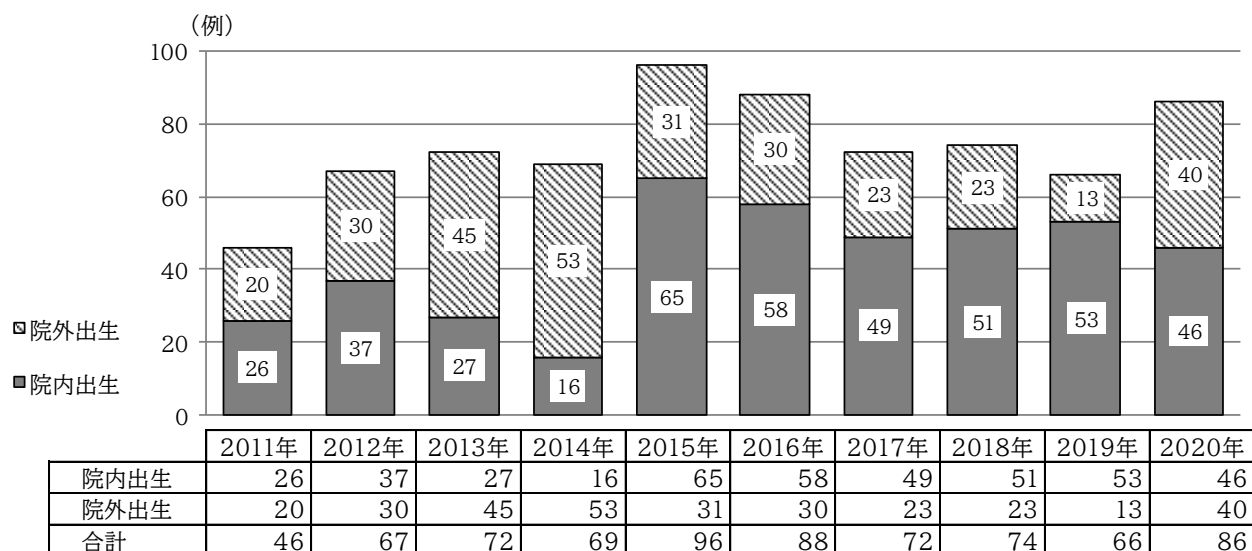
疾患名	2018年		2019年		2020年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	1	-	1	-	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1	1
心室中隔欠損	1	-	-	-	-	-
小腸閉鎖	-	-	-	-	1	-
不整脈	-	-	-	-	1	-
水腎症	1	1	2	2	-	-
鎖肛	1	1	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	1	1	-	-	-	-
卵巣嚢腫	1	1	1	1	-	-
腹壁破裂	1	1	-	-	-	-
食道閉鎖	-	-	-	-	1	1
脳出血	1	-	-	-	-	-
横隔膜ヘルニア	-	-	1	1	-	-
先天性側弯	-	-	1	1	-	-
脳室拡大	-	-	1	1	-	-

(※2018年より新規集計)

第2 新生児部門診療実績

1 入院数

院外出生件数が増加した影響で、入院数は増加している。



2 主病名 (例)

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
内訳	呼吸器疾患	20	12	12	11	10
	新生児一過性多呼吸	-	-	-	7	7
	呼吸窮迫症候群	-	-	-	1	-
	胎便吸引症候群	-	-	-	3	2
	気胸	-	-	-	-	1
内訳	消化管疾患	12	22	17	16	15
	新生児嘔吐症	-	-	-	6	-
	血便	-	-	-	2	-
	腸回転異常症疑い	-	-	-	2	-
	回腸狭窄症	-	-	-	1	-
	哺乳力不良	-	-	-	1	1
	横隔膜ヘルニア	-	-	-	1	1
	血性嘔吐	-	-	-	3	-
	先天性胆道拡張症	-	-	-	-	1
	胃軸捻転	-	-	-	-	5
	小腸閉鎖	-	-	-	-	1
	急性胃粘膜障害	-	-	-	-	1
	臍帯ヘルニア	-	-	-	-	1
	新生児メレナ	-	-	-	-	1
	肥厚性幽門狭窄症	-	-	-	-	1
食道閉鎖	-	-	-	-	2	
内訳	心・循環器疾患	3	2	3	1	5
	重度肺動脈狭窄	-	-	-	1	-
	不整脈	-	-	-	-	1
	肺動脈閉鎖	-	-	-	-	1
	動脈管開存	-	-	-	-	1
	動脈管開存術後	-	-	-	-	1
	生理的心雑音	-	-	-	-	1
内訳	脳・神経疾患	3	1	-	2	-
	低酸素性虚血性脳症	-	-	-	1	-
	仙尾部形態異常腫	-	-	-	1	-
	染色体異常 形態異常症候群	-	-	-	2	1
	ダウン症候群疑い	-	-	-	1	-
	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	1	-
	13トリソミー	-	-	-	-	1
	感染症	3	3	2	1	6
	新生児感染症	-	-	-	1	5
	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	-	-
	GBS髄膜炎	-	-	-	-	1
	代謝内分泌	-	-	-	-	2
	新生児低血糖	-	-	-	-	2
	その他	35	29	39	33	37
	低出生体重児	-	-	-	21	28
極低出生体重児	-	-	-	-	2	
早産児	-	-	-	-	3	
新生児黄疸	-	-	-	3	-	
多血症	-	-	-	1	-	
新生児仮死	-	-	-	1	-	
卵巣嚢腫	-	-	-	1	-	
低体温症	-	-	-	1	-	
過体重児	-	-	-	1	-	
頸部リンパ管腫	-	-	-	1	-	
下腿浮腫	-	-	-	1	-	
水腎症	-	-	-	2	1	
口蓋裂	-	-	-	-	1	
副腎機能低下症の疑い	-	-	-	-	1	
乳児消化管アレルギー	-	-	-	-	1	

(※2014年～2018年は内訳未集計)

3 出生週数 (例)

出生週数に大きな変化はなし。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
22週未満	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
22週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
25週	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
29週	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
32週	-	-	2	1	2	-	3	-	-	2
33週	1	1	1	1	4	3	1	6	2	2
34週	1	1	1	1	5	11	9	7	3	6
35週	-	2	2	-	13	5	5	5	4	3
36週	5	8	6	1	15	7	5	8	6	9
37週以上	39	313	57	174	56	62	48	46	50	64

4 出生時体重（例）

前年より低出生体重児の入院数は増加している。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
500g未満	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
750-999g	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
1,250-1,499g	-	-	3	-	3	-	1	3	-	1
1,500-1,749g	1	1	3	2	1	4	5	2	3	1
1,750-1,999g	2	1	-	1	7	4	4	5	3	8
2,000-2,249g	4	4	2	4	11	15	6	7	4	10
2,250-2,499g	6	18	17	4	21	18	20	22	11	20
2,500g以上	33	301	45	167	52	46	36	34	45	46

5 人工呼吸器管理（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
入院数(例)	46	-	72	69	96	88	72	74	66	86
人工呼吸器管理症例数(例)	17	-	17	20	10	16	15	10	8	11
人工呼吸器管理症例率(%)	37.0	-	23.6	29.0	10.4	18.2	20.8	13.5	12.1	12.8

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
男	40週	3,402g	仙尾部奇形腫	仙骨前面～仙尾部腫瘍摘出術
女	40週	3,234g	頸部のう胞性リンパ管腫	頸部嚢胞性リンパ管腫硬化療法(OK-432局注)
男	39週	3,124g	鎖肛	直腸肛門形成術(会陰式)
男	38週	3,550g	鎖肛	人工肛門造設術
男	37週	3,165g	小腸閉鎖、胎便性腹膜炎	先天性腸閉鎖症手術
男	37週	3,165g	右鼠径ヘルニア嵌頓	鼠径ヘルニア根治術
女	41週	3,170g	食道閉鎖	胸腔鏡下食道閉鎖根治術
女	37週	1,948g	横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下(腹腔鏡下を含む)横隔膜縫合術
女	39週	2,728g	先天性胆道拡張症	腹腔鏡下胆嚢ドレナージ術
男	34週	1,757g	肥厚性幽門狭窄症	幽門形成術(粘膜炎外幽門筋切開術を含む)

7 血液浄化症例

該当なし

8 出生週数別の日齢28日以後の生存率(%)

	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)
24週	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)
25週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
26週	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
27週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
28週	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
29週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
30週	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)
31週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)
32週	- (- / -)	100.0 (3 / 3)	- (- / -)	- (- / -)	50.0 (1 / 2)
33週	100.0 (3 / 3)	100.0 (1 / 1)	100.0 (6 / 6)	100.0 (2 / 2)	100.0 (2 / 2)
34週	100.0 (11 / 11)	100.0 (9 / 9)	100.0 (7 / 7)	100.0 (3 / 3)	100.0 (6 / 6)
35週	80.0 (4 / 5)	100.0 (5 / 5)	100.0 (5 / 5)	100.0 (4 / 4)	100.0 (3 / 3)
36週	100.0 (7 / 7)	100.0 (5 / 5)	100.0 (8 / 8)	100.0 (6 / 6)	100.0 (9 / 9)
37週以上	100.0 (62 / 62)	97.9 (47 / 48)	100.0 (46 / 46)	100.0 (50 / 50)	98.4 (63 / 64)

内訳:各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

9 出生体重別の日齢28日以後の生存率(%)

	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)
500-749g	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)
750-999g	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
1,000-1,249g	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
1,250-1,499g	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	100.0 (3 / 3)	- (- / -)	0.0 (0 / 1)
1,500-1,749g	100.0 (4 / 4)	100.0 (5 / 5)	100.0 (2 / 2)	100.0 (3 / 3)	100.0 (1 / 1)
1,750-1,999g	100.0 (4 / 4)	75.0 (3 / 4)	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)	87.5 (7 / 8)
2,000-2,249g	93.3 (14 / 15)	100.0 (6 / 6)	100.0 (7 / 7)	100.0 (4 / 4)	100.0 (10 / 10)
2,250-2,499g	100.0 (18 / 18)	100.0 (20 / 20)	100.0 (22 / 22)	100.0 (11 / 11)	100.0 (20 / 20)
2,500g以上	100.0 (46 / 46)	100.0 (36 / 36)	100.0 (34 / 34)	100.0 (45 / 45)	100.0 (46 / 46)

内訳:各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

10 新生児死亡数(例)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	-	-	1	1	1	-	-	-	1
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	1	-	2	-	1	-	-	1

11 死亡例一覧

13 トリソミー症例は横隔膜ヘルニア根治術を施行した。臍帯ヘルニア症例は出生後早期に死亡した。

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
女	37週	1,948g	116	13トリソミー 横隔膜ヘルニア
女	32週	1,442g	0	臍帯ヘルニア、多発奇形

12 新生児搬送収容数(例)

当院ドクターカーでの搬送を開始したため、院外出生の受け入れ件数は増加している。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
新生児搬送収容数	6	7	20	15	20	24	23	10	13	40

13 新生児搬送疾患名(例、重複あり)

当院の特性上、外科疾患が搬送症例の多くを占めている。

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
心・循環器疾患	2	1	-	1	2
心雑音	1	-	-	1	1
肺高血圧症	1	-	-	-	-
不整脈	-	1	-	-	-
動脈管術後	-	-	-	-	1
内訳					
染色体異常 形態異常症候群	1	2	-	-	-
染色体異常	-	1	-	-	-
ダウン症の疑い	1	-	-	-	-
口唇口蓋裂	-	1	-	-	-

次ページに続く

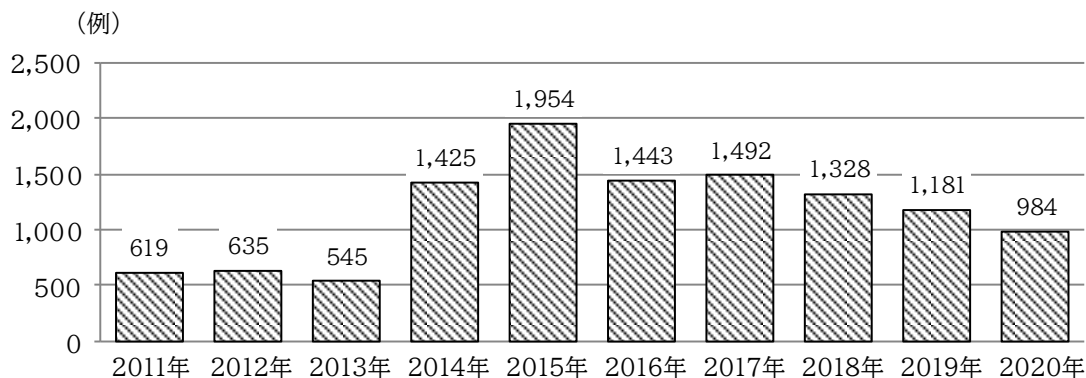
		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
呼吸器疾患		12	5	1	-	7	消化管疾患		6	14	6	7	18
内 訳	呼吸障害	6	1	-	-	2	内 訳	新生児嘔吐症	-	1	-	2	3
	新生児一過性多呼吸	2	-	-	-	3		血性嘔吐	-	-	-	-	3
	多呼吸	2	-	-	-	1		嘔吐	-	2	2	-	5
	胎便吸引症候群	1	-	-	-	-		哺乳緩慢	1	-	-	-	-
	新生児気胸	-	3	-	-	1		哺乳不良	1	1	2	-	-
	気切	-	1	-	-	-		新生児メレナ	-	-	-	-	1
	SpO2低下	-	-	1	-	-		血便	-	2	1	2	1
	喉頭蓋嚢胞	1	-	-	-	-		小腸狭窄	-	-	-	1	-
	脳・神経疾患	-	-	-	1	-		鎖肛	1	-	-	-	-
低酸素性虚血性脳症の気切	-	-	-	1	-	腹壁破裂		-	-	-	-	2	
その他	1	-	1	4	13	腹部膨満		2	1	-	-	-	
低出生体重児	1	-	1	1	8	胃出血		-	1	-	-	-	
下腿浮腫	-	-	-	1	-	ヒルシスブルング病疑い		-	2	1	-	-	
頸部リンパ管腫	-	-	-	1	-	腸回転異常症の疑い		-	1	-	2	-	
仙尾部形態異常腫	-	-	-	1	-	消化管狭窄疑い		1	-	-	-	-	
早産児	-	-	-	-	1	横隔膜ヘルニア		-	1	-	-	1	
GBS髄膜炎髄膜炎	-	-	-	-	1	滞便イリウス		-	1	-	-	-	
新生児感染症	-	-	-	-	1	食道閉鎖		-	-	-	-	1	
HBV予防目的	-	-	-	-	1	総胆管拡張症	-	-	-	-	1		
新生児黄疸	-	-	-	-	1	吐血	-	1	-	-	-		

第5節 天理よろづ相談所病院

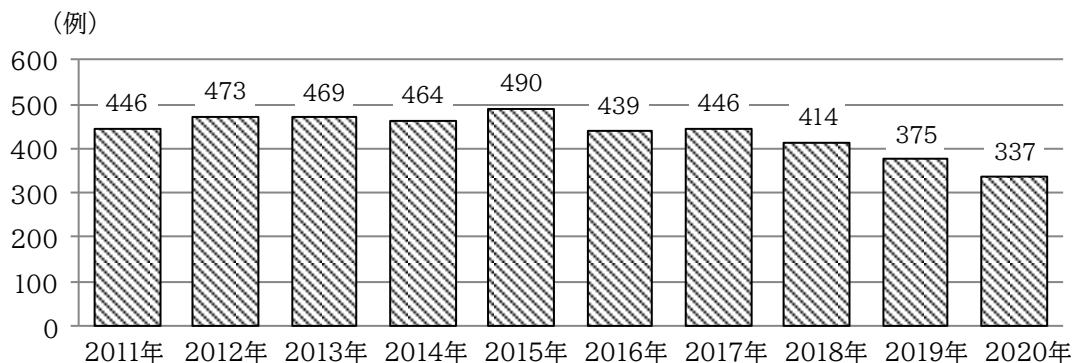
第1 産科部門診療実績

1 入院数

2014年度より産科・婦人科合同で1病棟となったため、産科のみの年間入院数は算出不可能である。

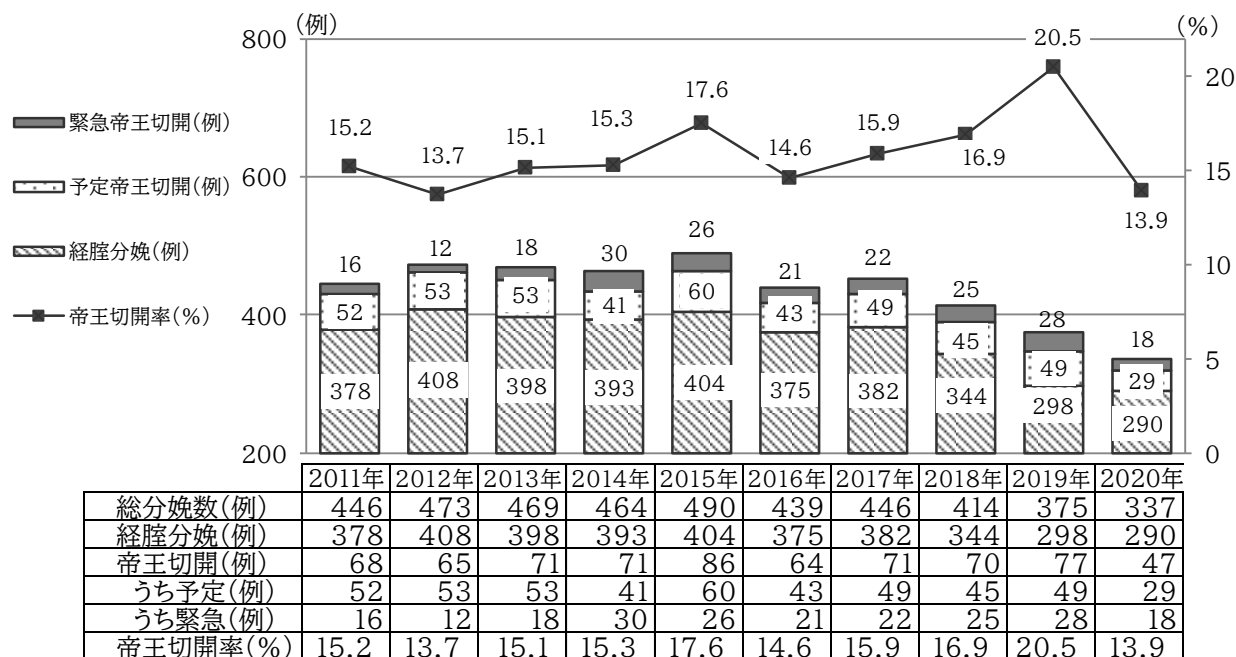


2 分娩数



3 分娩様式

本年の帝王切開率は低下した。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

早産域の分娩数は前年に比べて減少した。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
34週	2	-	1	-	1	3	-	1	-	-
35週	5	6	8	10	7	4	3	3	3	-
36週	19	8	9	15	15	15	14	10	9	6
37週	76	83	38	56	39	29	50	57	44	29
38週	128	118	151	121	138	107	112	107	77	74
39週	123	163	146	137	151	98	140	132	105	103
40週	83	77	92	99	101	135	97	89	113	97
41週	11	18	21	21	28	30	29	15	21	29

5 出生体重 (例、死産児は除く)

低出生体重児の出生数は前年より増加した。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1,500-1,999g	2	4	7	4	2	6	2	1	1	2
2,000-2,499g	41	46	46	41	46	27	33	31	22	24
2,500g以上	403	423	413	414	433	403	411	384	349	313

6 出産時年齢 (例)

45歳以上の分娩はなかった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	329	355	337	343	345	306	304	295	254	244
35-39歳	96	88	120	96	118	109	114	92	93	83
40-44歳	19	30	11	25	27	17	26	27	25	10
45歳以上	2	-	1	-	-	1	1	-	3	-

7 合併症妊娠（例）

合併症妊娠の内訳には大きな変化はない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	25	19	20	18	14	15	10	5	12	16
子宮筋腫(核出術後)	-	-	4	3	6	2	2	-	2	4
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	2	1	-	-	10	11	5	7	4
子宮頸癌(含円錐切除後)	-	3	1	-	-	3	-	-	-	-
子宮形態異常	-	1	3	1	-	-	4	-	2	1
甲状腺機能亢進症	11	17	15	13	16	11	4	4	2	3
甲状腺機能低下症	4	-	-	6	-	4	4	1	8	7
糖尿病(含GDM)	16	15	28	27	6	33	30	17	32	29
喘息	11	16	14	13	15	8	4	2	20	27
慢性腎炎	-	-	-	-	-	-	1	-	1	2
本態性高血圧	-	-	1	1	-	-	1	-	2	1
ITP	2	1	-	1	-	-	1	-	1	-
自己免疫疾患	4	5	4	6	6	6	7	1	3	2
循環器疾患	3	12	3	6	2	3	6	3	7	3
精神科疾患(含てんかん)	4	6	10	10	3	7	7	3	8	8
ウイルス性肝炎(※1)	-	2	1	-	-	2	-	-	2	2
消化器疾患(※2)	-	-	-	1	-	-	-	-	2	2
その他	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	139	128	132	142	152	113	93	41	25	17
妊娠高血圧症候群	12	18	18	18	16	14	7	4	8	11
胎児発育不全	11	34	11	7	10	3	4	6	5	5
多胎妊娠	2	6	6	3	5	3	3	2	1	2
前置胎盤	2	1	1	-	2	1	4	-	-	1
産後出血(※3)	111	101	115	96	-	-	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
弛緩出血(※4)	-	-	-	-	-	-	44	21	94	61
常位胎盤早期剥離	11	1	1	4	4	1	4	-	-	2
HELLP症候群	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
低置胎盤	-	-	3	2	1	2	-	2	2	-
血液型不適合	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4
羊水過多	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-
羊水過少	-	-	-	4	4	-	1	1	1	4
その他	5	-	-	-	-	5	-	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

産科手術の内訳には大きな変化はない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮頸管縫縮術	9	4	7	6	12	10	2	3	2	3
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	3	2	1	-	-	1	-	1	2	-
産道血腫除去術	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-
子宮動脈塞栓術	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
子宮摘出術	-	-	-	2	-	1	1	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
輸血治療症例数	1	-	3	3	1	2	5	1	1	2

1 1 多胎妊娠（例）

双胎症例数は例年と同様であった。

	2018年	2019年	2020年
双胎	2	1	2
うちMD(※1)	-	-	-
うちDD(※2)	2	1	2

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
 (※2018年より新規集計)

1 2 母体搬送収容数（例）

	2020年
母体搬送収容数	4

1 3 母体搬送疾患名（例）

その他は陣痛発来後に呼吸困難が出現した症例である。

	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	1
妊娠高血圧症候群	2
その他	1

※1 入院のみ／※2 早産期

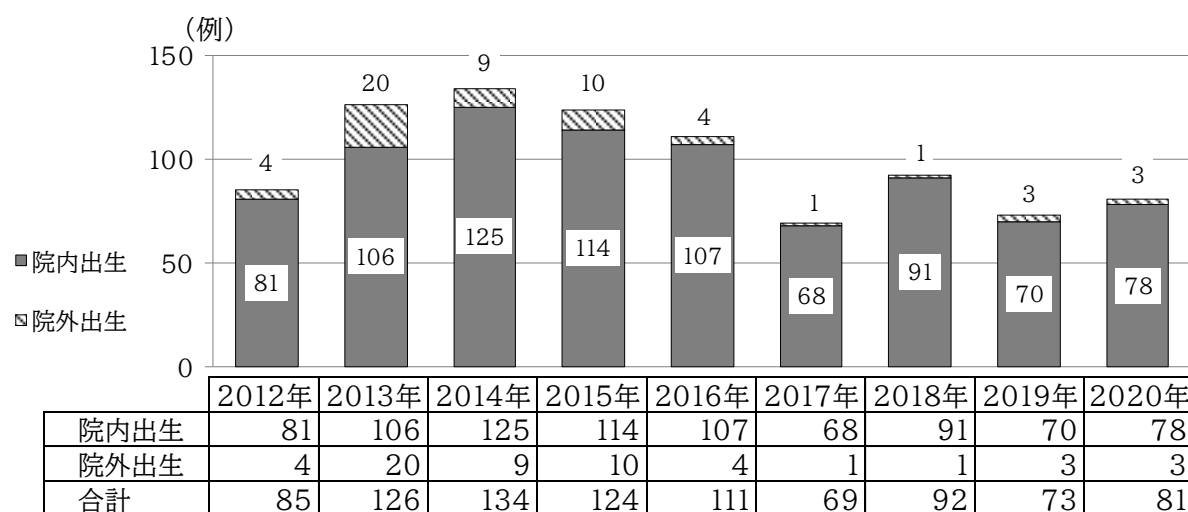
1 4 先天異常（例、重複あり）

先天異常は未集計としている。

第2 新生児部門診療実績

1 入院数

入院 81 名中、院外出生（＝搬送入院）が 3 例で、そのうち 1 例は自宅出産であった。また、死亡例はなかった。



2 主病名（例）

気胸は一過性多呼吸に併発している。

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
呼吸器疾患		72	35	44	15	25
内訳	一過性多呼吸	37	19	20	10	10
	呼吸障害	27	14	19	5	14
	気胸(軽症)	8	2	5	(5)	1
心・循環器疾患		3	3	2	-	-
	先天性心疾患	-	3	2	-	-
消化管疾患		5	1	-	1	1
内訳	ミルクアレルギー	1	1	-	-	-
	腸回転異常	-	-	-	1	1
脳・神経疾患		1	-	3	-	-
感染症		35	14	17	12	15
内訳	MAS(軽症)	2	1	3	5	5
	不明感染症	33	13	13	7	10
	GBS感染	-	-	1	-	-

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
染色体異常 形態異常症候群		1	1	3	-	-
	ダウン症候群	-	1	2	-	-
代謝内分泌		-	-	-	10	16
	低血糖症	-	-	-	10	16
その他		29	20	29	35	58
内訳	特発性黄疸	23	14	17	12	11
	仮死	6	6	9	5	10
	高インスリン血症性血糖症	-	-	3	-	-
	低体重	-	-	-	5	18
	多発小形態異常	-	-	-	1	-
	頻脈	-	-	-	1	-
	哺乳不良	-	-	-	5	7
	無呼吸発作	-	-	-	2	8
	血小板減少	-	-	-	1	-
	早期産	-	-	-	3	4

3 出生週数(例)

当院小児科では、在胎 35 週以上または出生体重 2,000g 以上を受け入れ基準としている。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
26週	-	1	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	1	-	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	2	-	-	-	-
34週	-	1	-	1	4	-	1	1	-
35週	4	9	11	6	3	4	3	3	-
36週	4	5	9	7	11	12	4	10	4
37週以上	77	109	114	110	91	52	84	59	77

4 出生時体重(例)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
500g未満	-	1	-	-	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	-	-	-	-
750-999g	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,250-1,499g	-	1	-	-	-	-	-	-	-
1,500-1,749g	1	1	-	-	2	-	-	1	-
1,750-1,999g	3	5	4	3	4	2	1	1	3
2,000-2,249g	10	8	5	10	7	4	6	6	5
2,250-2,499g	10	15	18	16	11	8	13	5	10
2,500g以上	61	95	107	95	85	54	72	60	63

5 人工呼吸器管理(例)

人工呼吸のほとんどは経鼻的持続陽圧換気(CPAP)である。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
入院数(例)	85	126	134	124	111	68	92	73	81
人工呼吸器管理症例数(例)	2	-	-	-	4	2	-	6	7
人工呼吸器管理症例率(%)	2	-	-	-	4	3	-	8.2	8.2

6 外科手術(心臓、眼科、脳外科など含む)

該当なし

7 血液浄化症例

該当なし

8 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率 (%)

	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)
33週	100.0 (2 / 2)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
34週	100.0 (4 / 4)	- (- / -)	(1 / 1)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)
35週	100.0 (3 / 3)	100.0 (4 / 4)	100.0 (3 / 3)	100.0 (3 / 3)	- (- / -)
36週	100.0 (11 / 11)	100.0 (12 / 12)	100.0 (4 / 4)	100.0 (10 / 10)	100.0 (4 / 4)
37週以上	100.0 (91 / 91)	100.0 (52 / 52)	98.8 (83 / 84)	100.0 (59 / 59)	100.0 (77 / 77)

内訳:各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

9 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率 (%)

	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)
1,500-1,749g	100.0 (2 / 2)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)
1,750-1,999g	100.0 (4 / 4)	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	100.0 (3 / 3)
2,000-2,249g	100.0 (7 / 7)	100.0 (4 / 4)	100.0 (6 / 6)	100.0 (6 / 6)	100.0 (5 / 5)
2,250-2,499g	100.0 (11 / 11)	100.0 (8 / 8)	100.0 (13 / 13)	100.0 (5 / 5)	100.0 (10 / 10)
2,500g以上	100.0 (85 / 85)	100.0 (54 / 54)	98.6 (71 / 72)	100.0 (60 / 60)	100.0 (63 / 63)

内訳:各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

10 新生児死亡数 (例)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	1	-	-	-	-	1	-	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

11 死亡例一覧

該当なし

12 新生児搬送収容数 (例)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
新生児搬送収容数	-	22	9	10	4	1	1	3	3

13 新生児搬送疾患名 (例、重複あり)

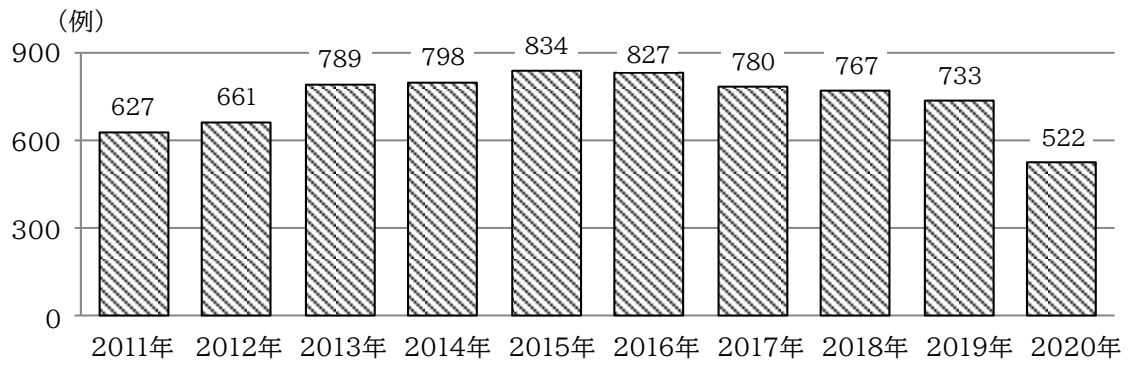
		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
内訳	心・循環器疾患	5	-	-	1	-	内訳	呼吸器疾患	1	1	-	1	-
	不整脈	-	-	-	1	-		呼吸障害	-	1	-	1	-
	完全大血管転移	1	-	-	-	-		肺炎	1	-	-	-	-
	両大血管右室起始	1	-	-	-	-		その他	-	-	1	-	3
	房室中隔欠損	2	-	-	-	-		チアノーゼ	-	-	1	-	-
	肺動脈狭窄	1	-	-	-	-		低出生体重児	-	-	-	-	1
染色体異常 奇形症候群	1	-	-	-	-	口唇口蓋裂	-	-	-	-	1		
肺動脈狭窄	1	-	-	-	-	自宅出産	-	-	-	-	1		

第6節 県内分娩取扱病院

第1 市立奈良病院

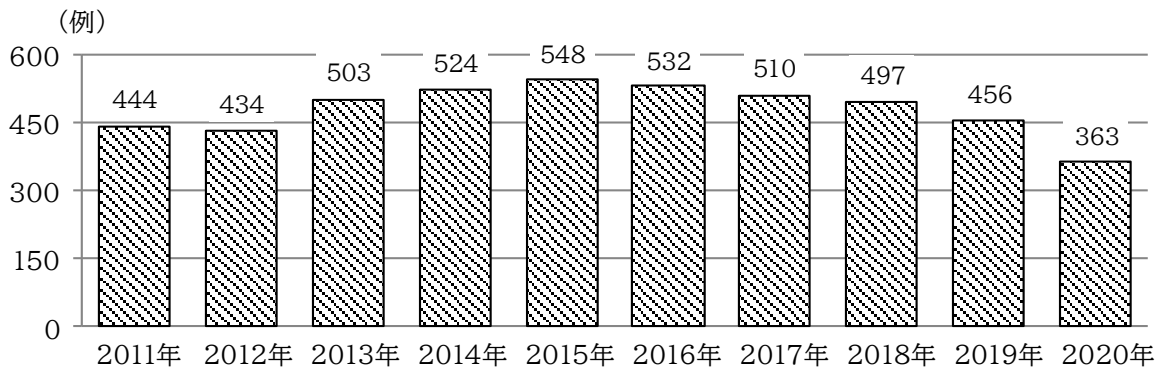
1 入院数

本年、当院は積極的に新型コロナウイルス感染患者に対応し、婦人科の手術を制限した期間があった。また、産科も分娩数が大幅に減少した。そのため、入院数は大幅に減少した。



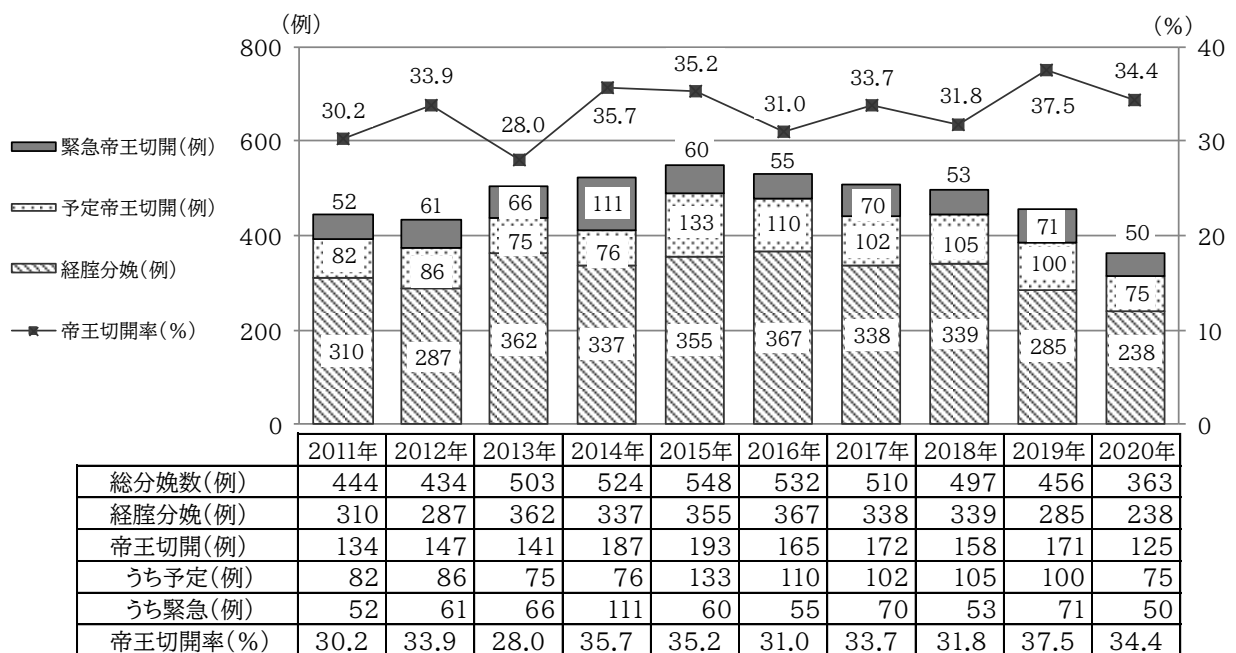
2 分娩数

奈良県内の出生数は毎年、一定の割合で減少し続けているが、本年当院の分娩数はその割合よりも大幅な減少となった。新型コロナウイルス感染患者を扱っている病院であることから、妊婦に忌避された影響が大きかったのではと考えている。



3 分娩様式

大きな変化はなかった。



4 分娩週数（例、死産児は除く）

35週5日の早産が1例あったが、当院で対応可能であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35週	1	1	1	3	-	-	3	-	-	1
36週	13	14	13	25	17	24	18	21	18	14
37週	67	44	46	52	70	65	63	62	52	30
38週	100	121	140	132	157	145	146	129	150	114
39週	108	125	132	142	137	158	124	137	115	106
40週	110	96	128	113	136	115	125	99	100	70
41週	34	27	40	39	30	24	28	42	23	30
42週以上	1	2	1	-	-	-	1	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

大きな変化はなかった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1,500-1,999g	-	-	-	1	2	1	1	1	2	-
2,000-2,499g	27	20	35	26	34	32	35	33	31	28
2,500g以上	409	410	466	485	511	497	472	456	425	337

6 出産時年齢（例）

40歳以上の高年妊婦は減少せず、相対的に頻度は増加した。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	328	324	391	383	394	395	373	368	321	263
35-39歳	80	85	89	108	121	112	107	100	116	76
40-44歳	15	21	21	23	33	25	28	27	19	22
45歳以上	-	-	-	1	-	-	2	2	-	2

7 合併症妊娠（例）

大きな変化はなかった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	8	7	25	20	23	26	14	25	14
子宮筋腫(核出術後)	-	-	5	2	-	-	-	1	1
卵巣嚢腫(腫瘍)	1	1	9	11	11	6	11	8	8
子宮頸癌(含円錐切除後)	4	1	1	8	-	2	3	10	10
子宮形態異常	-	-	-	2	4	1	5	3	-
甲状腺機能亢進症	1	2	6	5	4	3	5	5	5
甲状腺機能低下症	1	2	8	7	9	10	8	13	8
糖尿病(含GDM)	5	5	10	19	16	30	17	17	13
喘息	5	1	12	11	23	9	15	14	18
慢性腎炎	-	-	-	1	6	-	2	1	1
本態性高血圧	1	-	2	3	1	3	1	1	-
自己免疫疾患	-	-	-	2	3	1	2	1	1
循環器疾患	1	-	1	2	3	2	2	6	1
精神科疾患(含てんかん)	-	1	7	6	2	11	8	6	5
ウイルス性肝炎(※1)	-	2	3	1	3	-	1	1	1
消化器疾患(※2)	1	-	1	3	4	-	5	7	2
その他	-	-	-	-	4	-	-	40	18

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など/※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

大きな変化はなかった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	-	58	73	63	61	205	201	272	231	109
妊娠高血圧症候群	1	10	13	28	16	9	9	18	27	12
胎児発育不全	2	11	28	18	19	24	35	28	27	11
多胎妊娠	2	-	-	-	1	3	2	2	2	2
前置胎盤	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
産後出血(※3)	3	17	26	14	12	-	16	34	17	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
弛緩出血(※4)	-	-	-	-	-	10	10	33	14	13
常位胎盤早期剥離	1	1	-	2	1	-	2	1	5	2
HELLP症候群	-	-	-	4	-	-	1	-	3	-
低置胎盤	-	-	-	1	3	1	-	-	1	2
血液型不適合	-	-	-	7	6	11	4	3	3	1
羊水過多	-	-	-	-	1	2	-	1	-	1
羊水過少	-	-	-	5	6	6	1	3	8	4
先天異常	-	-	-	1	1	6	3	1	-	-
その他	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他(例)

癒着胎盤による子宮摘出術(Porro手術)が2例あり、うち1例には子宮動脈塞栓術も行った。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮頸管縫縮術	5	5	2	8	6	14	5	5	4	8
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	3	3	1	-	1	-	-	2	2	2
産道血腫除去術	2	2	1	1	2	-	3	-	-	2
子宮動脈塞栓術	1	1	-	2	1	-	1	2	5	1
子宮摘出術	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2

10 輸血治療症例(例)

Porro手術の2例は、いずれも輸血が必要だった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
輸血治療症例数	2	2	2	2	3	1	3	2	4	2

11 多胎妊娠(例)

分娩様式はすべて予定帝王切開である。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
双子	2	-	-	-	1	3	2	2	2	2
うちMD(※1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うちDD(※2)	2	-	-	-	1	3	2	2	2	2

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

12 先天異常(例、重複あり)

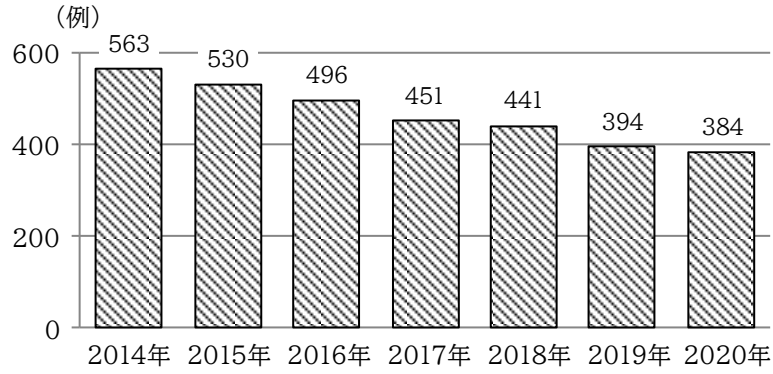
いずれも出生後に異常が判明した。

疾患名	2020年	
	症例数	胎内診断
手指異常(合指/多指)	1	-
心室中隔欠損	2	-

第2 大和郡山病院

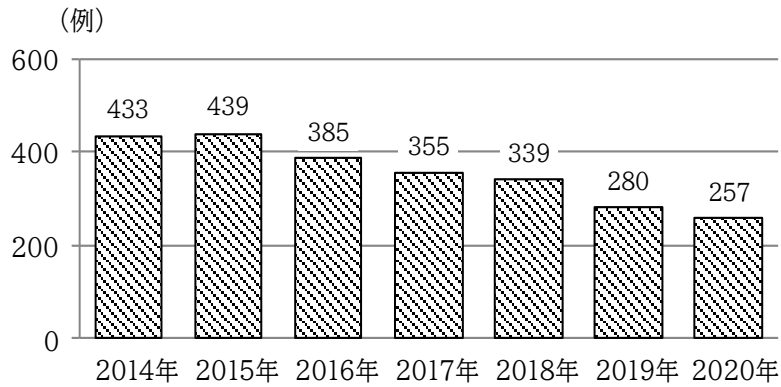
1 入院数

入院数は前年とほぼ同様であった。



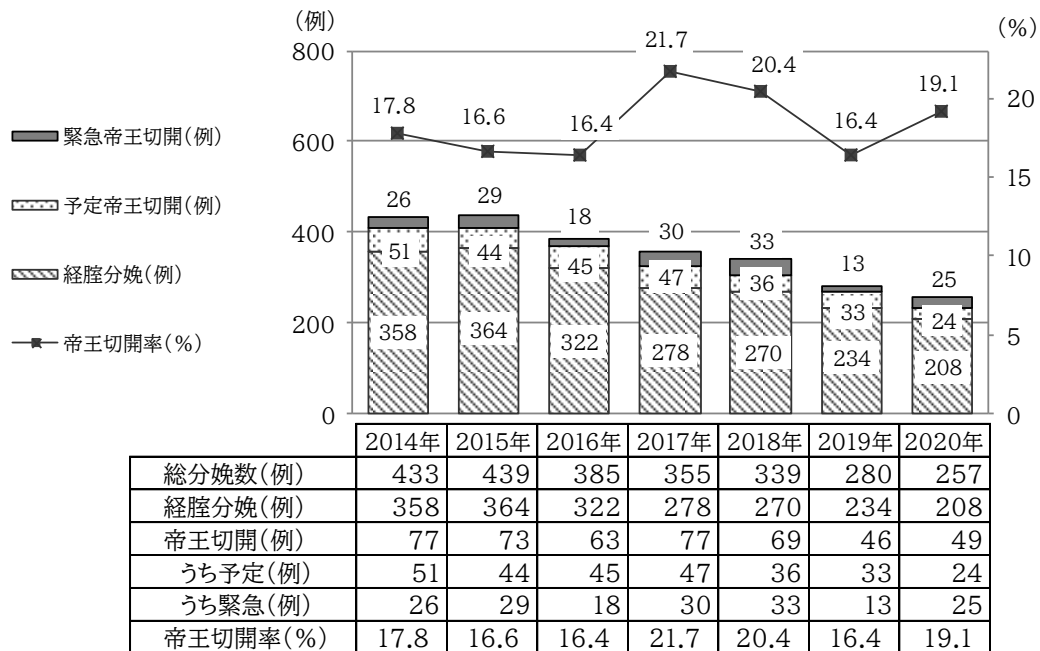
2 分娩数

分娩数は2015年以降減少傾向にある。



3 分娩様式

帝王切開率はほぼ変化がなかった。



4 分娩週数（例、死産児は除く）

ほぼ例年と同様であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35週	1	3	2	3	3	1	1
36週	7	3	6	9	5	4	6
37週	45	44	42	33	38	25	28
38週	102	88	81	90	73	65	56
39週	120	131	125	102	113	82	71
40週	131	117	97	99	79	83	78
41週	29	39	28	16	27	17	17
42週以上	-	-	1	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1,500-1,999g	2	1	1	1	1	-	1
2,000-2,499g	26	22	27	21	20	8	14
2,500g以上	407	402	356	330	317	269	242

6 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	326	308	292	241	249	202	189
35-39歳	96	98	74	94	79	64	53
40-44歳	18	23	19	17	10	14	14
45歳以上	-	-	-	-	1	-	1

7 合併症妊娠（例）

糖尿病（含 GDM）は例年に比べ増加傾向であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	3	2	2	4	12	2	2
子宮筋腫(核出術後)	2	6	-	1	3	-	2
卵巣嚢腫(腫瘍)	2	-	-	-	-	2	-
子宮形態異常	-	-	-	-	1	-	-
甲状腺機能亢進症	1	-	2	-	1	-	3
甲状腺機能低下症	2	1	1	3	1	3	2
糖尿病(含GDM)	3	1	2	2	3	4	7
喘息	4	2	3	2	5	1	2
本態性高血圧	1	1	-	-	-	-	-
自己免疫疾患	-	-	-	-	-	-	1
循環器疾患	-	-	1	-	-	-	-
精神科疾患(含てんかん)	-	-	2	2	1	-	1
ウイルス性肝炎(※1)	-	1	-	-	-	-	-
消化器疾患(※2)	1	3	4	4	10	1	3

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

切迫早産は例年に比べ減少傾向であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	104	99	107	93	76	38	23
妊娠高血圧症候群	7	11	15	18	15	17	8
胎児発育不全	5	3	4	6	3	3	2
多胎妊娠	2	2	2	2	1	1	1
前置胎盤	-	1	-	-	-	1	-

次ページへ続く

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
産後出血(※3)	3	-	2	-	6	1	-
弛緩出血(※4)	-	-	70	56	45	10	23
常位胎盤早期剥離	1	-	1	1	-	-	1
HELLP症候群	-	1	-	5	1	1	6
低置胎盤	-	1	1	-	1	1	-
血液型不適合	5	1	2	1	1	-	-
羊水過少	-	-	-	-	-	4	1
先天異常	-	5	5	2	2	-	-

※1 入院のみ/※2 早産期/※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合/※4 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他(例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮頸管縫縮術	7	3	5	3	1	-	2
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	2	-	-	1	4	2	1
産道血腫除去術	2	1	-	-	1	-	-

10 輸血治療症例(例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
輸血治療症例数	1	-	2	-	3	2	2

11 多胎妊娠(例)

	2018年	2019年	2020年
双胎	2	1	-
うちMD(※1)	1	-	-
うちDD(※2)	1	1	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎/※2 二絨毛膜二羊膜双胎
(※2018年より新規集計)

12 先天異常(例、重複あり)

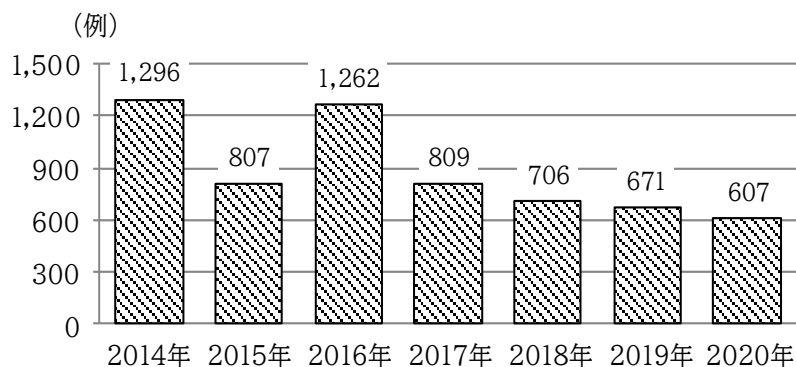
疾患名	2018年		2019年		2020年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	2	2	-	-	-	-
心室中隔欠損	-	-	-	-	2	-
水腎症	-	-	-	-	1	-

(※2018年より新規集計)

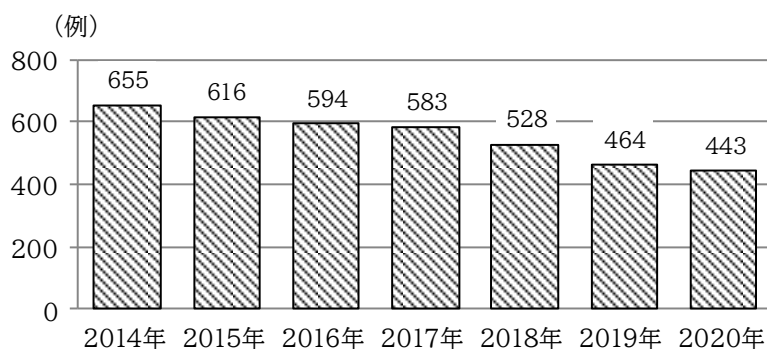
第3 大和高田市立病院

入院数、分娩数ともに減少傾向で、帝王切開率は上昇傾向である。

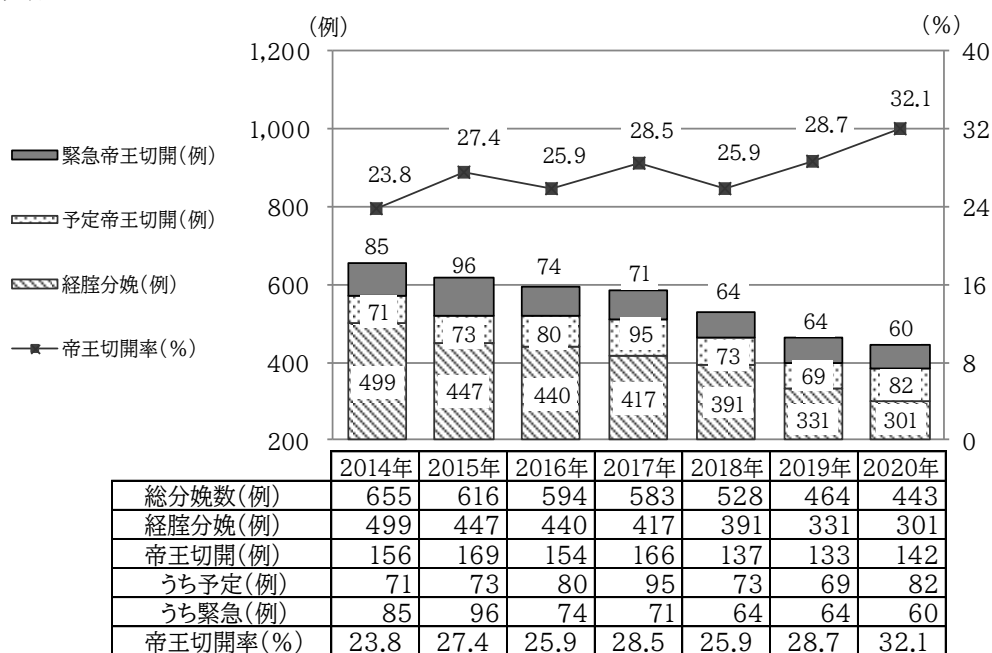
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
28週	-	-	-	-	-	-	1
29週	-	-	-	-	-	-	1
30週	-	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-	1	-
35週	3	2	5	3	-	2	3
36週	23	14	17	15	21	22	12
37週	63	61	56	70	53	45	59
38週	166	138	134	136	115	115	100
39週	205	172	180	174	156	135	120
40週	172	193	167	155	143	115	126
41週	22	30	35	30	40	29	21

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
500-999g					-	-	1
1,000-1,499g	-	-	-	-	-	-	1
1,500-1,999g	1	-	1	-	1	1	2
2,000-2,499g	65	51	34	40	35	33	26
2,500g以上	588	563	559	545	492	430	413

6 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	507	475	471	430	400	362	344
35-39歳	120	116	99	120	103	84	78
40-44歳	27	24	22	33	25	18	20
45歳以上	-	1	2	-	-	-	1

7 合併症妊娠（例）

合併症等もほぼ変化はない。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	5	4	8	7	-	1	1
子宮筋腫(核出術後)	-	-	4	3	-	1	3
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	8	3	5	6	36	3
子宮頸癌(含円錐切除後)	4	-	4	2	-	-	-
甲状腺機能亢進症	2	-	5	1	2	1	2
甲状腺機能低下症	4	-	4	5	-	-	1
糖尿病(含GDM)	18	9	10	7	10	14	9
喘息	4	2	3	3	-	-	1
慢性腎炎	2	-	-	2	-	1	-
本態性高血圧	-	-	-	-	-	17	2
ITP	-	-	-	-	-	1	1
自己免疫疾患	-	-	2	3	1	3	6
循環器疾患	-	2	2	2	5	-	7
精神科疾患(含てんかん)	1	-	2	1	1	2	-
ウイルス性肝炎(※1)	4	2	2	-	-	-	-
消化器疾患(※2)	3	1	4	5	4	40	3

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など/※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

弛緩出血は定義の見直しにより増加している。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	41	65	76	103	98	12	6
妊娠高血圧症候群	12	21	7	22	19	21	22
胎児発育不全	10	8	1	1	3	8	5
多胎妊娠	4	4	2	2	1	-	-
前置胎盤	2	1	1	2	-	1	-
産後出血(※3)	40	29	8	10	10	-	-
子癇	-	-	-	-	3	2	4
弛緩出血(※4)	-	-	-	-	3	1	111
常位胎盤早期剥離	5	3	2	1	4	1	2
低置胎盤	2	2	-	-	-	1	-
血液型不適合	4	-	4	3	1	-	-
羊水過多	-	-	-	1	1	8	-
羊水過少	4	1	-	-	-	1	3
先天異常	1	1	2	-	1	1	2

※1 入院のみ/※2 早産期/※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合/※4 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	-	2	2	1	55	1
産道血腫除去術	-	2	-	2	-	-	1
子宮摘出術	-	-	-	-	-	1	-

10 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
輸血治療症例数	2	4	1	5	2	6	1

11 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年
双胎	1	-	-
うちMD(※1)	-	-	-
うちDD(※2)	1	-	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

(※2018年より新規集計)

12 母体搬送収容数（例）

奈良医大が満床であったため、近隣医療機関で対応が可能であった当院が受け入れた。

	2018年	2019年	2020年
母体搬送収容数	-	1	1

(※2018年より新規集計)

13 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2018年	2019年	2020年
切迫早産(入院のみ)・ 前期破水(早産期)	-	1	1

14 先天異常（例、重複あり）

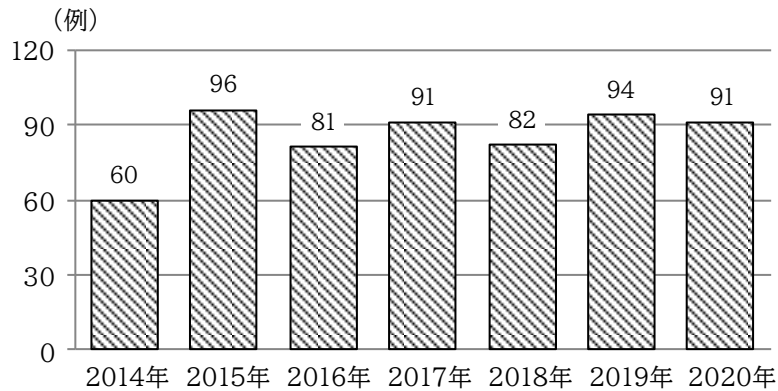
疾患名	2018年		2019年		2020年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
脳室拡大	1	1	-	-	-	-
心室中隔欠損	5	-	-	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	1	1	2	1
水腎症	1	-	-	-	-	-
血管腫	6	-	-	-	-	-

(※2018年より新規集計)

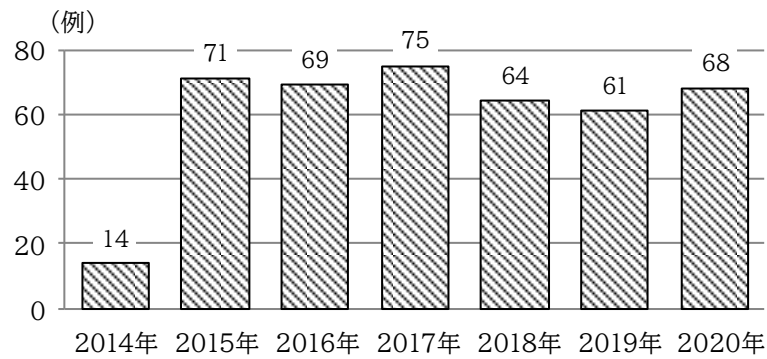
第4 高井病院

1 入院数

入院数、分娩数ともに大きな変化はない。

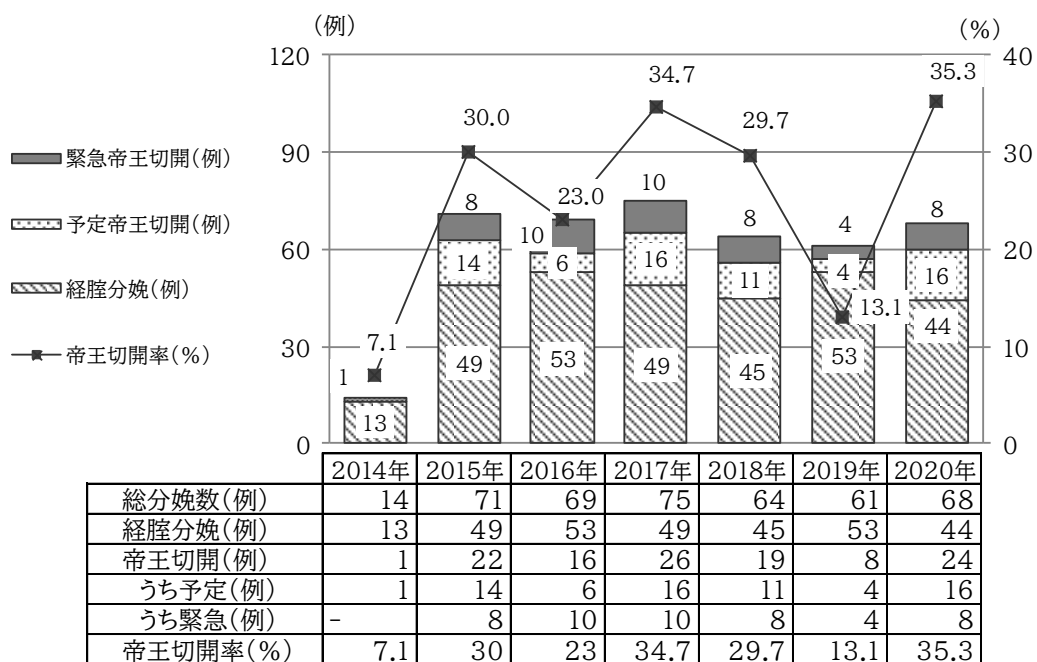


2 分娩数



3 分娩様式

反復帝王切開や骨盤位などの予定帝王切開が多かったため帝王切開率が増加している。



4 分娩週数（例、死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
31週	-	-	-	1	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-	-	-
35週	-	1	-	2	2	-	-
36週	-	2	2	1	-	2	-
37週	1	12	5	11	12	4	6
38週	7	13	12	14	22	15	23
39週	1	16	19	24	9	15	19
40週	3	21	20	18	14	18	13
41週	2	5	11	4	5	7	7

5 出生体重（例、死産児は除く）

出生体重 1,500-1,999g の 1 例は、胎児発育不全により 37 週から管理入院した例である。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-	-	1
2,000-2,499g	-	7	4	7	5	3	-
2,500g以上	14	63	65	67	59	58	67

6 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	10	59	55	59	50	52	52
35-39歳	3	11	12	14	12	8	13
40-44歳	1	1	2	2	2	1	3

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	-	-	-	3	-	2	1
子宮筋腫(核出術後)	-	-	-	-	1	-	-
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	-	2	1	2	-	-
子宮頸癌(含円錐切除後)	-	-	-	-	2	-	-
子宮形態異常	-	-	1	-	-	1	-
甲状腺機能低下症	-	-	-	-	1	-	-
糖尿病(含GDM)	-	-	-	-	-	2	2
ウイルス性肝炎(※1)	-	-	-	1	-	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	-	7	10	9	5	11	4
妊娠高血圧症候群	-	1	3	4	2	-	-
胎児発育不全	-	1	1	2	-	-	1
多胎妊娠	-	-	-	1	-	-	-
産後出血(※3)	-	-	-	5	-	-	-
弛緩出血(※4)	-	-	-	-	-	11	10
常位胎盤早期剥離	-	-	-	1	-	-	-
低置胎盤	-	-	1	-	-	1	-
血液型不適合	-	-	-	2	1	1	1
先天異常	-	-	-	2	-	1	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量 800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他(例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	5	-	-	-	-	-	-
子宮摘出術	5	-	-	-	1	-	-

10 輸血治療症例(例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
輸血治療症例数	-	-	-	-	1	-	-

11 多胎妊娠(例)

該当なし

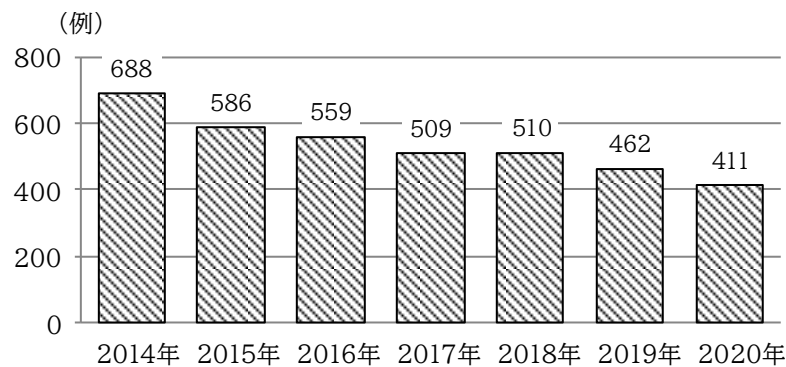
12 先天異常(例、重複あり)

疾患名	2018年		2019年		2020年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常(合指/多指)	1	-	-	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	2	1	-	-

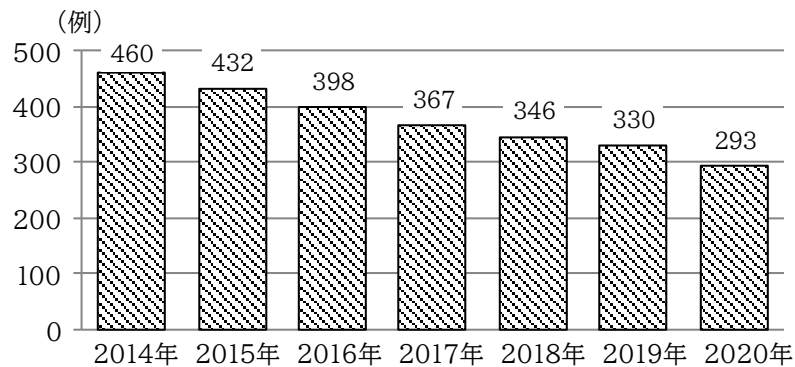
(※2018年より新規集計)

第5 桜井病院

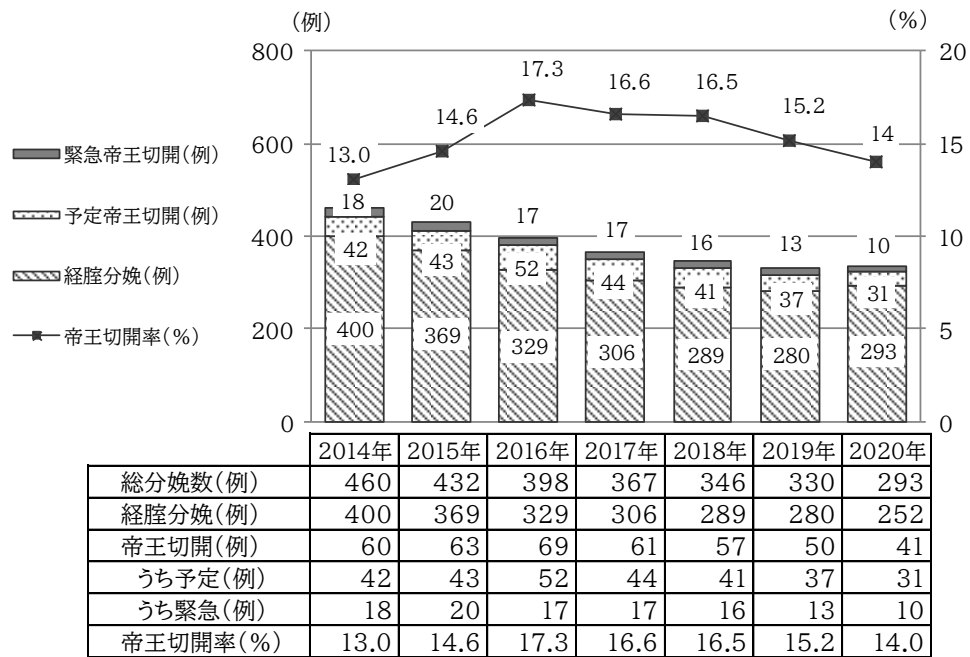
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

36週での分娩は2例ともに、前期破水をともなうものであった。

39週未満は減少、40週以上が増加している。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
34週	-	1	-	-	-	-	-
35週	-	-	-	-	-	-	-
36週	7	5	4	5	3	4	2
37週	68	62	80	63	54	60	50
38週	70	74	65	66	46	65	40
39週	123	145	129	113	116	83	77
40週	144	102	88	89	95	87	91
41週	48	42	30	31	31	31	33
42週以上	-	1	-	-	1	-	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1,500-1,999g	-	-	-	-	-	1	-
2,000-2,499g	17	17	23	13	19	28	17
2,500g以上	443	415	373	354	327	301	276

6 出産時年齢 (例)

35歳未満のうち、20歳未満に当たる若年妊婦は1名であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	360	344	304	278	266	256	240
35-39歳	87	78	83	78	66	61	49
40-44歳	13	10	9	11	14	13	4

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	9	10	4	5	6	9	9
子宮筋腫(核出術後)	-	1	-	2	2	2	-
卵巣嚢腫(腫瘍)	3	6	10	1	8	4	5
子宮頸癌(含円錐切除後)	1	2	1	-	1	1	-
子宮形態異常	-	-	-	-	-	1	1
甲状腺機能亢進症	4	4	-	3	2	5	4
甲状腺機能低下症	5	7	10	12	16	6	10
糖尿病(含GDM)	3	3	4	5	4	5	8
喘息	2	-	1	2	3	8	4
本態性高血圧	-	-	-	-	1	-	-
循環器疾患	-	-	-	-	3	1	5
精神科疾患(含てんかん)	1	-	4	2	1	-	3
ウイルス性肝炎(※1)	2	-	-	1	-	1	-
消化器疾患(※2)	1	-	2	1	1	1	-
その他	12	-	4	5	-	10	9

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

弛緩出血例による分娩様式は4例とも経陰分娩であり、うち1例が癒着胎盤であった。その他のうち1例は妊娠後期にサイトメガロウイルス（CMV）抗体の陽転化を認め、新生児の尿中CMV核酸検査陽性で高次医療機関を紹介している。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	7	3	5	4	1	67	57
妊娠高血圧症候群	5	3	1	5	8	3	4
胎児発育不全	6	-	-	-	-	1	2
産後出血(※3)	8	11	4	4	1	-	-
弛緩出血(※4)	-	-	4	4	6	-	4
常位胎盤早期剥離	5	5	1	2	1	-	1
低置胎盤	1	4	1	2	1	-	2
血液型不適合	-	6	3	2	3	3	5
羊水過多	-	-	-	-	-	-	-
羊水過少	-	-	-	-	-	-	-
先天異常	5	8	7	2	8	4	7
その他	-	-	-	1	6	3	4

※1 入院のみ、2014年～2018年は未集計／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／

※4 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮頸管縫縮術	-	1	-	-	2	1	-
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	10	-	-	2	-	-
その他	-	-	-	-	2	1	-

10 輸血治療症例（例）

該当なし

11 多胎妊娠（例）

該当なし

1 2 先天異常（例、重複あり）

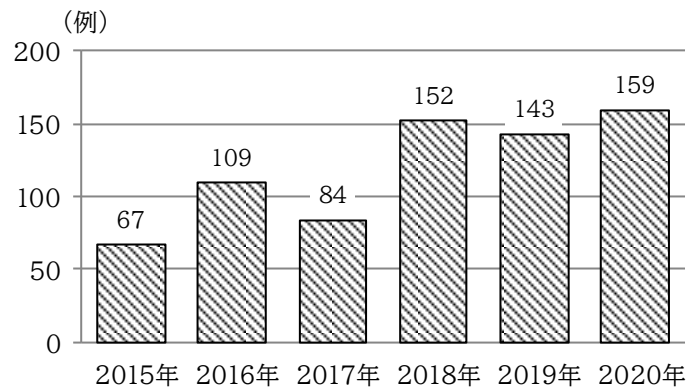
疾患名	2018年		2019年		2020年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常(合指/多指)	1	-	-	-	1	-
心室中隔欠損	-	-	2	2	1	1
ファロー四徴症	-	-	1	-	-	-
水腎症	8	8	2	2	1	2
内臓錯位	-	-	-	-	1	1
口唇裂・口蓋裂	-	-	-	-	1	1
肺動狭窄	-	-	-	-	1	-
肛門ポリープ	-	-	-	-	1	-

(※2018年より新規集計)

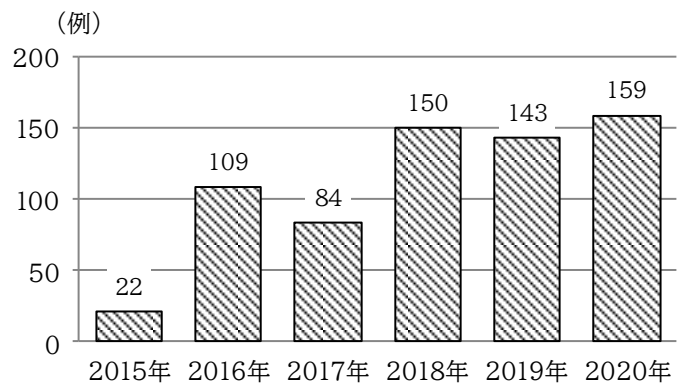
第6 生駒市立病院

※2015年については、2015.6.1（開設日）～2015.12.31の期間で集計している。

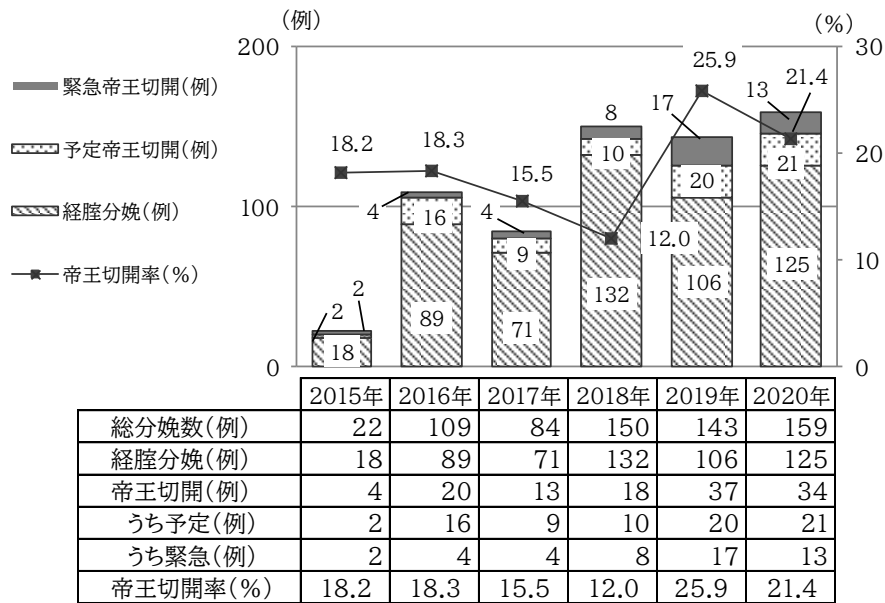
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

35週以前の早産はNICUのある施設に搬送している。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35週	-	-	-	1	-	-
36週	-	1	-	11	1	1
37週	-	6	8	8	14	12
38週	9	31	14	30	28	32
39週	8	28	30	42	35	52
40週	4	33	26	47	55	52
41週	1	10	6	11	9	11
42週以上	-	-	-	-	1	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

2,000g未満の児が出生することが予測される際には高次施設に母体搬送している。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-	-
2,000-2,499g	1	3	2	13	12	8
2,500g以上	21	106	81	136	131	152

6 出産時年齢 (例)

出産の高年齢化が進んでいる。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	15	67	50	101	131	113
35-39歳	4	35	23	39	10	35
40-44歳	3	7	10	10	2	11
45歳以上	-	-	1	-	-	-

7 合併症妊娠 (例)

リスクのある妊婦に対して糖負荷試験を実施し、GDMと診断し糖尿病内科と連携して対応した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	-	1	-	7	2	4
子宮筋腫(核出術後)	-	2	2	2	4	1
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	-	1	-	-	3
子宮頸癌(含円錐切除後)	-	-	-	1	-	9
甲状腺機能亢進症	-	-	1	1	-	-
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	1	5
糖尿病(含GDM)	-	1	3	4	7	12
喘息	-	-	3	2	2	3
本態性高血圧	-	-	-	1	-	-
自己免疫疾患	-	-	-	1	-	-
精神科疾患(含てんかん)	-	-	1	-	-	2
ウイルス性肝炎(※1)	-	-	-	-	1	-
消化器疾患(※2)	-	-	2	-	-	1
その他	-	-	2	1	1	1

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など/※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症(例、重複あり)

リスクのある妊婦が多くなり、他科と連携し診療した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	1	3	2	2	-	-
妊娠高血圧症候群	1	2	3	4	4	19
胎児発育不全	-	-	1	-	-	1
多胎妊娠	-	-	-	-	1	1
前置胎盤	1	1	1	-	2	2
産後出血(※3)	-	1	-	-	-	-
弛緩出血(※4)	-	-	-	1	7	5
低置胎盤	-	-	-	1	-	-
血液型不適合	-	-	-	1	-	2
羊水過多	-	7	-	-	-	-
羊水過少	-	8	-	-	-	-
先天異常	-	1	-	-	1	-

※1 入院のみ/※2 早産期/※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合/※4 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他(例)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮頸管縫縮術	-	-	-	-	1	1
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	3	6	10	11	-	-
子宮摘出術	7	3	11	6	-	-
その他	-	-	31	32	2	-

10 輸血治療症例(例)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
輸血治療症例数	-	-	2	-	3	1

11 多胎妊娠(例)

	2018年	2019年	2020年
双胎	-	1	1
うちMD(※1)	-	-	-
うちDD(※2)	-	1	1
うち不明	-	-	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎/※2 二絨毛膜二羊膜双胎
(※2018年より新規集計)

1 2 母体搬送収容数（例）

助産所からの搬送を嘱託医として受け入れた。

	2020年
母体搬送収容数	1

1 3 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2020年
切迫早産(入院のみ)・ 前期破水(早産期)	1

1 4 先天異常（例、重複あり）

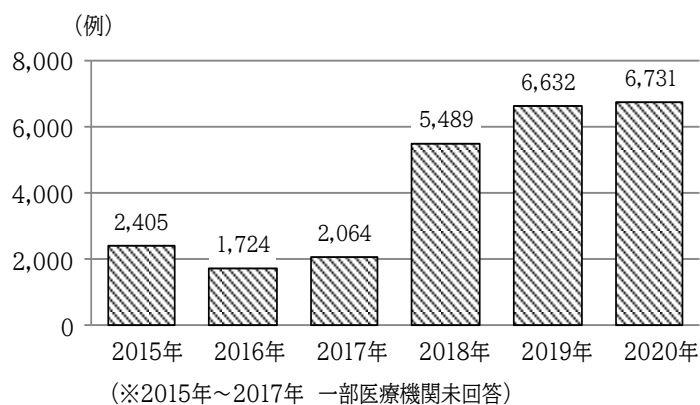
疾患名	2018年		2019年		2020年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
口唇裂・口蓋裂	-	-	1	-	-	-

(※2018年より新規集計)

第7節 県内分娩取扱診療所

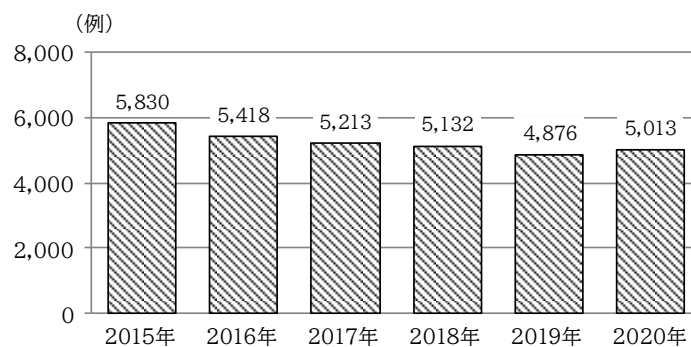
1 入院数

入院数は6,731例で前年と同様であった。



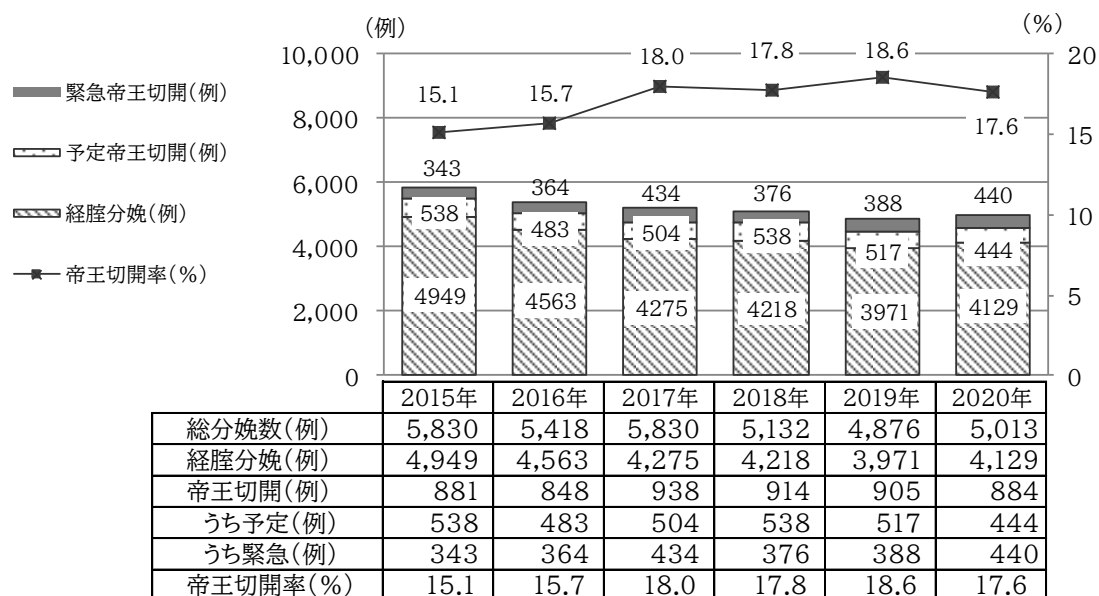
2 分娩数

分娩数は2015年から漸減していたが、本年は5,013例で前年よりは増加した。



3 分娩様式

分娩様式の比率は例年と同様であった。



4 分娩週数(例、死産児は除く)

突発的な早産分娩の症例を数例認めるが、概ね正常産症例が多数を占め、内訳は例年と同様である。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
27週	-	-	-	-	1	-
28週	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	1
30週	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	1	-	-
32週	-	-	-	-	-	1
33週	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	3	1	1
35週未満	3	3	-	-	-	-
35週	15	14	12	11	9	16
36週	98	89	94	91	94	77
37週	458	438	414	401	323	412
38週	1,172	1,133	1,203	1,016	1,101	1,127
39週	1,800	1,714	1,610	1,591	1,508	1,620
40週	1,660	1,513	1,384	1,467	1,398	1,348
41週	536	489	447	513	405	404
42週以上	31	12	26	24	15	8

(※2017年までは、35週未満はまとめて集計)

5 出生体重(例、死産児は除く)

出生体重は例年と同様である。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1,000-1,499g	-	-	-	-	1	-
1,500-1,999g	10	2	6	8	5	5
2,000-2,499g	280	244	247	250	198	225
2,500g以上	5,163	5,162	4,942	4,860	4,645	4,785

6 出産時年齢（例）

出産時年齢は例年と同様である。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	4,118	4,043	3,877	3,832	3,633	3,853
35-39歳	1,158	1,171	1,099	1,089	1,016	1,003
40-44歳	180	207	226	210	223	159
45歳以上	2	-	6	1	4	4

(※2020年は死産6例を含む)

7 合併症妊娠（例）

子宮筋腫症例を含め、合併症妊娠総数の減少を認めた。これは合併症妊娠の高次医療機関への紹介がより行われるようになってきているためと考える。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	58	103	47	73	92	38
子宮筋腫(核出術後)	18	18	12	10	17	6
卵巣嚢腫(腫瘍)	26	20	19	21	18	15
子宮頸癌(含円錐切除後)	13	14	10	10	9	12
子宮形態異常	3	7	1	3	3	2
甲状腺機能亢進症	13	12	13	10	15	17
甲状腺機能低下症	21	22	28	34	29	41
糖尿病(含GDM)	9	20	40	18	18	22
喘息	27	28	46	56	41	52
慢性腎炎	-	-	1	-	-	-
本態性高血圧	3	-	-	-	6	-
ITP	-	2	1	-	-	-
自己免疫疾患	1	-	4	3	2	1
循環器疾患	3	-	1	4	2	-
精神科疾患(含てんかん)	16	13	5	10	12	7
ウイルス性肝炎(※1)	13	9	5	4	2	4
消化器疾患(※2)	8	2	6	1	3	11
その他	1	1	7	45	16	9

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

例年と同様の産科合併症症例を認めた。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	268	455	146	242	229	243
妊娠高血圧症候群	84	77	55	119	111	100
胎児発育不全	41	38	82	30	58	34
多胎妊娠	2	4	1	3	3	2
前置胎盤	3	2	-	1	-	3
産後出血(※3)	168	165	75	117	55	-
子癇	-	-	-	1	-	-
弛緩出血(※4)	-	-	-	150	107	159
常位胎盤早期剥離	8	12	9	20	10	8
HELLP症候群	3	1	1	1	3	2
低置胎盤	5	17	15	3	8	8
血液型不適合	18	14	13	9	8	8
羊水過多	11	33	24	15	16	11
羊水過少	26	47	38	53	51	34
先天異常	24	6	7	36	17	13
その他	8	13	2	1	2	4

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

例年と概ね同様の産科手術症例を認めた。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮頸管縫縮術	23	4	10	20	28	11
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	7	2	1	-	-	1
産道血腫除去術	11	6	6	5	7	11
子宮動脈塞栓術	-	-	2	-	-	-
その他	5	1	-	-	12	-

10 輸血治療症例(例)

例年に比して輸血症例の減少を認めた。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
輸血治療症例数	14	8	8	7	10	2

11 多胎妊娠(例)

多胎妊娠は例年通りごく少数の症例を認めるのみであった。

	2018年	2019年	2020年
双胎	3	3	2
うちMD(※1)	2	-	1
うちDD(※2)	1	3	1

※1 一絨毛膜二羊膜双胎/※2 二絨毛膜二羊膜双胎
(※2018年より新規集計)

12 先天異常(例、重複あり)

先天異常症例の胎内診断率の上昇を認めた。

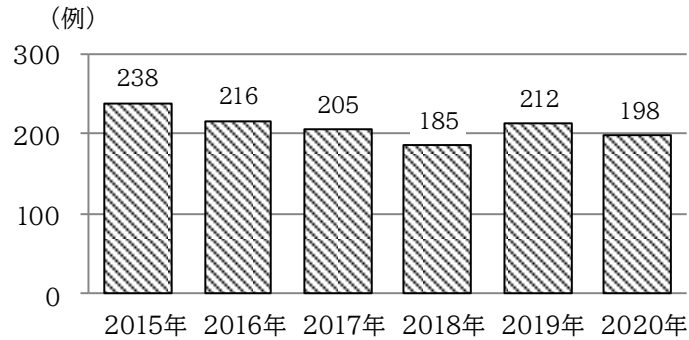
疾患名	2018年		2019年		2020年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	4	1	1	1	-	-
手指異常(合指/多指)	1	-	-	-	6	-
先天性横隔膜ヘルニア	2	-	2	-	-	-
心室中隔欠損	6	-	5	-	15	5
胎児水腫	1	1	1	1	-	-
小腸閉鎖	1	1	-	-	-	-
無頭蓋症	-	-	-	-	1	1
尿道下裂	-	-	-	-	4	-
口唇裂・口蓋裂	2	-	4	1	2	-
不整脈	1	-	-	-	-	-
無脳症	-	-	-	-	1	-
ファロー四徴症	1	-	-	-	1	-
水腎症	-	-	-	-	7	7
鎖肛	1	-	-	-	1	-
卵巣嚢腫	2	2	-	-	-	-
尿道閉鎖	1	-	2	-	-	-
大動脈離断症	-	-	1	1	-	-
血管腫	13	-	1	-	-	-

(※2018年より新規集計)

第8節 県内分娩取扱助産所

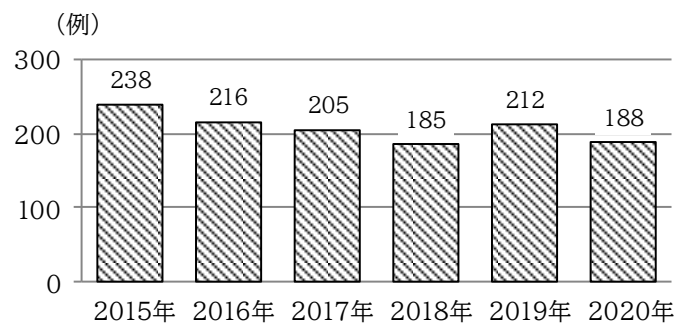
1 入院数

本年に8施設(3月31日付け1施設閉院)で211例の妊婦管理が行われ、198例が分娩開始での助産所入院となっている。前年までは入院後の転院についての集計は実施されていなかった為、変動についての比較はできない。



2 分娩数

198例が分娩開始し入院したが10例が転院搬送となっている。搬送先は嘱託医が50%。原因は遷延分娩が50%である。



3 分娩週数 (例、死産児は除く)

新型コロナウイルス感染症により行動制限される日常で予定日超過が増加すると予測していたが、約96%が40週6日までの自然分娩となっている。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
37週	14	-	12	9	18	7
38週	35	10	44	36	37	39
39週	94	43	68	66	73	74
40週	87	69	62	68	62	60
41週	7	84	19	6	22	8
42週以上	1	10	-	-	-	-

4 出生体重 (例、死産児は除く)

本年は2,500g以上の出生体重が全例となる。

報告では、妊娠35週でFGR疑いのため嘱託医管理となった例があり、嘱託医にて39週0日2,206gで出生した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
2,000-2,499g	1	3	2	1	7	-
2,500g以上	237	213	203	184	205	188

5 出産時年齢 (例)

本年は35歳以上の分娩取扱が30%となっており、病院は25%、診療所は24%で助産所が高値となっている。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
35歳未満	183	141	146	133	126	133
35-39歳	48	67	50	44	73	51
40-44歳	7	9	9	8	12	4
45歳以上	-	-	-	-	1	-

6 合併症妊娠（例）

助産業務ガイドライン 2019 に、助産所分娩取扱可能な妊婦適応リストが掲載されており、様々な合併症や既往歴によりレベル分類され、助産所分娩を希望しても受入不可となる症例も多い。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮筋腫	3	1	5	-	1	4
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	-	3	-	-	-
甲状腺機能亢進症	1	-	-	-	-	-
精神科疾患(含てんかん)	1	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	1	-

7 産科合併症（例、重複あり）

前年の産後出血 12 例は、本年と同様に羊水含む 800ml 以上の例である。

前年は 5.6%だった産後出血症例が本年は 1%と減少しており、その要因として嘱託医との包括的指示による積極的管理が行われた結果であるかの評価は今後の継続した動向をみる必要がある。

「その他」の 1 例は癒着胎盤である。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
切迫早産・前期破水	8	8	12	6	4	-
胎内胎児発育制限	2	-	-	1	-	-
産後出血(※1)	-	-	1	3	12	-
弛緩出血(※2)	-	-	-	-	-	2
常位胎盤早期剥離	-	-	-	-	-	1
先天異常	-	-	-	2	1	-
その他	-	1	-	1	1	1

※1 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※2 羊水を含む出血量800ml以上(帝王切開1500ml以上)の例、2015年以前は未集計

8 助産所からの母児の転院症例（例）

助産所は医療法により安全確保の為に、嘱託医師および嘱託医療機関を定め、さらに本県では後方支援病院として奈良医大や県総合と契約が執り行われている。

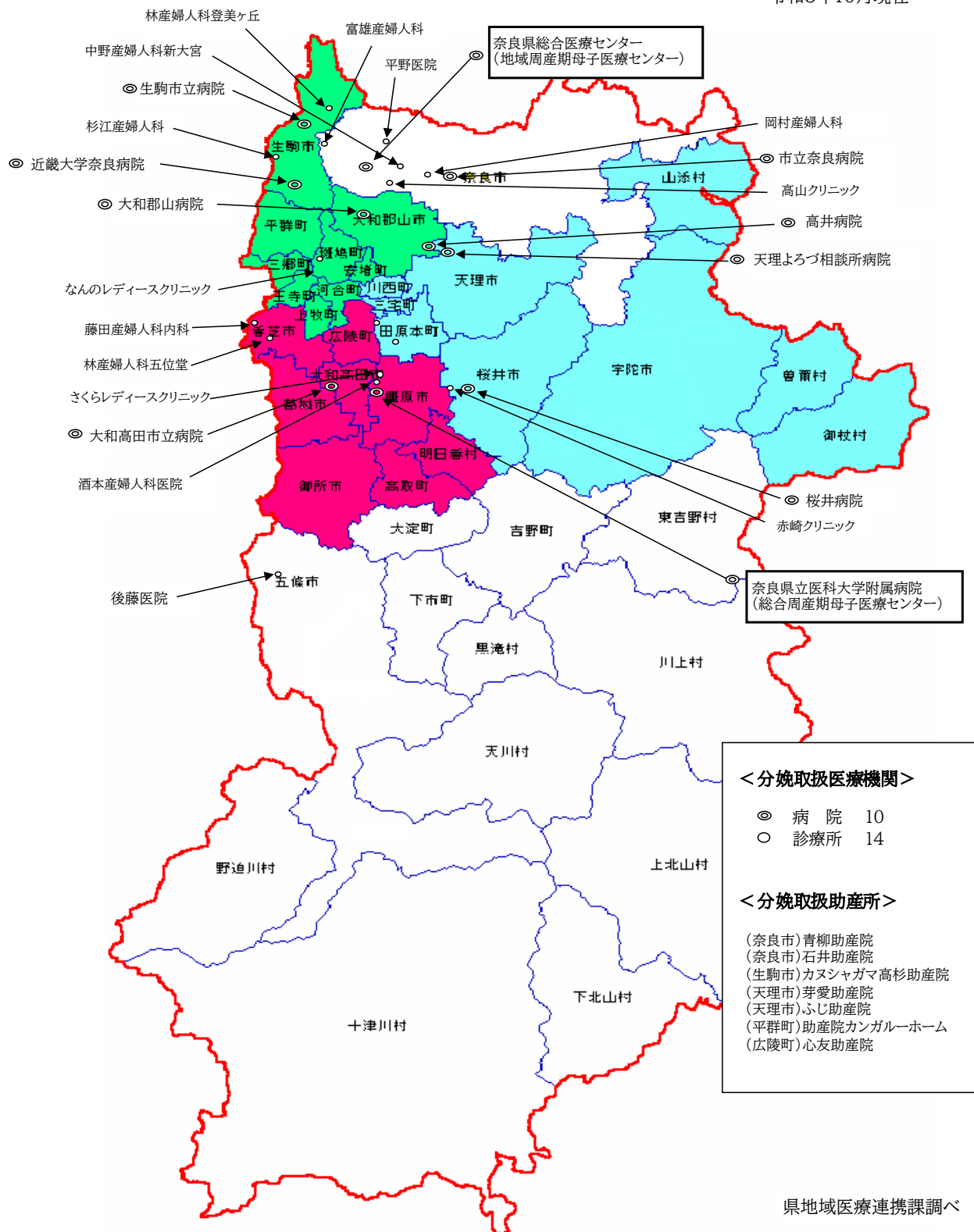
妊娠中の転院は切迫早産による症例が 6 例と最も多く、そのうち 5 例は 36 週未満で奈良医大や県総合への救急車による搬送となっている。分娩時は遷延分娩が原因で嘱託医に転院している症例が最も多く、奈良医大や県総合への転院は、胎児心音異常が 2 例、常位胎盤早期剥離、癒着胎盤、弛緩性出血が各 1 例となっている。新生児では呼吸障害が 2 例、遷延性黄疸が 1 例となっている。緊急性の高い症例については助産所から直接、県総合や奈良医大に連絡しスムーズな受け入れが行われている。

転院先	2020年		
	妊娠中	分娩中	新生児
嘱託医	6	6	-
奈良医大	3	2	1
県総合	4	4	2

参考資料

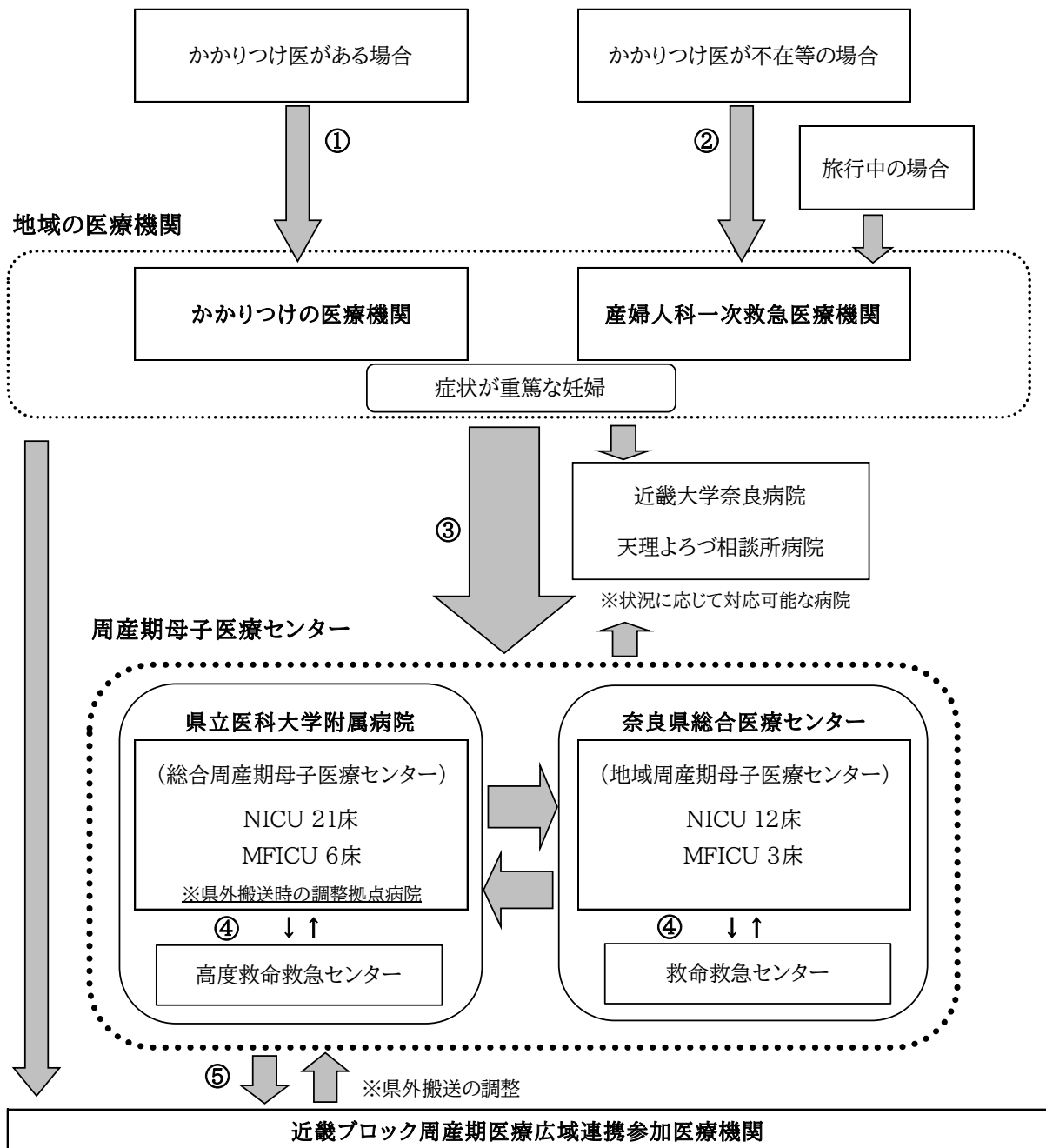
1. 奈良県産婦人科(周産期)医療体制図

令和3年10月現在



2. 母体搬送連携イメージ

令和3年10月現在



- ① かかりつけ医がまず対応
- ② かかりつけ医がいないもしくは対応できない場合は、産婦人科一次救急医療機関が対応
- ③ かかりつけ医、産婦人科一次救急医療機関等地域の医療機関で対応ができない症状の場合は、周産期母子医療センターが対応（状況に応じて近畿大学奈良病院、天理よろづ相談所病院が対応）
- ④ 周産期母子医療センターにおいて産科合併症以外の合併症等の重篤な症状の場合は、必要に応じて併設する救命救急センターと連携し、対応
- ⑤ 万一母体の県外搬送が必要になった場合は、近隣府県の広域搬送調整拠点病院を通じて、早急に県外搬送先を選定し、搬送

3. 産婦人科一次救急体制参加医療機関

(地域別、五十音順)
(令和3年10月現在)

地域	医療機関名	住所及び電話番号
北和	岡村産婦人科	奈良市西木辻町30 0742-23-3566
	きよ女性クリニック	奈良市石木町50-1 0742-53-0411
	市立奈良病院	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1251
	杉江産婦人科	生駒市本町1-11-3 0743-75-0123
	富雄産婦人科	奈良市三松4-878-1 0742-43-0381
	中野産婦人科	奈良市四条大路1-3-57 0742-30-0039
	なんのレディースクリニック	生駒郡斑鳩町興留5-14-8 0745-75-5623
	大和郡山病院	大和郡山市朝日町1-62 0743-53-1111
中南和	赤崎クリニック	桜井市大字谷111 0744-43-2468
	酒本産婦人科	橿原市内膳町4-4-26 0744-25-3389
	桜井病院	桜井市桜井973 0744-43-3541
	内藤医院	桜井市桜井996 0744-42-2138
	林産婦人科五位堂医院	香芝市真美ヶ丘一丁目13-27 0745-71-5201

4. 産婦人科救急対応マニュアル(抜粋)

1. 一次救急編

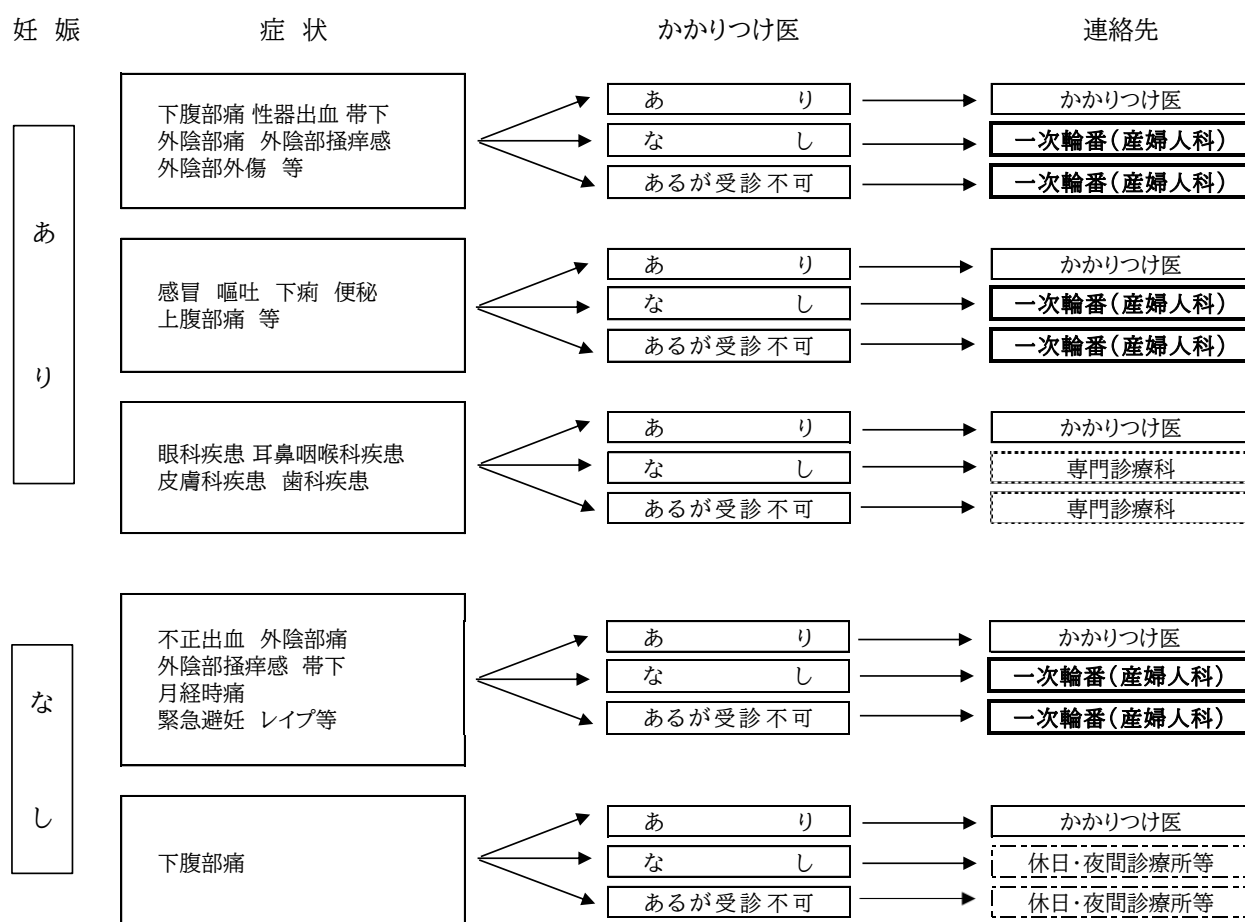
このマニュアルは、休日・夜間等に救急要請や受診要請があった際に、産婦人科の受診が必要か、その他の診療科の受診が必要かの判断をするための、目安とするためのチェックリストとして作成いたしました。

このマニュアルは救急隊が患者と直接の電話対応に使用したり、医事受付担当者や守衛等が休日・夜間等に受付を行なう際に最低限必要な情報を確認し、診療科の判断が出来るように作成しています。

実際は医事受付担当者等が患者との対応を行なう例もありますが、本来患者との電話対応は医師、看護師が行なうことが望ましいのはいうまでもないため、医事受付担当者等は医師、看護師等との連絡を密に取った上で対応に当たるよう努めてください。

なお、マニュアルの使用前に一般救急として必要な項目の聞き取り等は、別に行なってください。その結果、産婦人科受診が必要と認められた場合にご使用いただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルにかかわらず、緊急度が高い際にはそれぞれ関係者の判断により対処いただきますようお願いいたします。



5. 県内分娩取扱医療機関一覧

令和3年10月現在

医療圏	医療機関名		住所
奈良	1	奈良県総合医療センター	630-8581 奈良市七条西町897番5号
	2	市立奈良病院	630-8305 奈良市東紀寺町1-50-1
東和	3	高井病院	632-0006 天理市蔵之庄町470-8
	4	天理よろづ相談所病院	632-0015 天理市三島町200番地
	5	桜井病院	633-0091 桜井市桜井973
西和	6	大和郡山病院	639-1013 大和郡山市朝日町1-62
	7	近畿大学奈良病院	630-0227 生駒市乙田町1248番-1
	8	生駒市立病院	630-0213 生駒市東生駒1-6-2
中和	9	奈良県立医科大学附属病院	634-0813 橿原市四条町840
	10	大和高田市立病院	635-0094 大和高田市磯野北町1番1号
病院 計		10	
奈良	11	高山クリニック	630-8031 奈良市柏木町190-5
	12	富雄産婦人科	631-0074 奈良市三松4丁目878番1
	13	平野医院	631-0821 奈良市西大寺東町2-1-52
	14	岡村産婦人科	630-8325 奈良市西木辻町30番地の10
	15	中野産婦人科新大宮	630-8014 奈良市四条大路1丁目3-57
東和	16	赤崎クリニック	633-0053 桜井市大字谷111
西和	17	杉江産婦人科	630-0257 生駒市元町1丁目11-3
	18	林産婦人科登美ヶ丘	630-0115 生駒市鹿畑町55番1
	19	なんのレディースクリニック	636-0123 生駒郡斑鳩町興留5丁目14-8
中和	20	酒本産婦人科	634-0804 橿原市内膳町4-4-26
	21	さくらレディースクリニック	634-0803 橿原市上品寺町528
	22	藤田産婦人科	639-0251 香芝市逢坂7丁目130番地の1号
	23	林産婦人科五位堂	639-0223 香芝市真美ヶ丘1-13-27
南和	24	後藤医院	637-0041 五條市本町1-7-23
診療所 計		14	
奈良	25	青柳助産院	630-8036 奈良市五条畑1丁目17番10-1号
	26	石井助産院	630-8107 奈良市奈保町5番21号
東和	27	芽愛助産院	632-0094 天理市前栽町274-1
	28	ふじ助産院	632-0063 天理市西長柄町388-2
西和	29	カヌシャガマ高杉助産院	630-0136 生駒市白庭台3丁目15番10
	30	助産院カンガルーホーム	636-0904 生駒郡平群町三里139-9
中和	31	心友助産院	635-0823 北葛城郡広陵町三吉 赤部 260-3
助産所 計		7	

(県地域医療連携課調べ)

6. 奈良県周産期医療協議会委員名簿

令和3年3月31日現在

区 分	役 職	氏 名
総合周産期 母子医療センター	奈良県立医科大学附属病院 産婦人科学教室准教授	川口 龍二
	奈良県立医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター病院教授	西久保 敏也
関係団体	奈良県産婦人科医会長	赤崎 正佳
地域周産期 母子医療センター	奈良県総合医療センター 産婦人科統括部長	喜多 恒和
	奈良県総合医療センター 産婦人科部長	佐道 俊幸
	奈良県総合医療センター 新生児集中治療部長	箕輪 秀樹
病 院	近畿大学奈良病院 産婦人科教授	大井 豪一
	近畿大学奈良病院 小児外科教授	米倉 竹夫
	天理よろづ相談所病院 産婦人科部長	藤原 潔
	市立奈良病院 産婦人科部長	原田 直哉
助産師会	奈良県助産師会	西川 佐稲子
消 防	奈良県消防長会救急部会長 (奈良市消防局救急課長)	谷手 浩司
奈 良 県	福祉医療部 医療政策局長	鶴田 真也

7. 令和2年周産期医療年報編集会議委員名簿

所 属		氏名
奈良県立医科大学附属病院	産婦人科学教室講師	成瀬 勝彦
	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門医局長	釜本 智之
奈良県総合医療センター	産婦人科統括部長	喜多 恒和
	産婦人科部長	佐道 俊幸
	新生児集中治療部医長	恵美須 礼子
近畿大学奈良病院	産婦人科教授	大井 豪一
	小児外科教授	米倉 竹夫
天理よろづ相談所病院	産婦人科副部長	富田 裕之
市立奈良病院	産婦人科部長	原田 直哉
大和郡山病院	産婦人科医長	水田 裕久
大和高田市立病院	産婦人科部長	堀江 清繁
高井病院	産婦人科師長	河本 由子
桜井病院	産婦人科副師長	森岡 由紀
生駒市立病院	総長	今村 正敏
診療所代表	奈良県産婦人科医会長 赤崎クリニック院長	赤崎 正佳
助産所代表	奈良県助産師会 心友助産院長	西川 佐稲子

8. 令和2年周産期医療年報編集ワーキンググループ委員名簿

所属		氏名
奈良県立医科大学附属病院	産婦人科学教室助教	竹田 善紀
	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門医局長	釜本 智之
奈良県総合医療センター	産婦人科部長	佐道 俊幸
	産婦人科医長	吉元 千陽
	新生児集中治療部医長	恵美須 礼子
近畿大学奈良病院	産婦人科診療講師	西岡 和弘

9. 奈良県周産期医療協議会設置要綱

(目的)

第1条 奈良県における周産期医療の現状と課題を踏まえ、県民が安心して子どもを産み育てることのできる周産期医療の推進に向け、具体的な対応策を協議・検討するため、奈良県周産期医療協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1)周産期医療体制に係る調査分析に関する事項
- (2)周産期医療体制整備計画に関する事項
- (3)母体及び新生児の搬送の受入れ(県域を越えた搬送及び受入れを含む。)に関する事項
- (4)総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターに関する事項
- (5)周産期医療情報センター(周産期救急情報システムを含む。)に関する事項
- (6)搬送の調整に関する事項
- (7)地域周産期医療関連施設等の周産期医療関係者に対する研修に関する事項
- (8)その他周産期医療体制の整備に関し必要な事項

(組織)

第3条 協議会の委員は、次に掲げる者の管理者その他関係者により組織する。

- (1)学識経験者
- (2)周産期医療機関
- (3)周産期医療関係団体
- (4)周産期医療関係行政機関
- (5)その他適当と認められる者

(会長)

第4条 協議会に、会長1人を置く。

- 2 会長は、委員の互選によってこれを定める。
- 3 会長は、会務を総理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。
- 3 委員から特に申し出のあった場合は、代理出席を妨げない。
- 4 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 5 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 協議会の事務局は、奈良県福祉医療部医療政策局地域医療連携課に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年 7月26日から施行する。

この要綱は、平成26年 4月 1日から施行する。

この要綱は、平成30年 4月 1日から施行する。

奈良県周産期医療年報

令和3年（2021年）12月

発行 奈良県周産期医療協議会